

336  
201



始







國民經濟學原論 第五冊 運營

貴族院議員 澤柳政太郎序文  
獨逸ドクトルグスタフ・シユモラー原著  
東京高等商業學校 文藝學士 山田伊三郎譯補

大正 4. 5. 7 内交

東京

合資會社 富山房發兌



運  
營



譯補の稿必らずしも期せずして略ぼ大成し偶然にして公版の運に際會したると、又一には既に第一冊序文に一言したるが如く、千九百〇八年版原本第一冊の増補部分「たゞ單にその末段企業論」が余の觀る所を以てして寧ろ重大視するに足らざるとに職由し、本譯補の第一冊より第四冊に至るまでは始めに序説したるが如く千九百〇一年公版の原本に依り、本冊(即ち第五冊)より第九冊(最終)に至るまでの原本は千九百〇四年の公版に繋れり。而して本冊以下の原本が余の知る限りその最新版たるは余の見地は別とし、この公版事業をや、客觀的に觀て聊か自然の幸福と謂つべきか。尙ほこれ等のことに就きては譯補第一冊の序に應じ第九冊の跋にて言及する所あるべし。

さて本冊以下第九冊に至るまで、換言すれば本譯補の後半全體に亘りて一言せんに、この後半の大部分は特殊國民經濟學に立ち入り—從てその個々部分殊に特殊的立法には敢て論及せざれども、而かもその大體は第十九世紀に於ける斯學の發展を理解する上に重要なれば、これを看却するを容さざらんとせり。本譯補の第八冊及び第九冊に該當せる領域將たその問題は第一冊概論と照應し、



而して余の最も感興淺からざる部分なり、「シュモラー」曰、余の特殊研究に従事するところ、四十年来を越ゆ、而してその目的はこれを以て一般問題に資し、總體貌を闡明せんとするに在りと、これ實に「シュモラー」が爾他經濟學者と別の天地を開拓せる所以、余が敢てこれを日本社會に紹介せんとしたる發意も亦凡そ發意なるもの朦朧として詳細には表示し難けれどもこの點に在りて存すべし。但し「シュモラー」これを肯んずるや否や、將た余の譯補を閲する者余と同一見解をとるや否やは、必らずしも余の顧慮せざらんと欲する所たり、新歴史派國民經濟學の如くにして始めて斯學の根底確立せらるべく、斯學も亦到底その哲學上の基礎を究明せずんばあるべからずとは、余の所信所感を聊か提供せるまでにて併せてこの大なる實例たる「シュモラー」原論を我が國語として大方諸君子の考量を煩はさんとするのみ。

大體上形式的分類を許さば、譯補の第五册(本册)より第七册に至るまでは、從來經濟學若しくは現に新歴史派以外の經濟學者が所謂國民經濟學として取扱へる所にして、その個々部分に就ては「シュモラー」に優りて銳利なる解釋に出でたる

ものこれなしとせず。「シュモラー」が力めて理論の正確を期し、屢氣樓的空想に陥らざらんが爲めに、未だ概論を容さざるものは則ち單に記述に止めたるが如きは、その一方に廣汎なる概論と相俟て大に多とすべく、この努力に繼ぎて起るもの能く概論を忘れずんば遂に徒事ならざるべし、今日にしてこれを読するに漸くその端を啓くに過ぎざるものあり。「シュモラー」曰、余はこれより再び特殊研究に歸り、余の後半生を經濟史一般及びフロイセン史に貢獻すべし、蓋しこれ余が甘んじて一生を貢ぐべき絶好問題たればなりと、老儒愈々盛なりと言ふべきなり。

本册に收むる所は一に交通、市場及び商業なり、二に經濟的競争なり、三に度量衡及び幣制なり、四に價值及び價格なり。何れも從來經濟學に掲げらるる所、たゞその立脚點と從て結論とに新歴史派の特色を認めざる可らず。分册紙數の都合上これを以て一册となせども、以下二册殊に第六册は本册(第五册)と合せて通覽すべき性質の問題を取扱へり、第八册及び第九册はやゝ別に、殊に政策的方面に研究を進め、第九册末段に至りては再び哲學問題、歴史哲學的及び



社會學的總說を展開せんとす。尙ほそれぞれ冊子の序文として叙述する所あるべし。

四

大正四年四月

山田伊三郎識

# 目次

## 第三卷

### 財流通及び所得分配の社會的過程 (上册)

- 一 交通、市場及び商業……………
- 百四十八 概論、交通及び商業—百四十九 交通の技術的—歴史的事實、舊時代—百五十 第十九世紀に於ける交通の技術的及び經濟的事實、航海、郵便、道路修築—百五十一 第十九世紀に於ける交通の技術的及び經濟的事實、鐵道—百五十二 商業交通の法律秩序及び行政秩序、最古市場の起源、本質及び制度—百五十三 舊市場の分化—百五十四 近世時代の市場制度—百五十五 商業及び商業組織、流通過程に對する爾地階級の參加、(イ)千五百年乃至一千八百五十年の商業—百五十六 商業及び商業組織、(ロ)現今の大小商業及び遍歴商業、商業補助の營業、



投機商業、商品陳列館—百五十七商業及び商業組織、(一)近世發展の結果

二 經濟的競争……………一四六

百五十八經濟的競争の本質、對立諸派の諸見解—百五十九競争關係の諸相—  
百六十—公開及び競争統制、その舊形式、千七百八十九年乃至千八百七十年の  
間に於けるこれが廢止—百六十一—現今自由競争の惡結果及びこれが抑壓、新た  
なる競争統制

三 度量衡制度、鑄貨制度及び貨幣制度……………二〇六

百六十二度量衡制度—百六十三貨幣及び鑄貨の起源—百六十四歐洲貨幣制度  
及び鑄貨制度の第十四世紀に至るまでの時期—百六十五歐洲貨幣制度及び鑄貨  
制度の千三百年乃至千九百年の間の時期—百六十六近世時代の鑄貨制度—百六  
十七金本位、銀本位及び複本位、金貨及び銀貨の問題、その舊時に於ける並存  
流通—百六十八金本位、銀本位及び複本位、近世本位論及び本位法の起源及び

實行—百六十九結論、貨幣經濟の本質及び結果

四 價值及び價格……………三四九

百七十價值一般の概念—百七十一經濟的價值、其の本質、其の種類これが學  
說の發達—百七十二供給及び需要を基礎とせる市場價值—百七十三前節の結論、  
正當相場及び暴利—百七十四過去及び現代の定價制度及び法定價格—百七十五  
交通設備に於ける價值及び價格の決定、交通定貨率—百七十六需要の分拆、需  
要の一般的特徴及びその歴史的大變動、食料品の需要—百七十七需要の分拆、  
所得統計及び家政豫算より觀たる需要の近世總體額—百七十八需要の分拆、需  
要の個々動搖—百七十九供給の分拆、供給の成分、供給を規定する生産力の範  
圍、供給の舊三分類—百八十生産費用の分拆—百八十一生産費の價值に及ぼす  
影響—百八十二貨幣價值、貴金屬及び貨幣の供給需要—百八十二④貨幣價值及  
び一般相場運動、その結果—百八十二⑤紙幣相場及び紙幣本位

第三卷目次(上册)終





國民經濟學原論

ジ・モラー原著

山田伊三郎譯補

第三卷 財流通及び所得分配の社會的過程

一 交通、市場及び商業

百四十八

概論、交通及び商業、吾人は既に第一冊に收むる所の概論(譯補第一冊)及び第一卷(譯補第二冊)第二卷(譯補第三冊第四冊)に於て、國民經濟の基礎と社會的組織とを叙述せんことに力めたり、(譯者曰、概論即ち譯補の第一冊は大體に亘りて國民經濟學的認識の根底を討尋し開陳し、第一卷即ち譯補の第二冊は斯學に統合組織せらるべき知識領域の個々方面に就きて、それぞれ現今學術の進歩が認むる限りに大綱を確立し、從てその意味に於て第一冊概論に對し

Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including the number '三' (3) and some illegible characters.



二  
 特殊の叙述と言ふことを得べし、特殊と言ふと雖もたゞ個々部門の分類研究の義にして、もとより原理上の取扱に屬し、その立脚點の特殊のならざることは論を俟たず、譯捕の第三冊及び第四冊は國民經濟の社會組織にして、第三冊は寧ろ人的、自然的、土地的、自然的の組織、即ち主として人間性情の自然を原理とせる家族—かく言ふは彼の「ボサンケ」の著家族に論證せらるゝが如き家族發達史を毫も否認する意味にあらず、即ち家族が三段の發展を遂げ、これが統合力として先づ(一)家長權あり *spiritual tyranny*. 次で(二)土地財產あり *material tyranny*. 遂に(三)道德を基礎とする近世家族の發展あり *modern family*. と言ふを肯ぜざらんと欲するにあらざるなり、單に本來の史實に鑑み、その特色とする點に顧みて、比較上かくの如く攝要するの敢て不當ならざることを信ずるに過ぎず、次に述ぶる所の國家及び企業に就ても亦然り—人間生存の物的地盤たる土地の自然に準據せる領域團體の二組織を論じ、第四冊は寧ろ人的、社會的の組織、換言すれば文明發展の催進力を原理となせる組織を述べたり、「シモラー」をして言はしむれば第三冊及び第四冊即ち原本の第二卷は社會解剖學にして、第三卷即ち社會

生理學を研究すべき準備たるの知識なり)、第二卷に於て吾人が習得したるは社會的機關にして、この機關の發達を俟てこゝに國民經濟體制の成立あり、その協働に依て始めて國民經濟體制の機能を發展し得べきものたり、吾人は今や進んでこの體制の生活を研究し、主として機關凡百の活動たり、これが存立を支持し、これが發達と力とを規定せる個々過程と運動とを叙述せざる可らず、ここに眼目とする所は、交通現象、商業、價值及び價格の總體なり、商品、貨幣及び信用の移轉なり、資本及び勞働の活動及び利用とこれか結果となり、その究竟結果たる所得分配なり、然り而して單に事實上の過程と數量關係とのみに止まらずして、これと等しくその社會的形式及びこれを規定せる制度、並に第二卷の補充として隨處にこれと關聯せる特殊専門の經濟的機關をも論議せられざる可らざるなり、總じて第二卷に於て國民經濟體制の解剖學及び形式論を取扱ひたるに對し、今この第三卷は國民經濟體制に寓せる力及び機關の生理學を究明せざる可らず、これ國民經濟現象の重要な領域にして、第十五世紀乃至第十八世紀の間、近世國民經濟の發達に伴て較著なる發展を遂げ、而して從來



國民經濟學の理論及び文献は久しく主として若しくは絶對的にこの現象のみを以てその研究對象となしたり、(譯者曰、これに關して既に屢々闡説し、補説も亦少しとせず、要するに歴史派國民經濟學の研究はこの從來文献を前提となすべきものなり)、抽象的交通國民經濟學、自利的交換者の理論、市場に關する偏頗なる自然法説はかくの如くにして發達せり、吾人の交通現象の論述はこれと異なり、既に第一冊に辯證したるが如く社會的、發展史的、倫理的見地を基礎となせるものなり。

この第一章に於ては先づ交通の發達と、次で商業の社會的秩序換言すれば即ち商業の法律形式、主として市場制度と、終りに人的方面より觀たる商業の發展とを叙述すべし、これ經濟的流通過程の全發展をこの三方面より開陳せんとするもの、本章の三部分に於ける對象は同一不二、たゞこの對象を先づ交通可能性を立脚點とし、次で社會的市場秩序を立脚點とし、終りに商人の人的組織を立脚點となして論述せんとするの相異なるのみ、本章の後に來るべき利害競争(經濟競争)及び貨幣制度の二章は、本章に叙述する所を補充するものなり。

交通とはこれを廣義に解釋すれば、經濟財、人間及び報知が一地域より他地域に外的、一地方的に移轉することにして、又一人の處理權が他人の處理權に法律的に移轉することとなり、前者は交通手段及び交通設備に依り、後者は契約并に賣買、信用及び其他の取引に俟つ、若し後者を區別して經濟生活の獨立領域と認めんか、通常これを商業とふ概念に包括し、從て交通は單に地域的移轉を意義す、狹義に於ける交通の概念これなり。

この二群の現象は常に相交錯し、賣買は殆んど如何なる場合にも地域變換と關聯し、若しくは地域變換を豫想す、屢々同一地域に家より家に移轉するに過ぎざること勿論なり、殊に大取引、結社、國家行政は、その經濟財を處分する上に、大規模に地域的移轉を實行し、而して毫も私法的財讓渡の關係を生ぜず、而かも狹義に於ける交通の大半は、商事取引將た法律的財讓渡と結合せり、舊時運搬業は多く商品販賣に従事せる商人の手にて營まれ、今日は則ち商品商業と運搬業とを概して分離せり、(第四冊、**百十五**を參照あるべし)、而して購入



及び販賣の取引には特殊の運送契約あり。

凡そ交通及び商業の原因は、土地天産物の相異と、人間それ自體及びその欲望の相異と、分業とに在り、これに就ては第一冊(原本第一冊、譯補にては主として第二冊の土地及び人民の部分と第四冊分業の部分とを参照あれ)に必要な説明を了したれば、更にこゝに論述すべき要なし、こゝに先づ吾人の説明せざる可からざることは、交通及び商業が國民經濟生活に對し、歴史的に漸く如何なる意義をなし來れるか是れなり、吾人は自足經濟の時期より以て現今交通經濟に至るまで、國民經濟の變動に就て一つの體貌を提供せざる可らず、この目的を達せんが爲めに最も有効なる方法は、先づ外的に交通發展—大體に於て同時にこれ商業發展なり—を記述し、而して其間主として運搬手段及び運搬設備の發達を標準として觀察を下すに在り。

**百四十九** 交通の技術的—歴史的事實、舊時代、この事實はこれを三時期に分ちて始めて最も適當に概観することを得べし、三時期を概稱して余は次の如く言はんと欲す、イ、偶然的、原始的近隣交通の最古時期、ロ、頻繁ならざれ

ども定期的なる一地方交通の時期、ハ、大交通の時期、即ち近隣居住者及び國民同胞并に諸國民及び諸國土を連結する大交通の時期。

イ、例へば猶ほ通路なき國土の存在せざるが如く、吾人は少なくとも商業及び交通の發端をも開拓せざる人間と種族とを知らず、既に吾人の窺知し得べき人類發展の最古時代に於て、孔を穿ちたる石、裝飾品、金屬製の機具及び武器は、種族より種族に數百哩の間を傳播せり、今日尙ほ亞弗利加に於ては、最も野蠻なる諸種族の間には、その境界地にて無言の商業行はれ、これを以て個々會長はその需供を交換せり、多少の行商人が大膽に異域に進入するに及びても、かゝる交通は依然として偶然的性質を脱せず、加之屢々長期間中絶の貌を免かれざるなり、行商人は概して少數貴族と接觸するに過ぎず、その供給する所もこれが總需要に對し僅少部分を占むるのみ、是れこの經濟時期に於ては、大體に於て個々人、族黨、家族、種族は、殆んどその使用する所のもの一切を自ら生産し、即ち自足經濟の流行したるが故なり、個々人及び小群は自己に依頼せざる可からず、かゝる時代に於て新開道路と船舶と車輛と未だこれあらざるな



り、擔夫か日々三十キログラムの荷物を十乃至三十キロメートルの遠きに運搬するの辛苦は思ひ半ばに過ぐるものあり、野蠻的なる國際法及び外人法は、屢屢諸種族間の活潑なる接觸を禁止したり、諸種族の内部に於ては、人間皆平等にして分化なければ、交換交通爲めに阻止せられたり、此の如き幼稚なる交通状態は極めて長時期間何等の變動を來たさず、幼稚なる人種は今日尙ほこの發展段階に逡巡せり、かゝる交通段階の隨伴現象としては野蠻的文明あり、最も未熟なる技術あり、困乏生活あり、屢々飢餓及び沈淪状態あるあり。

ロ、農業、都市市場、工業及び貨幣制度の端緒啓くるに伴ひて交通の發達あり、殊に沿岸將た利便なる流域地點に於て、商業國民及び商業都市の繁榮を來たすものあるに及んでも、尙ほ古代に於て、且つは近代に於ても一二世紀以前までは、交通關係大體に於て顯著ならざりき、都市はその周域田舎より食料、家畜及び材木を購入して、これに僅少の都市工業生産物を供給し、更に遠隔せる地域に輸送せられたるは、鹽、雜貨、布帛、金屬製品、寶石、香料の如き、容易に運搬せられ得べき商品に出でず、未だ毫も大量交通あらざるなり、道路

は險惡且つ不完全にして、旅行は徒步若しくは馬背に依れり、單輪推車及び車輛を以てする運搬は、材木、穀物、其他の重量商品に對し十乃至五十キロメートル以上の遠隔地には不可能なり、海洋、大河は久しき間彼我の連絡手段と言はんよりは、寧ろ交通遮斷たり、造船技術も容易に完成の域に到達せず、船體狭小、これを運轉するに舵權に依り非常の犠牲を拂はざる可らず、僅かに沿岸近距離に夏期の間航行せられたるのみ、帆を揚げこれを操縦するの技術は未だ熟達せず、一噸及び二噸、且つは十噸乃至五十噸の積荷量を有する船舶と相並び、漸次にして既に百噸乃至二百噸積(一噸は千キログラム)のものも隨所に建造せられたり、これや、大交通の爲めに先づ發達したる運搬手段なり、(譯者曰、支那に所謂南船北馬も亦抑々かゝる事情に起因せるものなるべし)、この交通手段の發展あり、以て遠隔地域を連絡したる限り、商業は概して若干の所謂商業的小殖民地にて行はれ、こゝにて商品は轉載せられ、賣買せられたり、(譯補の第二冊、人口問題の章を参照あれ、譯者云)、言語を異にし組織を別にせるこの小領域は、商業的嫉妬、關稅、留置權に依て障壁を設けられて、凡そ遠隔地域に亘れる圓



滑なる交通を困難ならしめたり、商業及び交通に従事せる人員は、商業都市は姑く除外例とし、大體より觀て多くは總人口の三乃至五プロセントを越えず、然るに現今に於てはこの人員十一乃至十三プロセントとなり、商業都市に於ては三十乃至それ以上の高率に増大せり。

大體より言へば此時期に於ても尙ほ舊自足經濟は支配したり、遠隔地域に亘れる交通はこの全時期を通じて一切經濟財の僅少部分に過ぎず、一地域の交通及び都市と田舎との交通も亦その十乃至三十プロセントを越ゆること容易ならざりし状態なり、前者即ち遠距離交通は到底不安にして偶然に屬し、やゝもすれば無効に歸すべき交通手段に依頼せざる可らず、主として旅商人に委せられ、運搬取引(即ち船夫、運送人、馬匹及び驢馬の賃貸人)の發展せる限り、これ小規模にして屢々副業たりしのみ、後者即ち一地方交通は幾分確實なる發達と遂げられたるも、その然る所以のものは、これ一日行程にして必らず往いて還るを得べき人々の間に、總じて純地力的交通たりしが故のみ、この全地方交通は尙ほ主として生産者と消費者との間、換言すれば田舎人と都市の手工業者、醸造

業者、小商人及び大商人との間に締結せられたるものなり、遠距離交通は愈々繁多複雑なる中間連鎖を要し、爲めに必然的に益々費用を増大せずんばあらず、その利潤が五十プロセント、百プロセント乃至それ以上に豫期せられざる場合には、危険と困難とを伴ふの理由に依りてこれが發達を望む能はず、これに應じ有利の地域に居を占むる大商人及び舵夫は、愈々大なる利益を收めたり、彼等はその故郷並に支配領域たる異域に、屢々優勢なる貴族となり、加之酋長となり君侯となれり、(第四冊 百十五 参照)。

ハ、國內的並に國際的大交通の第三期は、既に數千年の昔に個々のにその端を發し、千四百年乃至千八百年の間に大に催進せられ、第十八世紀に於て始めて駁々乎たる隆昌を來たせり、これが舊發端は大水路交通を基礎となし、又個々の強大國家主として羅馬人、尙ほ迦れば支那人、個々のアラビア帝國、ペルシアのインカ帝國の發達に係れる大道路修築を基礎となせり、吾人は後段に大交通のこの舊發端を略述せんとす。

島嶼及び沿岸居住の二三民族は、夙に商業及び航海に従事し、これが爲めに



幾分内地及び陸上の交通を看却し、基督紀元前四千年より紀元千八百年に至るまで、通じて國民經濟的進歩の開拓者にして且つ豊裕なる資本主義的國民なりき、「ギョットの調査に依れば、フェニキヤ人、希臘人並に羅馬人の建造に係かる船舶は、既に五百人乃至六百人を乗組せしめ、七百噸乃至八百噸を積載し、而して一日能く二十八哩即ち二百五十五キロメートルを走りたるが如し、これを個々領域に觀察するに、夙に河川及び運河航行の獎勵に依りてや、顯著なる國內交通を發展したるものあり、古代に於ける埃及人及びオイフライト流域住民、次では支那、西班牙、北部伊太利、中世時代に於けるニールランド及びライオン州の如き是れなり、然れども概してこれを言へば、河川航行は多く久しく困難状態に在り、河床の航行に不利なるものあるに加ふるに、城堡及び堰門、關稅及び其他に依りて阻止せられたり、やゝ觀るに足るべき陸上交通も僅に組織強固なる大國家に發達したるのみ、既に強大國家を組織したるものは、先づ軍事上の理由より良道路を開通修築し、殊に羅馬人は、三―四百萬平方キロメートルの領域に亘れるその大帝國に、常に交通に利用し得べきのみならず概して優

良なる道路を開き、その延長實に十四萬キロメートルに達せり、この大道路と且つは從來猖獗を極めたる海賊の危難を排除したるとに依り、羅馬人は一方地方的交通を發達せると相並びて他方大交通を發展し、東は支那及び印度より以て西は西亞弗利加及び北歐羅巴に亘りて、一定種類の財は大規模に交通せられ、幾分大量交通をも實現したり、而かも當時を支配せる商業及び交通の立脚點は、到底これを現代のそれと比較す可らず、交通線路は極めて粗大にして、現今の如くあらゆる居住地を連結せんが如きは思ひも寄らず、クルスス・ブブリクス即ち當時の國家郵便は軍事並行政的的制度にして、商業を目的となさず、大なる集中的交通設備ありて以て確實且つ一樣に、人間、商品及び報告の交通を媒介するが如きは、夢想だも及ばざる所なり、「トリベル」の計算に依れば、歐羅巴より印度へ向け輸出せらるゝ額は、羅馬時代に於て八百萬マルク、第十五世紀に五千萬マルク、現今に於ては則ち二十億マルクに達せり。

羅馬帝國の末葉より殆んど中世時代の末葉に及ぶまでは、商業及び交通の衰退時期に屬せり、然れども多少の要素は存續し、支那人及びアラビア人にあり



ては更に發達を示し、西洋に於ても亦第十三世紀以來第十五世紀に至るまでは個々の、第十五世紀より第十九世紀の初葉に至るまでにや、廣汎なる領域に亘りて、幾多の發展を觀たり、道路はよし伊太利及びニーデルランドに夙に個々に改善せられ、佛蘭西に於て第十七世紀以來、墺地利に於て第十八世紀以來、廣濶なる舗石街の國家に經營せられたるあり、木材及び石材を以てせる個々の橋梁も亦、先づ教會に依り、次で自治體及び國家に依りて造營せられたるものありと雖も、觀概して千七百八十年乃至千八百三十年の間に於ける道路修築術の發達時期に至るまで、極めて劣悪なりしこと論を俟たず、蘇人「マックアダム」の街路造營は千八百二十年のことなり、郵便制度の發達は千六百年以降のことに屬せり、ニーデルランドの運河開鑿は夙に交通を改善し、プロイセンのそれは千六百六十六年以來、佛蘭西のそれは、コルベール以來、英蘭のそれは千七百五十五年以來個々に交通を催進したり、水門の利用は第十五世紀以來運河を以て丘陵を越ゆることを可能ならしめたり、然れども運河は英蘭、佛蘭西、北米合衆國にありて、千七百九十年乃至千八百五十年の間に始めて著大なる意義を

得たり、反之海上の航行は南方歐羅巴并にやや遅れて北方歐羅巴に於て、千五百年以前に既に發達し、千五百年以後は忽ち急速の進歩を効せり、即ち造船の進歩は十五噸乃至百噸の小船より五百噸乃至千噸の大船となり、これに大砲を装置し、羅針盤及び望遠鏡を利用し、技術に依りて益々風力を利用し、以て高賃なる舵夫を不要となせり、千八百年より以前に於て大商業が個々地域に集中せる限り、これ皆沿海地なりき、ヴェネーテ、グヌア、リサボン、ロンドン、アントウエルペン、アムステルダム、ハンブルグ、ニューヨークの如き即ち是れなり、(第二冊 **五十五** を参照せよ)。

かくて千五百年乃至千八百年の間に、始め沿海都市に於て、次では又個々内地の大集中國家に於て、交通及び商業の著大なる隆興現象を觀たり、殖民地商業は殖民地生産品を輸入し、精巧なる製造品が諸國に轉送販賣せられ、穀物商業は和蘭を中心點として國際的特色をとるに至れり、然れども大體に於て千八百年頃の商業及び交通は尙ほ古來の軌道に終始し、同一國土の中僅かに五十哩を相隔つるのみにして一方には穀物過剩と他方には飢饉と並び存せるの怪事な



きにあらざりき、二日行程以上の遠距離より食料品を輸入したるの都市は僅かに數ふべきのみ、大交通も小規模に、地方交通に至りては一層振はず、歐羅巴諸國の殆んど全般にこれを觀察するも、自足經濟は人口及び經濟財の五十乃至九十プロツェントに亘りて支配したる實狀なり。

**百五十**

第十九世紀に於ける交通の技術的及び經濟的事實、航海、郵便、道路修築、第十五世紀乃至第十九世紀の間に發達したる強大國家は、嘗て羅馬帝國の然りしが如く、漸次にして始めて總利害の見地より交通を催進すべきを一般的義務と信じたり、交通及び富の増進は、千八百二十年乃至六十年の交に始めて、概して交通設備に必要缺く可からざる巨大資本を供給したり、交通及び大商業の利害は愈々昂進して、今や日々に益々活潑に充足せられんことを求め來り、新技術はこれに手段を供與し、屢々これが催進の機となれり、造船の改善、河川統制及び運河修築、蒸氣船航海及び鐵道、郵便及び道路工事は相待て以て、千八百三十年以來、殊に著しくは千八百七十年以來、交通發展の上未會有の盛觀を効せり、吾人は後段にこの個々現象をや、詳密に考察せんとなす。

水路は文明國に於て漸次に改造せられ、曳船路を設け、港灣及び波止場に依りて利用せらるゝに至れり、運河修築は増進して、佛蘭西に於ては千七百年に六百七十八キロメートル、千八百年に一千四キロメートル、千八百七十年には四千六百五十六キロメートルの延長となれり、「ジョーマッヘル」の調査に依れば、千八百十四年乃至千八百九十七年の間、佛蘭西は河川及び運河の爲めに十五億フランの巨額を支出せり、「クルス」の計算に徴すれば、獨逸國に於ける人工に成れる航路の建設は、千七百八十六年に至るまでに千百一十一キロメートル、千七百八十六年乃至千八百七十年の間に千六百二十一キロメートル、千八百七十年乃至千八百九十四年の間に九百二十六キロメートルの延長に及び、尙ほ帝國のそれと工事未了のそれとを合算すれば、千八百九十四年に於る人工水路は五千二百六十四キロメートルをなし、その外に航行し得べき河川の延長六千乃至七千キロメートルに達せり、やゝ大型なる内國航行の船舶は千八百四十年に至るまで七十五噸乃至四百噸の間に在り、千八百七十七年より千八百九十七年に至る間に平均して八十噸より百六十噸に増大せり、河川統制及び蒸氣力航行に伴ひ



て多くは六百噸の大型となり、ライン河上に於けるものは既に千噸となり、加之二千噸に及びたり、最近の運河は四百噸及び六百噸乃至八百噸の船型を目的となせり、二千噸の船舶は載積量鐵道に六倍し、ライン河上の主要なる六稅關の交通高は、千八百三十三年に千七百九十萬ツェントネル、千八百五十年に四千六百九十萬ツェントネル、千八百八十六年に八千二百六十萬ツェントネルと計上せらる、獨逸の總水路に就て言へば、その給付したるトンネンキロメートル(運搬貨物の噸數に航行キロメートル數を乗じたるもの)の總量は、千八百七十五年に二十九億、千八百九十五年に七十五億、千八百九十八年に百七億に上れり、鐵道布設時代にありては久しく鐵道交通が主要事項たるべきの觀をなせるが、その千八百七十五年乃至千八百九十五年の間に於ける増加は約百四十三プロツェンツトに出でざるに、内國水路交通は約百五十九プロツェンツトとなれり、千八百九十五年乃至九十八年の間に於ける前者の増加は約二十三プロツェンツトにして、後者のそれは約四十三プロツェンツトなり、これに依てこれを觀るに緩漫なる大量交通は低廉なる水力の利用に依り、大船を使用し水路を修築するを以て容易に發達

ずることを得べし。

海洋航行の發展は内國航行に比して、更に一樣にして且つ大規模なりき。

海洋航行は久しく帆船とその技術的改善とその帆檣の完全なる利用とを基礎となし來れるが、幾ならずして蒸氣力應用と鋼及び鐵材を以てする船體の建造とはこれか綱目となれり、蒸氣力應用の幼稚なる發端は千八百六年乃至三十年の時代に在り、その始めて實際上に大効果を及ぼせるは千八百五十年乃至七十年の時代にして、この蒸氣船に對し從來の帆船が衰退したるは最近三十年のことに屬せり、從來の木造帆船は登録容積二百乃至五百噸にして、その新型なるは二千乃至三千噸なり、大型の蒸氣船は四千乃至五千噸より二萬一千噸に達し、快速力を有する蒸氣船も一萬六千噸に及べり、木造帆船は建造費五萬マルク以下にして快速力を有する大蒸氣船は今日一千萬乃至一千二百萬マルクを要す、今ナウチクスに依り、千八百九十年及び千九百年の兩年度に於ける蒸氣船噸數と帆船噸數とを比較すれば次表の如し。



千八百九十年	千二百八十萬 <small>蒸噸</small>	千五十萬 <small>帆噸</small>	八百萬 <small>蒸噸</small>	三百六十萬 <small>帆噸</small>	九十萬 <small>蒸噸</small>	七十萬 <small>帆噸</small>
千九百年	千九百七十萬 <small>蒸噸</small>	八百三十萬 <small>帆噸</small>	千百萬 <small>蒸噸</small>	二百六十萬 <small>帆噸</small>	百八十萬 <small>蒸噸</small>	五十萬 <small>帆噸</small>

大なる大西洋汽船會社は旅客及び報知の外又益々財交通を掌握せんとするの大勢なり、ハンブルグ、亞米利加汽船會社は千九百一年に於ける調査に依れば、百十七艘の太平洋蒸氣船を經營し、河上蒸氣船と洋上及び河上曳船との百五十二艘を有し、船舶總數二百七十九艘にしてこれが登録噸數六十六萬一千三百五十五噸、その資本は豫備金を合算して一億四千萬マルクの巨額に上れり、今日全世界商業の七十乃至八十プロセントは海上に活動せるが故に、世界交通の中心點は洋上の蒸氣船に在りて存せり、これが給付能力は、「ペーソ」の計算に徴すれば、百キログラムの小麥を十二マルクの費用を以て曩時の田舎道路に依れば百キロメートル、人工道路に依れば四百キロメートル、當初の鐵道に依れば千五百キロメートル、現今の鐵道に依れば四千五百キロメートル、海洋蒸氣船に依れば二萬五千キロメートルの距離に運搬し得べし、「ユラシキ」及び其他學者の計算に従へば、比較的重要なる諸國に於ける海商船舶の運搬能力は、登録噸

數に準據するに(蒸氣船の一噸は帆船の三乃至四噸に等し)、千八百二十年に於て三百八十萬噸、千八百三十一年に於て三百九十萬噸、千八百五十年に於て八百萬噸、千八百七十五年に於て三千廿萬噸、千八百九十八年乃至九十九年に於て六千五百三十萬噸と概算せらる、この給付能力の増加は一對十七の割合にして、且つ嘗て一航海の可能なりし時間に今は二乃至四航海をなし得るか故に、給付は則ち一對三十四より以て一對六十八となるべきなり。

陸路交通は第十九世紀に於ける街路修築の改善に先ち、既に著大の發展をなせり、主として第十六世紀及び第十七世紀に發達したる郵便組織即ちこれなり、舊時政治的及び軍事的權力の樹立ありて廣大領域に支配したるもの、例へば波斯に於けるが如き、其後殊に羅馬に於けるが如き場合には、驛遞飛脚及び傳馬の制あり、以てその命令を傳送し報告を収集したり、(譯者曰、この制は現時我が國に於いて老人の昔語にその大體を徵することを得べく、樺太に於ける驛遞の設備はヤ、舊幕時代の状態を偲ばしむるものあり)、先きに説明したる羅馬のクルスス・ブリンクス(郵便制度)も亦これ以上の發達をなさず、この制度は莊園の



馬匹に勤務を強制し、文武官を輸送し、その優良なる道路組織を絶好の技術的基礎とせり、アラビア帝國、支那政府も亦これに類する制度を發達したり、西班牙人は恐らくグラナダのアラビア人よりこの制度を傳へたり、伊太利の諸侯、幾ならずして中央歐羅巴の諸侯も亦十字軍以來この飛脚制度を設定せんとし、大學及商人結社、獨逸の領域諸侯は第十三世紀より第十六世紀に至る間にこれに倣へり、皇帝「マキシミアン」及び「カール」五世は「タキシア」家をして、ブリッセル、インスブルック、ウィーン及びマドリッドの間に、この飛脚制度を實行せしめたり、費用は實に莫大なるものなりき、然れども凡そ此の如き制度を以て今日吾人の所謂郵便なるものを實現すること能はざりき。

書信、取引、旅行及び商品の交通が、伊太利、佛蘭西、獨逸及びフランダールの間に益々増進するに及びて、定期飛脚の往復せる所には、始めこれに代償を拂て一私人の書信を托し、次ではこれと同道旅行し、これに依て旅行用の騎馬を徵集し、これと同宿するの便を啓きたり、かくの如くして確定せる驛遞と飛脚道路(郵便線路)とを發達し、旅館を備へ、公的飛脚並に私的個人に對し代償

を受けて馬匹及び車輛を提供すべきの制度を發展せり、さて飛脚及びその頭領は私人の爲めにする書信、旅客、小荷物及び貨幣の轉送を重視して以て、漸次に富裕となり且つ名聲を博するに至れり、西班牙の「カレオスマヨリス」の如き殊に然りとなす、旅館經營者及び馬匹を供給したる屠殺業者も亦この間に利益を占めたり、屠肉業者、商人、旅館經營者等ありとあらゆる人々は、皆獨立的に定期交通を發達せんとし、運送取引の發展は第十六世紀乃至第十九世紀の間に、郵便と且つ並進し且つこれに伴へり、(譯者曰、希臘羅馬神話學に於ける「メルクル」神の地位は、その敢て暴力に訴へずして談笑の間に敵を説服し能く勝を制するは辯舌の神なり、鬭争せる二疋の蛇をその杖を以て調和せしむるは商議協定の神なり、誕生の日に早くも龜を欺き、その甲を剝ぎて樂器を製し、晚には遠く山野を越えて「アポロン」の神に献ぜられたる牛五十頭を竊みたるは詐術以て盜掠を辭せざるの神なり、然れどもその行くこと飛ぶが如くにして機智敏捷、宇宙主宰神「ユピター」の命令を諸方に傳達するを以てその最も顯著なる任務となす、「メルクル」の發揮せるこの交通の任務はもとより一般化せられ、死者の靈魂を地



獄に案内することまでも、メルクルの管掌に屬し、道路のこと交通のこと悉くその任務なれども、主權の命令を傳達することを中心となせるは、神話を以て苟くもこの神話を生ぜしめたる社會當時の状態に多少の關係を有するものと認むる限り、是れ希臘羅馬時代に於ける交通が、主として主權命令の傳達移牒を中心となし、に相異なる可らず、神話は畢竟想像力の産物なれども、悉く以て架空の比喩と解す可らず、而して余は少なくとも神話學の一方面たる社會的理解に最も興味を有するもの、飛脚制度の敘述に當りて、神の世界に於ける飛脚たる、メルクル神に就て一言を提供し以てこゝに裏書せんと欲す。

千五百七十年乃至千七百年の間、都市及び諸侯の政府は全飛脚制度とその社會一般の爲めにする活動に確固たる組織と賃銀とを規定し、飛脚、傳馬、運送車輛の定期循環行路を確立し、幾分はこれが全設備を自ら經營して社會一般に提供したれば、こゝに國家より管掌せられ若しくは統制せらるゝ大交通經營の發達を來たし、以て公務並に公衆に對して書信郵致の安固と定期配達とを保證し、而して個々國土にありては幾ならずして旅客及び貨物の輸送をも司掌した

り、これ現今に所謂郵便制度なり、郵便道路も亦第十八世紀及び第十九世紀の間に始めて大に延長せられ、第十九世紀の道路改善の結果として始めて所謂速達郵便は施行せられ、以て千八百二十年乃至三十年以來は、四乃至五キロメートルに代ふるに八乃至十五キロメートルの距離を一時間にして往復し、當時奇蹟として嘆賞せられたり、これと比すれば田舎は最近五十年にして始めて毎日一回の郵便配達をなすに至りたるのみなれども、而かもこれが効果は既に千六百年來著大の發達をなしたり、ボイストは第十七世紀に於て實に次の言をなせり、曰、商人が敢て自らアントウルペンに赴くを要せず、少額の貨幣を拂ひ郵便に依りて爲替相場、あらゆる商品の定價及び相場を坐らに知ることを得るに至るや、忽ちにして郵便の發達は勝て數ふ可らざるまでに夥多の書信を齎らし來れりと、「モーゼル」は第十八世紀に於て述べて曰、郵便の發達は著大の結果を伴ひ、世界は幾多の事項に於て殆んど全くその形式を革めたりと、而かも千八百三十九年英蘭に於て、一書信をロンドンよりエディンハーグに送致するに尙ほ四五マルクを要し、千八百四十一年に至りても英蘭に於ける書信發達は、プロ



イセンに於けるもの、クロッセン若しくはパツェン(共に二三錢の貨幣の名)に相當すべきターレル(約七十五錢)數の費用を要すと稱せられたり、而してプロイセンに於ても亦千八百四十四年には、フランクフルト・アム・マインよりベルリンに發送すべき一書信は八マルクの費用を要したり、郵便税の大改正は實に千八百四十年及び千八百七十年の間に始まり、プロイセン郵便の取扱ひたる書信數は、千八百四十年に辛うじて三千六百萬、千八百六十二年に一億四千八百萬、獨逸郵便のそれは千八百九十八年に二十五億三百萬に上れり、旅客數に就て觀れば、プロイセン郵便は千八百三十六年に五十四萬八千人、獨逸郵便は千八百九十八年に於て三百三萬三千人なり。

此等の統計は交通發達に對する的確の證明なり、然れどもよし千六百年乃至千八百四十年の間に於ける郵便交通の發展如何に著大なるものあらんとも、尙ほ商業及び交通を根本的に改造したるものは、一、漸く千八百二十年以來、道路大修築の時代なり、二、鐵道及び電信布設の時期なり、則ち一は現今の近距離交通を開發し、二は蒸氣船航行と合して以て現今の巨大なる遠距離交通を創

設したり。

凡そ道路修築のことが徐々として發達したるは自然の勢なり、自然に通ぜる徑路は何等の費用を要せず、以て久しく都市と田舎との交通を媒介するに十分なりき、舊農業組織は殆んど全く道路を俟たずして發達し、現代に及んで始めて各農耕地積に出入道路を設定したり、道路修築の巨大費用はこれを徵收し且つ正當に分擔せしむること容易ならず、沿道居住者は恐らく道路修築を強制せられ、後代に及んで共同團體單獨に若しくは沿道居住者と協同してこれが修築の義務を負へり、その何れの場合に於ても直接に労働者及び牛馬そのものを提供するの形式をとれり、其間に道路を使用すること最も多きものにして殆んど修築の義務を負はざる實例屢々これあり、使用者をして道路税、橋梁税及び埠頭税を仕拂はしむるの制度は、既に中世初葉に實施せられたるが、その共同團體、領主及び國家に徵收せらるゝ結果は、古代に於て多くの場合に道路及び橋梁修築の目的に供用せられざるの矛盾を生じたり、近世時代に於ては最早此の如き危険なけれども、道路税の徵收は屢々過重負擔となり、例之プロイセンに



於ては千八百七十四年に廢除せられたり、道路最も險惡なりし英蘭に於ては、第十八世紀の間準公共的株式結社に道路修築のことを委任し、國家はこれに對して道路稅徵收の權を認可したり、この緊急方便は其後運河にも適用せられたるが、これ國家及び自治體の重要な一職能を偶然に委棄し、加之益々以て利己主義的利潤投機の犠牲に供せしむるの缺點あり、大陸諸國に於ては徐々たる發展を経て始めて第十九世紀の間に、道路修築并に開通費及び維持費に關する法律秩序新たに成立し、而して國家、州縣、郡區、市町村及び沿道居住者の複雜なる協働制を發展し、沿道居住者及び市町村組合員の自然物備役義務は屢々廢除せられたれども、今日と雖も尙ほ幾分はこの備役義務を缺く可らず、新道路直通の場合に於ける土地所有者の抗議權、若干額賠償の秩序、其他これに類する問題は、最近時代に及で始めて適宜に統制せられたるの事例少からざれども、諸國を通覽するに、當該一切問題を有効に處理し得んが爲めには前途未だ容易ならず、優良なる道路及び街路を修築すべき技術も亦比較的極めて幼稚なり、道路表面を平滑にし、その構造組織を耐久的ならしめ、上昇の餘りに甚

しきはこれを開鑿し、傾斜の急に過ぐるものはこれに地盛りし、道路監督を任命して絶えず注意し且つ改善し以て適當に維持する等一凡そ此の如きは最も進歩し且つ最も富裕なる諸國に限り僅かに最近數十年間の成功に俟てるのみ。  
羅馬帝國は先きに掲げたる統計に準據すれば、嘗て平方キロメートル宛〇〇四キロメートルの良道路を有し、則ち第十六世紀に於ける佛蘭西の二萬五千キロメートルなりしは、道路疎密の程恐らくこれに等しかるべし、現今の佛蘭西は、里道即ち共同團體道路の良好なるものをも合算して六十九萬四千三百三十八キロメートルの道路延長に達せり、これ平方キロメートル宛一三キロメートルに該當し、從て舊時の佛蘭西及び羅馬に於けるこれが密度に三十二倍せり、廣濶なる佛蘭西國道の延長は、千八百四十年に於て一萬二千三百キロメートル、千八百九十年に於て三萬七千キロメートルに達せり、古プロイセンは、千八百十五年に四千百キロメートル、千八百五十七年に三萬キロメートル、千八百八十六年に五萬キロメートルの人工道路を有せり、獨逸帝國は「ザクセン」に依れば、現今人工道路の延長十五萬キロメートルにして、これが修築費は十二億マルクの巨額



に上り、全プロイセンは千九百年に於て九萬六千キロメートルの延長なり、「フー  
イシェー」の計算に依れば、千八百六十八年に於ける平方哩宛國道及び里道の延長  
は、ベルギエン五・一四哩、佛蘭西四・八四哩、英蘭四・七二哩、埃地利一・六哩、プロ  
イセン〇・九八哩、露西亞〇・一哩なり、一哩は七・五キロメートルの獨逸尺度  
に依れり、露西亞の道路延長は千八百六十年に至りても尙ほ千七百年に於ける  
西歐羅巴のそれと異ならず、吾人は殆んど良好なる道路及び橋梁の過半が最近  
五十年來の發達に出でず、而して鐵道布設の時代は道路修築を遲滯ならしめず  
して却つて大に催進したりと言ふも、敢て過言にあらざるべし。

陸路商業の手段たる車輛工業は、中世末葉以來の發展に屬せるが、（アントウ  
ルベン）に於ては千五百五十年の頃毎週二千輛の運送車入り來りしなるべし、そ  
の大に發達せるは漸く最近百五十年の間に在り、主要地域には多數の旅館經營  
者あり、十頭乃至百頭の馬匹を飼養せる運送業者あり、四頭乃至八頭の馬匹に  
依り三噸乃至六噸（三千乃至六千キログラム）を積載せる運送車の全行隊は、毎  
週一回若しくは二回を定めて良好なる道路に往來せり、嘗て二百キログラムの

荷物を運搬したる馬匹は、今や千乃至千五百キログラムを曳き行き、水路交通  
は五萬キログラムの大量を運搬す、車輛運送交通の範圍に就ては殆んど歴史尙  
に何等の徵すべきものなし、英蘭に關する統計に依れば、鐵道布設以前の運河  
時代に於て、運河交通三千萬噸に對し道路交通は年々僅かに三百萬噸に過ぎず、  
車輛交通時代を通じて運送料は、道路及び飼養料に依り、牛馬及び駱駝が料金  
を以て確實に飼養せられたるか否かに準じて差等あり、英蘭に就て余の觀察し  
たる所は、運河修築時代以前に於けるもの每一噸一キロメートルの運送料六十  
九ペンニヒなり、近時「シューマール」は、北部支那に於ける車輛交通に就て一噸一  
キロメートル獨逸貨六乃至四十八ペンニヒ、單輪車輛交通に就ては三乃至二十  
五ペンニヒを計算せり、獨逸に於けるものは千八百四十年乃至六十年の間每一  
噸一キロメートルの街道運送料三十乃至五十ペンニヒと計上せらる、鐵道布設  
當時に於いて「ベーツ」の調査に依れば、精巧品に對しては概して二十五乃至五十  
プロセントの割引あり、重き大量貨物に對しては更に多くの減價あり、然れど  
も殊に道路の改築及びこれに伴へる街道運送料の輕減の結果として、勃興都市



とその周域田舎との交通は一般に倍加し、加之四倍し更に多くの發展を來たせり、千八百二十五年乃至七十年の間に於ける歐羅巴農業の盛運は、道路の改修と蒸氣力交通のその緒に着きたるとに俟てり、殊に蒸氣力交通が陸路交通を變じたること、郵便及び改修道路と全然その趣を異にせるは自然の理數たり。

**百五十一** 第十九世紀に於ける交通の技術的及び經濟的事實、鐵道、現今鐵道事項の交通技術上の基礎は、車輛の運轉すべき鐵道に依りて特殊の平滑なる軌道を設備し、鐵道馬車の曳引力は平均して街道馬車のそれに比し十六倍乃至十七倍なり、この軌道車輛を蒸氣機械に依りては又電氣に依りて運轉せしめたることに在り、木材及び鐵材の軌道は千六百年より千八百年の間に發達せる鑛山經營に起れり、其後この軌道は市街短距離の貨物鐵道馬車及び旅客鐵道馬車に應用せられたり、今日と雖も市街鐵道交通は、八十年代及び九十年代に於て電氣の應用顯著ならざりし限り、この鐵道馬車を基礎となせり、二十乃至百キロメートルのやゝ遠距離に對する曳引力としての蒸氣機械は、其後千八百二十三年乃至五年の間に生まれり、その當初は商港と工場都市との間、首府と

州市との間の交通主線に應用せられたるのみ、やゝ長距離の鐵道、主として炭坑地方及び工業地方に於けるものは、西歐羅巴に於て大體千八百四十年乃至七十年の建設なり、千八百六十年乃至八十年には、比較的富裕なる國家に統一組織ある鐵道を發達し、その隣接國家と連絡せり、これより現時に及ぶまで、人口最も稠密なる諸國は田舎の僻遠地方にも鐵道を延長し、鐵道線路間隔は益々縮少せられ、千八百九十八年の調査に依れば、百平方哩に對する鐵道延長は、ベルギエンに於て二十キロメートル、ザクセンに於て十八キロメートル、爾他獨逸聯邦に於て八乃至十二キロメートル、大英國に於て十キロメートル、佛蘭西に於て七キロメートル、澳地利に於て五キロメートル、北米合衆國に於て四キロメートル、露西亞に於て殆んど一キロメートルとなれり、北米合衆國、露西亞、埃匈國は千八百六十五年乃至九十年の間に、始めてその顯著なる穀物領域を鐵道に依りて連絡したり、英領印度、カナダ、南亞弗利加、南亞米利加、日本、小亞細亞は、最近三十年の間に始めて著しく鐵道を布設せり、亞米利加大陸を横斷せる大規模の大西洋鐵道は千八百六十五年乃至八十年の間に成立せ



り、歐羅巴の大連絡鐵道は主として漸く最近十五年のことなり、或は實に將來に屬せり、鐵道記錄に依りキロメートルを單位として鐵道延長統計を掲ぐれば次表の如し。

	全世界	歐羅巴	北米合衆國	獨逸
千八百四十年	八〇四一	三一〇三	五三四四	四六九
千八百六十年	一〇七九三五	五一九一九	四九二五五	一一〇八八
千八百七十五年	二九〇六八一	一三九〇三五	一一九二九五	二七四七四
千八百九十年	六七一一一九	二二三七一四	二六八四〇九	四二八六九
千八百九十八年	七五二四七二	二六九七四三	二九九九一一	四九五〇〇
千八百九十八年	一三二六一四	七一九九八	四五四三八	一一八五四

これが資本金を百萬マルク單位にて計算すれば則ち下の如くに該當せり。殆んど世界一般に且つは殊に富裕ならざる國土にありて、鐵道布設が如何なる大困難に遭遇するかに就ては、今日正當なる寫象を得ること能はず、是れこれが爲めに障害せられたる一地方的利害、從來の交通企業家、運送人、擔夫、

船夫、次で又沿道旅館業者が抗爭するのみにあらず、然らずその主要困難は現に巨大資金を集め屢々數百萬の資本を應用し、而してこれが利殖の不確實にして時には數年の後數代の後に始め、期待せらるべきの事情に在りて存せり、大膽なる大企業家が巨大の剩餘資本を以てこれに當り、先見ある政府が著大の信用を以てこれを企つる場合に於て、始めて能く鐵道布設の進歩を觀るべし、歐洲大陸にありて後來最も收入多き線路も、千八百三十年乃至六十年の間は屢々數年看却せられ、躊躇と停滯と未だ嘗てこれなくんばあらざるなり。

反之凡そ好況は新たに進歩を効果し、概して歐洲諸政府は、千八百四十年乃至七十年の時代に漸く新交通手段の重要なことを認識し、幾分既に軍事上の理由よりこれを催進したり、取引世界は忽ちにして一切商品の販路に對する莫大の利益を、銀行界は千八百四十年乃至六十年來、著大資本と創立者の大利潤及び配當の可能とを認めたり、鐵工業及び機械工業は鐵道布設に依りて赫々たる盛運を示せり、廣大なる規模と販路とを備ふる鐵山業經營も亦これを俟て始めて可能となれり、英蘭に於ては千八百四十五年以來、佛蘭西に於ては千八百



五十年以來、爾他の中央歐羅巴に於ては千八百六十年以來、鐵道布設は幾分急遽に且つ狂熱的に進行し、千八百四十年以來全國民經濟の一弛一張はこれと關聯せり、國民經濟の大組織問題に對するこれが結果は、交通催進と等しく忽ち重要な意義を示せり、舊交通手段たる河川、運河、道路及び橋梁は既に業にその事情を變じて、これが修築及び維持は比較的資力ある一地方的、公共的大機關の管掌に委せられたれども、これを利用すべき貨物運搬のことは久しく主として、家族、生産者、商人、小中運送業に一任して顧みざりき、たゞ郵便は運送企業制度として千六百年來、殊に千八百年來一般に、公共的、集中的大經營となり、多は國家の司掌する所たり、これ蓋しかくの如くするにあらずんば公共行政並に取引世界に對し定期に且つ確實にその任務を果たすこと能はざればなり、されば交通に於ける集中的大經營は、機械、近世的技術、鐵道に先だてる發展なり、然れども蒸氣機械の發明將た鐵道の布設に伴ひ大經營が愈々必然的に發達し來れるは未曾有の現象たり、私的小運搬企業家一系列をして軌道上に競争せしめ得べしと言ふが如き兒戲に等しき觀念は、その全然實行す可ら

ずして徒らに長へに矛盾に陥らざるべからざること忽ちにして明白となれり、事實の證明したる所は、軌道の所有主が同時に機關車及び車廠の所有者にして且つ運搬企業家たるを以て最も上策となせり、運搬企業家は、その益々巨大資本と遠距離軌道とを支配する場合に於て、愈々良好に運搬成績を擧ぐることを得たり、こゝを以て概して鐵道は幾ならずして極めて集中的なる大經營となり、巨大資本と多大數人員とを備へ、やゝ統制せられたる公表定率に準據して支拂をなすに至れり、プロイセン<sup>1</sup>ヘッセン<sup>2</sup>國有鐵道行政は世界最大の企業なり、凡そ大鐵道は多少の別こそあれ悉くその運搬取引上に獨占權を行使せり、その株式會社として成立し且つ存續せんが爲めには、必らずや國家がこれに廣大なる主權一例へば土地收用權、警察權等一と財政上の利益一即ち土地供與、資本參加、利殖保證一とを認め、而して一定の目的例へば郵便物輸送、軍事輸送の如きに對しこれを支配することなかる可らず、鐵道は決して公共的、法律的權利なき通常私設企業となること能はず、然らずんば僅かに除外例として比較的緊要ならざる場合に限り、然れども鐵道に一般の技術的及び經濟的性質の結果



は極めて區々たらずんばならず。

資本力を有する大取引世界より政治上にも多少支配せらるゝ國土、例へば英  
蘭及び北米合衆國の如きに於ては、株式會社に對する認可の國家的議會的組  
織を發達し、株式會社は益々複雑に合同し、その行政、獨占及び巨大利潤を正  
當に限定せんとすれども、國家の監督及び課税も多くは効果に乏し、爾他國土  
即ちベルギエン、獨逸、ノルウエーゲン、セルビエン、近時に至りてはシウイツ  
濠洲、印度に於ては、幾分急遽に幾分は漸次に劇烈なる競争の結果として、統  
一的國營鐵道は優勢となれり、混合組織も亦屢々これあり、現に佛蘭西に於け  
るが如き、又露西亞に於けるが如し、吾人はこの反對現象とその結果とをこゝ  
に詳述するを得ず、(譯補第三冊、**百十二**に比較せよ)、たゞ吾人は鐵道がその  
性質に顧みて、如何に國家及び國民經濟の裡に最大組織の集中設備となりしか  
を主張せざる可らず、鐵道の政治的、軍事的意義、その巨大資本、その一切の  
生産及び商業に對する影響は、私人若しくは國家に集中せらるゝに應じて、こ  
れをして愈々大權力を行使せしむるに至れり、分業及び交通の發達に従て、これ

が影響は益々不可抗的となり來れり、鐵道の私的資本家の所有に繋かるものは、  
屢々殆んど政府に匹敵すべく、加之屢々これを凌駕せる副政府の觀をなせり、千九  
百年に於て、鐵道若しくは鐵道企業の支配人にして英蘭議會に議席を有するも  
の五十七人あり、凡そ大なる會社は單純に若しくは複雑に議會に代表者を出し、  
その利害と矛盾する議案は一として下院を通過せず、鐵道賃率政策は現に幾分  
國家商業政策と全然同一の意義を有せり、私設鐵道を所有せる鐵道王は一種の  
政治的支配と階級支配とを行使せり、大カルテル及び大銀行の監理者は、或る  
場合に幾分これに類せる權力を有するのみ、國家と國民經濟との全關係、利害  
競争及び價格構成の大問題は、鐵道の發達に依りて全然過去と別種の色彩を帶  
び來れり。

單に鐵道のみには依るにはあらざれども、鐵道を以て主要原因とし且つこれと  
郵便、電信、電話の諸設備、大汽船會社及び海底電信會社と結合して、國家内  
及び國際間に連絡と分業とを生じ、精神上及び物質上の共同と社會化とを効し  
たり、これ百年前に夢想だも及ばざりし所の現象なり、これを數量的に證明す



るはもとより困難のことに屬すれども、こゝに余は嘗て試みられたる二つの統計を引用せんと欲す、「シムラ」に依ればセントゴットハルドを通過せる交通は、中世時代より千八百三十一年に至るまでの割合一對三・二、千八百四十年に至るまでのそれは一對六・四、千八百四十年より千八百八十九年に至るまで一對八九・九、中世時代より千八百八十九年に至るまでのそれは一對二三・七二なり、余と「ムルハル」、「ユラシマク」、「ナウチクス」等との概算に徴すれば、商業統計を發達せる聯邦の輸出入總額は約ぼ次の如くなるべし。

千七百	五	億マルク	千八百六十年	三	百	億マルク
千七百五十年	十	億マルク	千八百七十年	四百五十	億マルク	
千八百	六十	億マルク	千八百八十年	六	百	億マルク
千八百五十年	七十	億マルク	千八百九十九年	七百六十	億マルク	

凡ての商品は輸出並に輸入に計上せられ、屢、第一輸入國より第二第三の輸入國に轉送せらるゝが故に、輸出入總額はこゝに掲げたる統計の三分の一乃至二分の一ならざる可らず、これが増加率即ち二百年間に於ける一對百五十二は何

れにしても變ずることなし、國內交通の増加は恐らくこれより遙かに多大なり、「グニース」は既に千八百五十三年に於て、隣接地域間の近距離交通の最も頻繁にして最も有利なることを主張したり、然れども如何にしてこの隣接交通を計上すべきか、千七百年若しくは千八百年若しくは千八百五十年に於て何人が能くこれを統計することを得たるべき、何人が果して舊時代に於ける運送車及び小舟の積載量と現今に於ける鐵道及び船舶のそれとを比較せんと欲したるものぞ、最近年代に繋かれる調査の結果は次の如し。

獨逸鐵道

埃地利鐵道

百萬キロメートル  
旅客キロメートル

百萬キロメートル  
噸數キロメートル

同上

同上

(即ち換言すれば旅客數及び噸數とその通行キロメートル數との積)

千八百六十八年	三三二二	五〇四二	千八百六十一年	八〇二	一一二八
千八百七十九年—八十年	六一四八	一二二二四	千八百八十一年	二〇三〇	五〇二一
千八百九十八年	一七五五四	三二五七九	千八百九十七年	六〇〇八	三四六二

佛蘭西鐵道のそれは千八百八十八年に一〇四〇九、佛蘭西道路のそれは概算



六〇〇〇に該當し（共に百萬單位の噸數キロメートル）、千八百九十八年に於ける獨逸穀物收穫の千九百九十萬噸の中千八十萬噸は鐵道に依て輸送せらる。

石炭、木材、鐵及び鑛物は現に交通の主要部分を占め、殊にこれが輸送を以て大量交通を發達し、この大量交通に依りて過去と現在との特色を區別し、船舶と鐵道とを充載し、商業統計及び交通統計を膨大せり、千八百九十七年獨逸に於て百萬噸を單位とせる輸送貨物量二二〇七九一にして、就中九四六七四は石炭及び褐色炭なり、大英國及び愛蘭は千七百六十六年乃至八十年の間に二萬二千噸、千八百三十六年乃至四十六年の間に二十萬噸、千八百六十七年に百九十五萬噸、千八百九十年乃至九十四年の間に六百萬乃至七百萬噸の外國產小麥を輸入したり、現今世界經濟の大量交通は以て全國民をして主として外國產の食料に依りて生活するを得せしむ、よし輸出若しくは輸入を主とする國土は、幾分新たに不利の状態に陥れることなしとせざれども、全體としてこれを觀れば、收穫、貯藏品、價格はかくして均衡を維持するに至れり、凡そ交通の發達は國民經濟をして益々複雑ならしめ、恐慌及び交通停滯の危險加はり、交通の

利便は利害競争を劇烈ならしめ、運搬費低廉に準じて商品價格を下落せしむれども、一方には全國土に亘りて舊態を脱せざる工業並に農業を危機に陥らしめ、固定資本の價值を引き下ぐ、かくの如くして過渡時代は幾多の困難を生ずることなしとせず、然れどもその將來は國民全體よりこれを觀て利益を齎らさずんばあらず。

現今交通、その大經營、その國家的統制及び執行に繋がる組織の結果は、次の數言にこれを攝要することを得べし、大なる定期性及び安固、非常の速度及び低廉、重量貨物の輸送、距離の短縮、人的及び經濟的關係の變動例へば昔て隣接居住者の間に成立したる關係を數十萬數百萬の多大人數間に擴張したるが如き是れなり、尙ほその二三方面に就て多少詳述する所あらんとす。

曩時每一噸一キロメートルに對する陸路交通の費用は吾人既にこれを掲げた、中央歐羅巴に於ける陸路交通の、千七百八十年乃至千八百五十年の間に於るものは、二十乃至八十ペンニゲと算定することを得べし、フオビルの統計に依れば、佛蘭西に於ける平均鐵道運賃は、千八百三十一年に一二八ペンニゲ、千



八百六十五年は四・八ペンニゲ、千八百七十七年に四・七ペンニゲなり、獨逸に對し、エンゲルは、千八百四十四年に一五ペンニゲ、千八百六十年に七三ペンニゲ、コーンは千八百七十二年に五・九ペンニゲ、千八百八十七年に四・九ペンニゲを以て平均運賃とし、而して吾人は現代(千八百九十八年乃至千九百年)に於ける西歐平均運賃を以て三・六乃至二・四と算定し、大量貨物、遠距離及び除外例貨率に對しては二・二乃至一・二と計上するも不可なるべし、獨逸の無通行税河川は○・五乃至一・一ペンニヒ、運河は運河通行税をも含めて一・一乃至一・九ペンニゲを平均運賃とす、海上運賃は國內河川運賃よりも遙かに低廉にして、○・一乃至○・四ペンニヒに該當し、遠距離に應じて賃率遞減す、旅客輸送に對しては郵便時代に每キロメートル十乃至二十七ペンニゲ、現今ブローイセン鐵道にては四等級に準じて二、四、六及び八ペンニゲを仕拂ひ、而して一時間行程千八百二十年以前には四乃至六キロメートル、千八百三十年以後十五キロメートル、現在は三十乃至九十キロメートルなり、千七百六十一年にありては王侯御料の馬車にして巴里よりシントラスブルヒに至るまでに十二日を費したるが、現在に於ては勞

働者と雖ども十二時間以上を要せず、然れども時間の短縮と等しく、運賃が四分の一將た十分の一に低減し、而して確定賃を以て安固に旅行することを得るに至れるも亦重要な變動なり、暴風及び洪水、寒氣及び炎暑、道路の險惡及び飼養料騰貴等の爲めに、果して旅行し得べきか又幾何賃銀を仕拂はざる可なるか、これ等に就て嘗ては不安状態なりき、如何なる船夫、運送人と雖も輸送の義務あらざりしなり、現在にありては則ち然らず、技術、大經營、國家の組織は一切交通(極めて大量の交通と雖も)の困難を能く排除し、且つ一時一分を誤らざらしめんとす、大交通組織は猶ほ大なる時計の如く、その各輪機は互に確實に相連結せり、即ち郵便、鐵道、電信、蒸氣船路は、各國及び國際間に確實に相接続し、而して國際的の合同及び契約は年々この組織を擴張し、且つ益々安固ならしむ。

近世交通手段及び大交通設備が一切國民經濟生活に及ぼせる變動は、これを叙し盡すこと容易にあらず、爾他一切の大原因、例へば工業生産に於ける技術及び經營上の進歩、工業自由及び自由商業の効果の如きはこれが後へに瞭然たる



り、若し吾人にして今日、六千年來文明國民に求む可からざりしが如き國民經濟的革命を経験せりとすれば、主として新交通手段を以てこれが原因となす、商業及び交通は近く二百年來、國民經濟の組織者及び支記者として空前の意義を發揮せり、嘗て交通手段は、防禦、國家行政、人口稠密、經濟的生産等の欲望に促され、徐々として發達したるのみ、蒸氣及び電氣の應用を以て交通手段は大飛躍をなし、頓に國民經濟の指揮者となり、國民經濟を指導し變造すべき素因となれり、凡そ商業及び商業形式は從來の面目を革め、即ち例へば大量貨物及び有價證券の定期取引の如きは根本的に新交通手段に依りて始めて成立したり、殆んど一切の經營形式は大交通に依りて全然變更を來たし、大經營を催進したるもの大交通に及ぶべきなし、生産地及び居住地は悉く變動推移し、人的並に地域的分業は、今や生産及び消費を遠距離の間に連結し得べきの可能に依りて、全然過去とその關係を變じたり、家族の自足經濟、生産地に於ける生産者の財消費は益々減少し、英蘭の如き國土にありては極めて少額となり、獨逸に於てもこれが總平均は一切財貨の恐らく十乃至三十「プロセント」となれり、

複雑低廉なる流通組織は苟くも高尚なる發展をなせる國民經濟の前提となれり。若し歐羅巴人口が千七百年乃至千八百九十年の間に、一億一千萬人より三億五千七百萬人に増加したりとせば、(譯補第二冊參照)、これ一に新交通手段に依りて可能なりし現象にして、又實に新交通手段を俟て大都市及び工場都市發展の時期に起りたるもの、此等都市の範域は千五百年乃至千七百年の間に於けるそれに比して十倍乃至それ以上に亘り、(譯補第三冊參照)、その經濟と文明との結果はこゝに全然別種の人間を發達したり、現今人間の移住性ととの遠近自在の大移轉と、これが結果としての近世殖民とは、吾人先きに第二冊に近世交通手段の結果としてこれを觀察したり、人間の移住性増進と旅客及び商品の交通と他國土及び他民族に關する知識とに關聯して發達したる現象には、人間欲望の統一あり、經濟的勢力の増進あり、猛烈にして殊に傍若無人とも謂つべき營利衝動あり、過去と同日にして談ず可らざる現今の利害競争あり、劇烈なる經濟的生存競争これあり。

政治的生活も亦悉く交通手段に依りて變動を蒙れり、小國家は大國家となり、



大國家は世界的帝國となれり、行政の集中益々顯著に、輿論は愈々統一しその影響恐るべきものあり、戦争は曩時と比し遙かに迅速にして且つ周約的となれり、(譯者曰、吾人の記憶に新たにして且つ痛切なる日清、日露の大戦役は世界戦争史上に於ける近代の大現象にして、これが交通手段との關係にも幾多の緊要證據を抽出することを得べし、而して最近の空中交通の如きも亦將來に重大關係を生ぜん)。

吾人はこゝに此等の事項を深く討尋することを得ず、その心理學的及び道德的結果にも立ち入るを容さざるなり、吾人はこれに就ては先きに第二冊の末段近世技術の結果として概説したる所を直に反覆せざる可らざるべし。

たゞ吾人は結論として、吾人の區別せる交通の三時期が、先きに屢々縷述したる經濟上の大發展段階と平行せることを一言せざる可らず、家族經濟若しくは種族經濟及び村落經濟の時期に該當せるは最古の偶然的近隣交通にして、都市經濟の時期に順應せるものは一地方的定期交通なり、個々交通手段(沿岸航行、河川舟行、道路、飛脚が諸地方の間に交通を媒介するに及んで、通則として領

域經濟の發展あり、大交通に伴て國民經濟の成立となり、大交通の完成に俟て世界經濟を發達せしむ、されば交通時期と經濟段階との二概念は全然一致するものにはあらず、何となれば交通の進歩は、舊經濟形式を更に高尚なる繼時形式に發展せしむべき主要原因の一なればなり。

**百五十二**

商業交通の法律秩序及び行政秩序、最古市場の起源、本質及び制度、吾人は交通及び商業が如何に發達し、又如何に高尚なる發展をなせる國民經濟の前提たりしかに就き、大體の輪廓を考察したり、吾人は今や交通<sup>||</sup>運搬<sup>||</sup>商業の諸取引を發展せしめたる社會上及び法律上の條件に一瞥を投ぜざる可らず、交通の最も幼稚なると最も發達せるとに論なく、苟くも財貨の讓渡及び運搬取引は一系列の契約に依らざる可らず、交換<sup>||</sup>賣買<sup>||</sup>賃貸借<sup>||</sup>勞働契約の發達を必要となせり、凡そ平和的に相互交換を營める衆個人の社會にありては、此等契約は慣習、法律及び道德に支持せられて一定の模型的形式をなし、而して苟くも交通及び商業の發展を理解せんと欲するものは、法律殊に私法及び契約の歴史的發展を知悉せざる可らず、然れども吾人はこゝにこれに就て深く立



ち入ること能はず、余はたゞ先きに **二十五** 乃至 **三十二** (譯補第一冊) に陳述したる所を指摘し而して單簡に後段の叙述を附加し得べきのみ、交換、賣買、勤務の諸契約が幼稚にして且つ制限せらるゝに應じ、契約形式の数は益々少なければども、慣習及び法律に依て個々の秩序せられ、事情に順合し得べきの長所あり、既に陳述したる交通發展の第二第三の段階に於ては、契約分化し、その數も増加し、これが形式は單純にして同時に平滑且つ詳密となる、經濟關係益々複雑を加ふれば、契約體型は愈々種々雑多の發達をなし、即ち賣買、交換、貸借、委任、賃借及び小作、信用及び勞働諸契約、運搬及び保藏諸契約の諸種類を成立せしむ、然れども大體に於て殆んど一般に類似の秩序に俟てる若干契約の間には、法律の一貫あり、羅馬法は始めてこの契約體型を模範的に發達し、これが前提と結果とに徴を穿ち、これを一組織に秩序したり、後代の文明國民は皆この羅馬法を轉用し、これを完成し、個々の點に於て更に發達をなせり、此等の契約は現今に於て文明世界の共同財産なり、こゝに結晶せる法律は或る道徳的根本思想、正義、忠實、信仰、詐誣排除等を基礎とし、凡そこれを施行

する社會を強制し、多少に拘らず或る方向を規定せざるなし、この種成文契約法は今日何處にこれを觀るも幾分の取引慣習及び慣例と結合し、又これが實行を巨細に含蓋せる定款及び取引協定と結合せり、而してこれと關聯して更に一切の刑法及び行政法あり、工業法、農業法、建築法及び移住法あり、州縣及び一地域に亘れる警察秩序あり、自治體及び合同の定款あるあり、これら一切の法律規定より、こゝに全國民經濟過程、一切財貨の讓渡、勤務引受、一切の交通を社會的に統制せる大組織を發達す、これ規範、防止、法規、命令及び禁令の組織にして、以て經濟生活の潮流を統制し、即ち或る種の協定は有罪若しくは無効と宣し、或は契約の不可訴訟、或はその無効若しくは訴訟權を確定す、一方には無形式的契約を認め、他方には一爲替、擔保の場合の如き一確定形式に効力を附す、或る場合には命令及び禁令、慣習及び法規は巨細に亘りて形式主義的發展を遂げ、他の場合には取引世界の自由活動を多く認容す、不道徳的契約、一般に有害と認めらるゝ契約、例へば今日世襲的勞働契約、勞働時間の強制的(豫告權を無視して)延長、將た工場勞働者賃銀を貨幣を以て仕拂はずし



て物品を以て仕拂ふが如きは苟くも禁止せられ若しくは刑罰に處せらる、かく交通を秩序せんとする究竟の傾向は、常に慣習及び法律に依りて各人の權力を或る程度まで自由に行使せしめんとするにあれども、これと同時に總體の利害と弱者とを保護し、各人の不道德的權力を事證せざらしめんとに在り、その主眼とする所は、この巨大なる交通組織になるべく多く道德的心證と動機とを作  
用せしめ、なるべく多く信用と公正とを發達せしめ、以て交通現象をして可成刑罰、苛酷、野蠻的競争に陥ることなからしめんとするに在るなり、實にこの相互の信用の顯著なる發達を俟て始めて廣大にして繁劇なる交通を期待し得べく、然り而してこの信用は、その由來する所一朝一夕にあらず、遠く數千年來の道德的、法律的進歩と善なるもの正なるもの、爲めに行はれたる古來の戦争との最も精緻なる心理學的結果なり。

凡そ交通は個人、家族、將た爾他機關の欲望にその端を發し、此等の個々人及び諸機關はそれぞれ自家の衝動及び利己主義的努力、營利心を以て交通の潮流に掉し、これと共に運動し、その間に前進し向上せんと欲し、而してその交

通關係者の疎密と自家目標の到達せらるべきものなると否とに準じて常に或る程度の自由活動をなせり、然れどもこれと同時に苟くも道德的及び法律的、組合的及び國家的制限の形式にて社會的に束縛せられ、即ち當に取り得べきと然る可らざると、以て隣人を凌駕し得べき手段と然る可らざる手段とを規定せられずんばならず、然れば則ち絶對的自由交通と絶對的に自由なる經濟運動とは未だ嘗てこれあらざるなり、苟くもこの自由運動は事實上先づ交通者の力と能力と、關係者相互の疎密及び交通傾向とに依て左右せられ、次で社會的には又道德的、法律的總秩序に依て支配せらる、即ちこの道德的秩序は抑々實際關係より發しこれと適合せざる可らざれども、同時にこの實際關係を組織し變造し、或る方向に指導せずんばあらざるなり、(第三冊 百〇六を参照せよ)。

既に説明せるが如く、吾人は此等一切の習慣及び秩序をこゝに悉く列舉し攻究すること能はざれども、經濟的交通制度全般の中心たる市場制度を論議するは極めて至當なるが如し、これ市場制度は價值及び價格、供給及び需要、其他一切の利害競争を生ぜしむる法律的及び行政的の制度にして、經濟的過程の複合



として且つはこれが社會秩序として表示せらるゝ現象なればなり、然らば市場とは何ぞや。

吾人が差當り市場てふ語を使用するは、交換賣買者が普通會合する所の場所と時間とを表示せんとする場合なり、次では組合的に關係者より若しくは支配的に政府より、凡そ市場會合及び市場取引を催進し秩序せんが爲めに企畫せらる一切の設備と施設とをこの概念に含蓄せしめ、更に又吾人は市場及び市場關係てふ概念を轉用して、定期的に相結合する一定賣買者の總關係に名け、而してその同一場所同一時間に人格的に相邂逅する否とに關せざるなり、されば獨逸穀物市場若しくは國際的穀物市場と言ひ、一地方的、州的、國家的市場と言ふことあり、かく使用する場合に於ても吾人は市場てふ概念を以て、賣買者その人數及び種類、これが從來の關係、相互の權力關係、並に此等の關係に一定の秩序及び形式を規定せんとする行政制度、慣習及び法律形式を表示せんと欲す、(譯者曰、これ「シモラー」原論に一貫せる獨特の立脚點が必然市場てふ問題に當りても亦發露したるに外ならず、詳しくは殊に第一冊を判讀あるべし)、言

語使用に於けるこの推移は、抑々商業交通及び市場交通の歴史的全發展と關聯せるものなり。

吾人は差當り、主として先きに叙述したる交通の第一時期及び第二時期に於て、市場及びその秩序が如何に成立したるかを闡明せんとす、その眼目とする所は人間を定期的に邂逅せしめたる三機會に在り。

始め相隣接し平和的に接觸せる會長は、或る取引を秩序せんが爲めに定期的に一定の境界地點に邂逅し、この處にて交換及び賣買をも開始し、從て又幾もなくその種族員もこの會合に加はれり、この外種族全員は國民議會、裁判會合、宗教上及びその他の祭典の爲めに、定期的に毎年一回若しくは數回、聖地に會集したり、かゝる會合は數日に亘り、飲食資料並に家畜飼養料を要したれば、會合者は好んで種々の物品を交換し、行商人、外來商人ここに來りて露店を開き、又貢物を請求し若しくはこれを携帯せる外來使節も來會したり、個々人は家畜、毛皮若しくは其他何たるを論ぜず苟くも生活剩餘をこゝに携へ來れり、さればこゝにて奴隸及び婦女は交換賣買せられ、外來裝飾品、珍奇なる武器を



求むることを得たり、これ命令的、禁制的會合にして、これより一領域に居住しこゝに商業を經營せるものをして義務的に去來集散せしめたる禁制的意義の市場は容易に發展することを得たり、かくの如き種族組織の結果として生じたる市場の外に、外國航海者の定期に繫留したる上陸地並に隊商通路及び行商隊の交叉點、即ち一期間あらゆる國民の邂逅したる場所に別種の市場は發達したり、一時的には軍隊の通路及び滯留地に沿うて市場の成立したるも亦これあり。さてこれ等の場合全般に通ぜる制度如何と顧みるに次の如し、即ち國民議會、教會祭典と言ふが如き高尚なる平和と關係して茲に特殊の平和状態を致し、市場にありては鬭争、復讐、仇討を禁止し、若干の外來者は護送及び保護を受け、殺害せられ若しくは毀害を加へられたる場合にはこれに對する賠償金を交附せられ、外人裁判所に起訴することを得たり、多くは取引に對して特殊の場所を限定し、その屢々教會なることあり、又屢々特殊の露店を販賣者の爲めに設定することもあり、公共的權力は市場に干渉して、こゝに度量衡を規定し統制し、貨幣鑄造權利者を設定して青銅若しくは貴金屬を流通貨幣に鑄造せしめ、市場

監督をして市場を秩序せしむ、此の如きは必要缺く可らざるの制度なり、何となれば販賣者の間に屢々鬭争と殺人事件と起り、且つロータル王の面前にて市場に於ける賣買者相互の鬭争にその端を發せる一揆は、遂にアウグスブルグを破壊するに至れる如きあればなり、メルドルフに於ける三つの年市は實に長時期間ウエスホルシュタインに於ける三つの比類なき平和時期及び平和地域なりき、外人は贈物と關稅とを貢納するものに限りて市場に入るを許され、且つ平和保證の地域即ち市場にて賣買するものは悉く全制度に對する手数料として市場關稅を徵集せられたることは問はずして明かなり、市場に入ることを許可せられたる外人はその商品の價格を限定せられ、君侯はその有害と認むる個々商品、換言すれば葡萄酒若しくは酒精の如きを市場に禁止し、良商品に限りて輸入を認可したることは古來の慣習たり、價格限定、商品鑑査、人間及び商品の入市取捨、市場關稅―此の如きは凡そ舊市場秩序の最古成分たり、販賣業者の自由組合即ち第十世紀乃至第十三世紀の間歐羅巴北部に發達したるがごとき商社が市場秩序のことを左右したる場合には、市場權はその獨占と認められ、こゝに



來りて販賣するものは組合員に限れるか、若しくは商社の爲めに有利にして市場制度に對し十分の税金を支拂ひたるものに限れり、概してこれを言へば凡そ傳承的市場秩序を發達せしめたるものは、多くは都市若しくは國家の公共權力、若しくはこれが代表者即ち希臘に於てはアゴラノモイと稱せらるゝ官吏、羅馬にありてはこれに模倣したるエディレン及びブレフクテン、降ては教會、中世時代に於ては王、侯、伯、更に近くは市會なりとす、この故に法律上の寫象としては、凡そ正當なる市場は公共權力より支配權を附與せらるゝことを必要とし又市場權の附與は常に造幣權、關稅權及び禁止權を伴ひ、これを侵犯するものは刑罰を加へらる、これを以て一市場領域に居住せるものは、其周圍若干哩以内に新に市場の設立せらるゝことを抗議したり、特殊の市場法、換言すれば市場交通に關する一系列の規範及び條項を發達したる所以のものゝに坐せり、所謂市場法の内容は、警察及び利害統制に關する公共權力の傳承的秩序並に賣買相互間の私法的習慣なり、このことはカロリಂಗ朝の法規に徴しても明白なり、即ち曰、*nullus homo praesumat aliter vendere aut mensurare, nisi sicut dominus*

*imperator mandatum habet*. 然れども始め市場の忠實と信用とを保證せんが爲めに設けられたる繁冗なる交通形式は、其後次第にその弊に堪へずとして廢止せられ、市場權に基ける舊抗議は排除せられたり、當時の法規に照して「*グラム*」のことを證明せり、即ち次の如し、*Chouffente stritent, taz der chouf seule wesen stâte, der ze jur-markate getan windet, er si reht alde unreht wande iz ore eerwoneheit is.*

凡そやゝ大なる定期的交通の起源は市場制度と關聯せり、もとより市場以外にありても個々人の交換あり行商人より購買することこれなきにはあらず、然れどもこれしかく重要なものにあらず、主要取引並に外來商人及び行商人の取引は悉く市場に集中す、されば市場の創設はこの時代に於て國民經濟的進歩の手段たりしが如し、而かも事狀に顧みずしてたゞ市場建設の多からんことを期待するはもとより徒勞なり、何となれば市場發達の爲めには、設備と傳承的制度との外、多數の賣買者が定期に集合することを要すればなり、このこと舊時代にありては、必らず市場に出づべきの強制義務に依りて實現せられたれども、此の如き義務は多數者にとりて甚しき苦痛にして、到底屢時の市場に嚴守



せらるゝこと能はず、これを排除し自由集合に放任したる例一再にあらざ、或は種々の手段を講じて市場に誘致し、又他の諸市將た商社と定期的市場集合に就て契約を結べることもあり、千二百三十五年ウンデ、イネにて施行せられたる「フリードリヒ二世の一制度は次の如し、*ut nemo cogatur ad aliquod forum invitus ire.*」凡そ取引に對し賣買相互の直接邂逅を必要とする限り、換言すれば即ち書信及び電報の交通將た新聞及び郵便が報告及び供給を媒介することなく、現に存在せる取引の中間商業が未だ毫も供給と需要とを結合し媒介することあらざりし限り、市場の獎勵は一般に取引交通の爲めに缺くべからざる前立條件たりしが如し、市場は又これと同時に、全體若しくは大部分の交通がこゝに行はるゝ限りは、公共的利害を立脚點として交通を統制しこれに課税せんが爲めに、最も便利なる手段にして、且つ利益競争を催進し、取引事情に對し概觀を得んが爲めにも亦好箇の手段たり、然り商業の仲間連鎖が既に生産者と消費者とを媒介するに及んでも、その社會の爲めに有害にして物價を暴騰せしむるの恐ある場合には、或は生産者と消費者とを直接邂逅せしめ、或は諸地方の商人を直接

會合せしめて、仲間商業を無用の長物たらしめんこと、市場及びこれが傳承的秩序に依て期待することを得べし。

凡そ此の如き原因は、以て數千年數百年の間市場及びこれが傳承的秩序が國民經濟の交通方面を支配したりし所以を理解せしむるものなり、苟くも重要な舊商業交通の形式に關するこの陳述は、又以て一般的原理を闡明ならしむるに足るべし、即ち一切の商業及び交通は實に個々人、その欲望、さてはこれが營利衝動に發すれども、然れども亦國家的に秩序せられたる社會と社會的制度とを前提となせること是れなり、凡そ商業は衆人の社會的接觸にして、賣買者の多數が定期的に接觸する場合に限りて能く繁榮を來たし得べし、これ等の衆人は抑々等しく同國民に屬すると然らざるとあり、又強大なると微弱なるとこれあり、而して社會的平和、一定保護、公共秩序の保證を得て相會合す、これが取引の隆昌を來たすべき條件は、社會の公開性なり、暴力及び詐僞の排除なり、市場制度、度量衡及び貨幣に關する社會的秩序なり、而して交通者及び商品を検閲し或はこれを入國せしめ或はこれが入國を禁止すべき統制これなり、



この故に如何なる市場に於ても、單に利己主義的衝動將た利潤欲の横行に放任せらるゝが如きは、未だ嘗てこれあらざるなり、社會的本能及び顧慮、慣習及び秩序は、必らずや如何なる方法を以てかこの利己主義的利潤欲を制限せざる可らず、殊に市場に會合するもの多數となりこれが民性の相異愈々著しく、最早血縁者及び隣人にあらずして、たゞ取引の爲めに邂逅したるものに過ぎざる場合に於て、益々然りとなす。

さて吾人は今交通發展の第二及び第三の時期に於て、市場制度が如何に個々に發達し且つ分化したるかの方法に一瞥を投ぜんとす。

**百五十三**

舊市場の分化、文明國民の最古の市場は概して毎年一回乃至三回開催せられ、基督教時代においては屢々基督降誕祭、復活祭及び聖靈祭に相當したり、トリアフォアラ(年三回開催の市場)はトリブスプラチリス即ち年三回の正規裁判開催期と平行せり、此等市場の多くは都市に先んじて發達し、従て未だ都市あらざるに市場は既に久しく存在したり、今日尙ほ亞弗利加及び亞細亞に於ては此の如き市場ありて年々數千人のものが一時會合し、而して市場閉鎖

の後はこのに殆んど人影だも止めざるなり、然れども僧正管轄の教會、君侯支配の莊園、僧院の外、年市に依りて大地域の發達するに及び、獨逸に於ては第十世紀の末葉以來、主として第十二世紀乃至第十四世紀の間に、年市の外に週市も亦發展せり、市場地域の田舎人は毎週一回若しくは二回市場に來り、これにて商人及び手工業者と交換せり、これより漸を以て日々開催の市場となり、則ちよし主要取引は毎週一回に限り、周域より農民及び騎士の會合し來れる際に行はれたれども、而かも手工業の親方、小賣商及び商人は日々これにて販賣に従事せり。

されば第十三世紀以來は、一方に年市ありて廣汎なる領域及び外來商人の爲めにし、他方に週市ありて隣接地域の爲めにし、且つ日々の市場を以て都市住民の需供を媒介したるの状態なり、分化はこれに止まらず、廣大なる地域にありては、特殊の制度と特權とに依りて個々年市の意義を増大せんことに苦慮し、これを一般市場即ち市(メッセ)と名け、その期間を八日乃至十四日とし、遠隔せる地方より普く商人を招致せんと欲したり、メッセ(市)てふ名稱の由來は市は教



會なりてふ箴言に在り、僧侶はこれに教會的儀式を連絡したり、この市は主として中世末葉より第十九世紀に及ぶまで、諸地方及び諸國土の商人の間に大規模に商品を流通せしむべき中心點として、且つは貨物積集地及び仕拂取引、信用取引の中心點として、大なる意義を發揮せり、シャンパニエの市は最も廣大にして此種の第一位に居り、ゲンフの市これに次ぎ、更に佛蘭西に於ては巴里、リヨン、ベザンソン、西班牙に於てはメデナ・デル・カンポの如きを著しとし、其後伊太利にありてはピアセンザ及びシニガグリア、獨逸にありてはポーツェン、フランクフルト・アム・マイン、ライプツヒ、フランクフルト・アン・デル・オーデルのそれを有名なりとす、露西亞に於ては現に尙ほニシニールノブゴロッドの市は繁榮せり。

此の如き相異なりたる市場秩序は、同一の外的制度と同一の法律とに準據したれども、尙ほ漸次にやゝ根本的の相異を來たし、種々の交通欲望を満足し、人間、貨物、貨幣、信用の流通を一定群に區別し、利害競争を統制せんとする種々の企畫を促したり。

舊市場は通則として、一地方的小領域、市外の一地點、教會及びこれが周域、市場地域及びその會議所に限られ、會議所は本來寧ろ商館にして、市會議員の會議室は僅かにこれに附帶したるのみ、田舎人はその木材、穀物、枯草及び葡萄酒を、鹽商人はその鹽をこゝに輸送し、商人はこゝに露店を開き、この露店は漸次に堅固なる商店若しくは商館と變じたり、屠肉業者、麵包製造業者、毛布商、靴商はこゝに店舗を並べ、消防警察、商品監査、供給合同の計畫は相待て以て市場の特權を一般に勵行し、始め多くは都市領主若しくは市會に屬したる市場、商店、商館、露店以外に賣買を禁止せんとしたり、今日にありてもアラン、スミルナ、東邦一般に於ては、一切交通をアゴラ即ち市に限定せり、コン曰、都市内に住居と結合し散在せる店舗なるもの未だかゝる社會にこれを認む可らずと、然れども東邦に於ては都市及び交通の膨脹に伴ひ、かくの如き商舖及び商館の強制は廢止せられ、少なくとも二三の手工業、一定の商品及び商人に對しては行はれず、仕事場及び店舗は全都市に設立せられ、單に都市門外に制限せらるゝことなし、殷賑を極めたる年市は古來の市場にては狹隘を告



げ、生産物を数日の間に新市場、大坂路に糶かざる可からざるに至れり、年市が擴大して市(マッセ)となるに及んでは、更に大商店を建設し、外來商人をしてこれが爲めに設けられたる商店若しくは特別貸貸店舗にて販賣せしむべき必要を生じたり。

(イ)市内に日々開催せらるゝ市場、既にこの地域上及び建築上の變化に伴ひ、取引とその傳承的秩序とは、個々領域にそれ〴〵特色ある發展あり、自ら販賣せる手工業者、並に漸く全都市に亘りて發展せる小賣商人及び大商人の取引の爲めに、都市は市場都市に變じ、此等の營業者は常に年市及び週市に於けるのみならず、日々時を撰ばず、仕事場及び店舗に自由に販賣することを得たり、かくて都市權及び市民權は市場權と同一視せられ、苟くも市民たるものは小賣業を營むことを得べく、(譯者曰、小賣業は都市及びこれが周域農民に直接販賣するものにして、これを市民に限れるは以て外來者に販賣領域を壟斷せられざらんが爲めの政策なり)、或る取引は獨り市民の特權と認められ、市民はビールを醸造し、商業及び手工業を營むを得べく、周域農民に對してはこれを抑止し

若しくは禁制し、而して外來商人は僅かに一定期間年市若しくはマッセ(市)にて取引することを許されたるのみ、都市は市民の利益に顧みて、これが周域に於ける手工業及び商業を障害し迫害し、例へばシントールに於ける農民の場合の如く、田舎手工業者が消費者の家族に入りて資料を供給せられて賃銀勞働に従事することを寛容せんと欲せず、これを妨害者及び犯權者として迫害し、都市居住者の爲めに苟くも行商人を阻害せんことを企てたり、かくの如くして市民全般の殷賑なる販賣及び取引てふ意味に於ける都市市場は全都市經濟的政策の樞點となれり。

(ロ)週市、さて都市政策組織の中心點は週市に在りて存すること、既に第三冊百〇五の叙述に徴しても明かなるべし、週市開催期は商人及び手工業者にとりても亦主要交通時なれば都市民にしてや、離れたるものは、週市に指定せられたる場所に賣店を設けんことを畫策す、週市は周域田舎人か、その粗生産品若しくは半生産品、主として生活資料、穀物、家畜、肉、野菜その他の物資を携帯し來りて、機具、布帛、其他都市商品の中必要なるものと交換し歸る所の



機會なり、現今に至るまで週市にて交換せらるべき商品の種類には一定の規定ありき、都市のこれに對する配慮と從て週市の安固なりし所以とは、農民が定期にここに會合したるが爲めなり、一地方的週市法及び仲買法、一般的國法も亦これが爲めに對抗畫策する所あらんとせり、週市は期間及び地域に制規あり、市場主管及び度量衡監督の掌握せる市場警察は、以て商品の質を劣惡ならしめず、度量衡に虚偽なからしめんことを期し、加之屢々定價を規定し、都市官廳の力に依りてなるべく市民の利益を計り、これが爲めに相場の暴騰を防ぎたり、この故に農民はこの定價規定を愁訴し、田舎の騎士領は週市統制に參加せんことを欲せり、貨物を必ず都市に輸致せしむべきの政策としては、契約若しくは法律に依りて、周域田舎に於ける一切の生産物はこれを強制的に最寄の都市市場に輸致せしめ、穀物の再輸出は屢々輸入額の一部分に限定し、或る種の間及び時期に對しては、苟くも再販賣の目的を以て購入することを禁じ、即ち木材及び肉類、獸皮及び獸脂は屢々一般にこれを禁じ、或る時期例へば市民がその家屋を修復すべき秋期には家畜の購入を制したり、外來行商人に對して競

争し、市民の田舎にて購入することを禁止して、以て農民が座がらに販賣することを困難ならしめたり、たゞ都市の屠肉業者は屢々田舎に出向しそこにて家畜を購入し來ることを禁ぜられず、農民はその家畜を都市に引き來る場合に、必ず自ら購買者を求めて供給せんとするものなることを明示し、都市より需要せられたるもの、如くなることを容さず、週市の眼目は、その朝夕に都市に來りて午後若しくは夕景に家路に着くべき農民の爲めに顧慮して、開催時間に確乎たる制限あり、且つ直接に農民より購買する所の消費者があらゆる關係上に小賣商、商人、外來者に對して優先權を有せることに在り、市場が八時より開かるゝ規定なれば、何人と雖もそれ以前に購入することを得ず、又都市の門外にて市民に賣渡すことを許さざるなり、而して八時より十二時までの間市民は自家用の爲めに購入し、これを終りて十二時以後、商人及び凡そ再販賣若しくは再輸出を目的となせるもの、購賣を許可せり、凡そ此の如き規定を侵犯するものは先買若しくは仲買として處罰せらる、尤も先買換言すれば主として更に高價に販賣せんが爲めの購入は、例へば小賣商、商人、外來商人、或る手工



業者に對しては認可せらるれども、かゝる取引の種類と範圍と限界とは嚴密に規定せらる、市場が午後一時若しくは二時の頃に閉鎖せられたる後は、一切の販賣を禁止す、多くの生産品は一回若しくは二回以上には市場に携帶することを許されず、田舎人がその木材及び穀物の販賣の期待なくして都市に輸送し來るは、概して絶對的に抑止せらる、たゞ都市の毛織業者は羊毛を、製革匠は獸皮を先買するの權利は屢々これを認めざるにあらず、若し或る市民若しくは外來商人が、穀類、木材若しくは家畜を多量に購入したる場合には、通則として市民若しくは手工業組合員は何人にも、自家用額に限りては同一相場を以てこれを譲り受くることを得べし、週市政策の究竟目的はなるべく仲介者を避け、以て物價の騰貴を防止せんとするに在り、生産者と消費者とはこゝに直接に相會することを得べく、而かも田舎の生産者はその全供給を市場に頼ぎて、先づ消費者がこれよりその若干の自家需要を満足し、而して後、既に疲労せる生産者が歸路を欲し、必らずしも相場の高下を問はず賣却せんとするに及んで、始めて商人これを多量に購入することゝなれり。

もとより大生産者、殊に北獨逸に於ける騎士領の如きは、寧ろ遠隔せる市場を求めんと欲したれども、田舎人の多數に對しては、單に運送費用の多額に上るべきか故に、最寄都市以外の販路は問題とならず、現今時代に及ぶまで、僻遠地方にして鐵道の便なく又著大なる交通關係もあらざる處にては、經濟的流通過程の大半は依然として古來の様式に従へり、周域數哩の田舎にて生産せらるゝ所のものは、都市の市場に輸送せられ、消費者及び仲間商人これを購買し、田舎人の使用品は、その生産品を賣渡したる都市に於て大半調達せらるゝ状態なり。

尙ほ週市立法の補充規定としては、生産品を都市に輸送し販賣せる村人は、概して一定の協約若しくは慣例を基礎として、都市よりビールを購入し、屢々一定原則を逐うて諸醸造所よりこれを求めざる可らず、さればこの地域的全流通過程は、統制に準據し確固たる形式をとり、これが供給及び需要の額は自然の増減に放任せらるゝことなし、こゝを以て販賣及び相場の現象は幾分均等に進行したれども、利害競争はこれが爲めに阻止せられ、進歩の刺戟大ならず、



苟くも變化は困難となれり、然れどもこれが究竟原因は、市場の傳承的秩序に存せずして、寧ろ當時の供給及び需要、將た交通及び道路の状態に在り、遠距離販路の困難に在り、この古來の週市法は、文明國にありては第十九世紀の間に始めて大半廢除せられ、幾分は千八百四十年乃至千八百七十年の間に撤去せられたり、而して法律は廢止せられたれども、尙ほ慣習の形式をとりてこの状態の持續したるもの少からざるなり。

(一)年市、舊年市は一般に週市と並び存したり、後代膨脹したる地域は、始めて最近二百年間に多く年市を發達し、小都市はもとより、村落と雖も屢々年市を發展せんことに努力せり、教會開基祭の際若しくはこれに引き續きて、民衆の會合するもの多く、これを機會として賣買取引することをも得たり、多くの地域は二回、四回、六回及び七回の年市を開催し得べき權利を認められたり、年市の期間は通常一日若しくは二日にして、家畜商業を目的となし、自然にこれが主要交通は初春及び秋期に限られ、其後に至りては周域六乃至八哩の商人、小賣商、手工業者の小口販賣を目的とせり、田舎人口の大多數、殊に定期に週

市を訪ふことなきものは、毎年一二回最寄の年市に來りて、工業生産物、雜貨及び香料、機具及び家具に就きその必要とする所を悉く購入するを常例となせり、而して千五百年乃至千八百年の間に發達せるこの習慣は、今日に至りても尙ほ廣く存續し、爲めに年市の開催も亦現代に及ぶまで絶えず、尤も年市の股賑を致せる所以のもの、觀劇欲及び娛樂欲與て大に力なくんばあらず、何となれば幻術師、技術師、輕技師及び賣春婦の年市に入り來るもの多きは、猶ほ曩時に異ならざればなり。

週市は生活資料賣買の市場なり、年市は家畜、毛布、麻布、靴を販賣する所の市場なり、週市にては田舎人が都市を指して入り來り、年市にては大都市の商人及び手工業者集り來り、近隣小都市の商人及び手工業親方は當該都市のそれ等と競争す、通常の年市には大商業の取引なくして小賣商業行はれ、販賣者として年市に營業し得る外來商人は近隣都市より來り、嘗ては他國及び地方のもの、他の大都市のものは屢々入市を禁ぜられたり、外都市のものは年市開催の期に限り、指定の場所にて、當該都市の度量衡に準據し、屢々この商社組



合の監査を経るを要し、關稅及び市場稅を納付して、始めてここに販賣することを許さる、外人に對する奸策曲法は年市に於ても到度全然撤去せらるゝに至らず、然りと雖も年市の制は爾他一般の拘束狀態に比して大に自由競争を認めたる重要な一制度なり、一年の間數日の年市開催期は、外人及び外商品が大體に於て自由に輸送せらるゝの時なり、年市が近隣に開催せらるゝ屢時なるに及び、市民及び農民は愈々長期間に亘りて自由に賣買交通することを得べく、經濟競争益々劇甚を加ふべし、聰明にして遠慮ある市會は、都市の或る商人團の獨占を有害と認め、個々的には年市以外に於ても交通の自由を許可し、例へば周域將た最寄都市の食料品(麵包類及び肉類)を或時期を定めて輸送せしめたるものあることを俟たず、第十九世紀に於て始めて工業自由の發布に伴ひ、歐羅巴の諸政府は概して一年間を通じ一切の交通部門に對して、年市の販賣自由權を認可したり。

(二)メッセ(市)、市は地の利を得たる大都市の最も殷賑にして且つ監理その宜しきに適ひたる年市より發達せり、市は同一地域に屢々年二回開かれ、期間は一

週乃至四週に亘り、年市の目的と問屋商業とを兼ね、加之諸地域の間に締結せらるべき貨幣取引及び信用取引の端を啓けり、メッセ(市)に會合するものは諸地方及び諸國土の大商人なり、例へばシヤンパニエのメッセに於ては伊太利人、獨逸人、ニールレンデルの來集したるが如し、フランクフルト・アム・マインに於てはニールランド及びビュルンの商人は、和蘭及び英蘭製の毛布を高獨逸の毛布商人に大取引をなせり、然れども概してこれを言へばこれと別にメッセの開催せらるる間に、小取引をもなさんと欲したり、第十五世紀乃至第十八世紀の間に發達せる家内工業、製造所工業及び工場工業、並に紙商業及び書籍商業は、當初メッセをその販路となせり、此の如きメッセの商業が發展し得たる所は、主要通路及び廻期に商人が滯留するを常とせるが如き地域に限れり、隊商組織即ち換言すれば一地域若しくは一地方より一定の商業地に向て廻期的に轉商せんとする商社的商人團隊はメッセ商業の組織と相聯關せり、即ちメッセ開催地は通路強制及び留置權に依りて自らその地位を安固ならしめんことに力めたり、通路強制的基礎たる本來の事實を尋ねるに、當時一般に道路に乏しかりしこと、道路に稅關



の設けられたること、君侯は必らず關稅を徵集し、而かもこの稅關通路のみに依らしめんと欲したること、而して後代に至り商業都市が一定の通路範圍に特權を行ひ、以て一切の商業をして必らずその市場を通過せざるを得ざらしめたることは是れなり、メッセ開催の期間、大供給と大需要とを交通せしめんこと、これ主要目的なりき、留置權は通過商人が商品留置都市に滞在しその商品を供示したる習慣より起れり、市會にして能くその市場の爲め、主としてメッセの爲めに畫策したるものは、特權を設定して、若干哩以内を通過する商人を強制してその都市の市場に商品を留置せしめ、屢々市民に販賣せしめ、場合に依りてはその商品を更に輸送せんが爲めには必らず別の車輛若しくは船舶に轉載せしめたり、留置權は一年間を通じて苟くも施行せられたれども、メッセ開催時に最も著しき影響を及ぼせり。

外商人を誘致し、メッセ開催の間これに何等不安の感情を起さざらしめんとするの設備として、多くは特殊の官廳を組織し、これを以てメッセの警察と裁判とを處理せしめたり、シアンパニエのグストス・ヌンディナールムは法官、陪審官及び

公證人を設け、賣買下請人、メッセ商人、呼賣商人、運搬夫に必要な人員、及び商人團を處理し保護すべき武裝案内者を配置し、内外兩替人を集中し若しくは統制したり、凡そ外來商人はこゝに來りてメッセ登録簿に記入し、外人商人及び商業組合の指揮者は、職業、市場貢納、争闘に關してこれと商議す、かくの如くしてこの制度若しくはその吏員は一切の支拂取引を監督したり、始め數日を準備として、この間に商品を解装しその品質を確定し、而して後稅關にて煩さるゝことなく開催日にメッセ取引を行ふことを得たり、最後に商品取引の終結となり、販賣額とそれに應じて關稅とを算定し、而して同時に支拂取引及び相殺取引も亦終を告ぐ、メッセの自由を如何に處理すべきかは全くその官廳の管轄に屬し、則ちメッセ官廳の公正と巧妙と熟練とはメッセ繁榮の條件たり。

メッセの自由とは、凡そ外商人がメッセの取引に基因せざる報復及び懲罰、拘禁及び愁訴に對して絶對的に安固なること、メッセ官廳が苟くも外商人に加へられたる障害に對して責任を有することの謂なれども一殊に通常外來商、所謂客商の取引に對して設けらる制限の一切若しくは過半を禁止することに在りて存せ



り、一地方的利害政策は、その地域の工業及び商業を保護せんが爲めに、外人法若しくは外商法を極端に發展し、即ち通常その地域に於て外商人の小賣業を嚴禁し、他地域より來れる外商人はその地域市民の媒介を待たずして取引することを許さず、その地域に生計を立つることを得ず、多くは一年間規定の日限以上にその地域に滞在することを認めざるまでに制限を加へたり、メッセの繁榮を來たすに及んでは、外商人相互に取引し、小賣業を營むことも得べく、例之酒小賣の如きあり、個々取引に關し且つ限界に就ては、その地域の市民と爭論絶えず、殊に鑑査に關し、その地域の標準とする度量衡を使用すべきことに關して然りとせず、然れども大體よりこれを言へば、メッセをして存在し繁榮せしめたる根本要素は、通常の地域的交通制限を撤廢せること、市民と外商人とを法律上に同列視したること是れなりとす。

商品取引の外、仕拂取引及び信用取引の發達も亦極めて重要にして、二三のメッセよりこれを觀ればさながら主要事項となれり、その製造品及び香料が諸國土の間に轉送せられ、信用發達し、仕拂も亦遠隔地域に宛てらるゝに應じ、貨

幣及び信用は愈々流通過程に参加せざる可らず、然れども諸地域及び諸國土はそれぞれ貨幣を異にし、多くは惡貨を使用し、國民的若しくは國際的郵便は、貨幣交通に對して尙ほ未だ發達せざるなり、されば諸國土及び諸地方の商人がメッセに直接邂逅するは、諸地域の間に仕拂を清算すべき唯一若しくは主要の機會なり、貧弱なる購買者は屢々大商人に對し、今期のメッセにて購入したる所を、次期を約して仕拂せるものあり、自らメッセに出向せざる商人は、或る取引仲間に委任し、代て仕拂し若しくは負債をなさしむ、兩替人は本來根本的に商業兩替即ち種々鑄貨の兩替を營みて利潤を得たるものなるが、メッセの發展に伴てこの如き委任をも引き受くるに至れり、伊太利の兩替商は北方のメッセに來り、到る處に代理者を派遣し、支店を設けてメッセにこれが委託を行へり、爲替の發達は、商人若しくは兩替人が、他地域にて主としてメッセの間に支拂をなすべき義務を負へる者より、その地域にて今日貨幣を受取り、數ヶ月後に同一額を他地域の鑄貨にて債權者たるものに支拂ふことに依れり、此等兩替人は、約定の數ヶ月間貨幣を所持しこれを利用し得るが故に、期限支拂の場合には幾分多額を



交付せり、利息、差額率これなり、彼等は又公債を募集し、而して他の地域にて別の鑄貨を以てこれを償還せり、高利主義的學説は利息を禁止し、この場合に利息がさながら鑄貨及び地域の變換の爲めに支拂はるを以て、敢て利息のことに論及せざらんとす、凡そ諸地方間や、大なる仕拂は、メッセにて行はれ、其仕拂日を指定せらる、爲替交通に参加せるものに對して確固たる秩序は制定せられ、爲替及び支拂義務關係の認證、否認の結果、不支拂及び抗議の規定あり、相殺清算の方法、多少緊急の執行も亦統制せらる、現今爲替の形式的性質は即ちこの制度と聯關して發達せるものなり、尙ほこれに就ては後段に論及すべし、かくの如くして既に第十六世紀及び第十七世紀の間に、數百萬マルクの巨額は敢て現金支拂を俟たず、爲替の相殺に依て決算せられたり、ピアセンツアに於ける年四回開催のメッセは、第十七世紀の初葉に、その貨幣及び爲替の交通額千六百萬デューカーテンと概算せられ、千五百年の頃アントウエルペンに於ける多數の貨幣取引額は、「エーレンベルヒ」の調査に依れば四千萬デューカーテンに上り。

こゝに舊市場制度の結果を総合すれば、當時一般に、商品交通、貨幣交通及び信用交通の大半が一定時期、一定地域に集中し、而して交通者相互の直接邂逅に俟てること是れなり、經濟的財貨及び給付の多くは未だ流通過程に入らず、その流通過程に入れるものも、大部分は都市周域と都市市場との間に短距離を往來し、極少部分が年市及びメッセ市に出てたるに過ぎず、財貨及び貨幣の全流通は小領域に區分せられ、商品は何れも時と所とに顧みて特有の市場あり、變化は徐々に起りたるのみ、屢々數代の間何等の推移なきものあり、市場は一瞥以て概観せられ、こゝに交通せらるゝ供給と需要とは久しく停滞し、僅かに收穫及び需要に準して小動搖を來たせるに過ぎず、獨り年市及びメッセ市は、これか組織に應じて、週市及び爾他の一地方的市場に比し、やゝ著しき發展をなし得たり、これメッセは更にも言はず、既に年市にして、その繁榮に依り從て利潤に依りて、遠隔地域より賣買者を誘致し得たるが故なり、週市の發達は都市人口の増加に待つ外の外あらざれども、メッセはその範圍を十倍若しくは百倍に増大することを得べく、即ち近傍に年市を設定し、或る商品に對して新顧客を求め、



新たに外地域の商品を輸致し、十哩より以て百哩乃至五百哩の廣大領域より賣買者を來集せしむることを得たり。

年市は市場の最古形式なれども、その顯著なる發達は實に第十四世紀乃至第十八世紀の時期に屬し、メッセの隆昌期は更に後代に屬せり、フランクフルト・アム・デル・オーダーのメッセは千八百五十四年乃至五十五年の間に始めて最も著しき交通を發展し、ニシニ・ノブゴロッドのそれは千八百八十二年に至るまで盛運を致せるが、爾後は漸く衰退せり、通常の週市及び年市は最近時に及ぶまで露西亞の如き國土には増加したれども、その西歐羅巴の中世時代に於ける發展段階の國土、例之北亞弗利加、アラビアに於けるが如く甚しきは未だ嘗てこれあらざるなり。

郵便、鐵道、電信の發展に先てる分業及び交通技術の状態は、抑々此等舊市場制度の前立條件にして、以てこれか確固たる法律組織と利害競争の統制と仲間商業に對するの競争と而して一切取引を時と所とに應じて一定範圍に配置せんとするの規定とを發達せしめたり、此等市場制度は大體に於て一地方的取引

生活を催進したれども、多くの點に於て交通を制限し、或は利己主義にやしもすれば濫用の機を與へ、増進的交通と高尚なる分業發達とを阻止したり、この故に既に久しく進歩の代表者より抗爭せられ、第十九世紀の間に漸次にして大半撤去せらるべきの運命を免かれさりき。

**百五十四** 近世時代の市場制度、既に千七百年の頃、佛蘭人は和蘭を賞揚して、その國土を擧げて年中商業を營めるが故にメッセを待たずして發達したることを述へ、而して爾他國家は僅かに廻期間にその大なる年市にて商業を發展せるに過ぎすと言へるは、これ事態の變動を道破したるもの、「テュルゴ」はメッセを以て何等交通繁榮の徽號にあらずして、單にやゝ注意すへき禁制的交通の兆候と認め、「ロッシュャー」をして言はしむれば、舊交通は畢竟時と所とを論ぜず一般に横溢せんには餘りに稀疎薄弱にして、強いてこれか股賑を來さんが爲めには時期上且つ地域上にあらゆる手段と制限とを以てさながらこれを壅止せざる可からざるなり、余は言はんと欲す、曰、書信交通、郵便、商人的印刷物、街道及び鐵道が未だ發達せず、人口尙ほ稠密ならず且つ散在居住せる限り、やゝ注



意すへき程度の交通を以て賣買相互を直接に邂逅せしめ、商品に鑑査せしむることは必要無く可からず、仲間商業てふ幾多の巨費を要すべき連鎖は、今日にありてこそ屢々市場をして無用の長物たらしむることあれ、當時未だ發展すること能はざりきと、かゝる發展段階の間、凡そ政治的體制は尙ほ狭小にして、殆んど都市國家及び州國家の發達に出でずと言ふも不可なるべく、市場の組織及び秩序も亦大體に於て一地方的なることを免かれざりき、千五百年乃至千八百五十年の間、漸次この事態を變動せしめたるもの、交通技術の改善、書信交通、航行、運河、道路の改善、運送工業と商業との分離、メッセ取引の増加、并に關稅線内部に統一市場を發達せんことに營々たりし近世國家の發展、等しくこれに與て力あり、國家の版圖擴張とこれが集中的組織及び行政とは、諸地方間の分業及び國內的、國際的大交通を創設し若しくは催進し、差當り國內的、國際的大交通は、僅かに最も輸送に便なる商品、例之毛布、美術的製造品、殖民地商品の如きに過ぎざりしはもとより言を俟たざれども、既にその端緒は看過す可らず、而かも全般を顧みれば、一地方的市場とこれが組織の綱領とは、

千八百五十年の頃に至るまで殆んど變動これなかりき、千六百年乃至千八百五十年の間、商業の發達は幾多の商業殖民地(第二冊人口論參照)に散在したりしのみ、これ商業の複雑となりたる結果として、やゝ廣く補助機關、發送人、仲立人、代理者を發達し、種々の大小商人を分化し、而してその勢力と利潤との増進は、概して當時の結社組織を以て能く利害競争を容易に拒斥したるに準じ、一般公衆は賣買當事者として依然市場の擴大と商業制度の複雑とに何等の知識を開發せざりしに正比例したり。

第十九世紀、主としてその後半期に於て始めて、都市制度は全く舊時の面目を革新せり、愈々大量の商品交通の爲めに、一地方的市場に代て州的、國民的及び世界的市場の發達あり、若しくは寧ろ小市場益々發展して大市場と接觸し、これに従屬して、その獨立と從て又その舊時組織とは全然若しくは幾部分消滅せりと言ふことを得べし、書信交通及び電信交通、旅行の自由、特殊商品の變じて模型的平均商品若しくは更に進んで普通商品の生産大に増加したること、具本を標準とせる購買の容易となれること、商人的印刷物の發達影響顯著とな



りしこと―これ等の發展は相俟て直接會合將た商品検査に依ることく、大小取引を大規模に行はしむるに至れり、農民は今や自ら市場に赴くことなくして、坐ながらに代理者の來るを待ちて販賣し、家婦は週市を訪はず店舗にて購買せり、大商業及び工場は、千八百年來尙ほ著しくは千八百五十年來、顧客を求めんが爲めに人を諸方に派遣し、加之都市の取引はその都市内に外交員を周行せしめたり、小都市の小賣業者は最早メッセにて仕入れをなさずして、大都市の間屋若しくは工場の代理者より購入し、かくて交通は概して年中間斷なく繼續し、船舶の往來は冬期と夏期とに別なし、供給と需要とを一定所及び一定時に合致せしめんことは必ずしも多く要せず、商業政策及び商業報告は能く輸出入と倉庫在高と供給需要の量とを調節することを得たり、嘗て僅かにメッセに於て外商人が、又僅かに年市に於て外手工業者が享受したりし如き交通の自由は、工業の自由に依り、近世外人法及び國際法に依り、今日殆んど國家の市民一般に對して承認せられ、延いて近隣國より來れる外人にも押し及ぼさる、仲間商人は最早週市に於て原販賣者たる農民及び園藝者に對し取引を障害せらるゝこと

なく、古來の先買禁制は撤去せられたり。

されば自由主義論者が絶對的自由の交通を謳歌し、舊市場制度を以て一に誤りたる制限と罵り、徒らに原生産者及び市場都市の市民に特權を與ふるものと認め、而して苟くも外來仲間商人を販路開拓者となし、調和的交通組織の完成者と稱揚して、千八百四十年乃至七十年の間に、一切の市場及びメッセの廢除を叫び、これ時間を空費し不要の迂路をとらしむる所の類廢制度に外ならずと號するに至れるもの怪むに足らざるなり、自由主義者の信ずる所を攝要すれば、商業交通は自然に發展し、凡そ特殊の直接邂逅なく、商品及び人間の集合なく、又これに關する官廳的若しくは社會的秩序の毫も存せざるを以て幸となす、而かもこれ誤謬にあらざれども、僅かに幾分の眞理を藏するのみ、或る市場及び市場の種類が衰頹したるは疑なしと雖も、依然として持續せるもの新たに發達せるものこれなきにあらず、市場が時期上及び地域上に官廳より秩序せられたる集落地として消滅せる限り、則ちその意味に於ては消滅せりと雖も、尙ほ地理的に結合し或る共同制度を備ふる交通關係の復合として存續し、屢々又新た



なる方法にて發達せり。

これが原因は單純なり、定期交通に依て結合せられたる賣買者相互はその補助員と精神的物質的に統一をなし、總利害を發達し、その取引生活は或る共同の協定と統制とを必要となす、多くの場所に就てこれを觀れば、古來發達の會合形式、本來の意味に於ける市場及びその媒介も亦、定期會合取引者の傳承的秩序として必要缺く可らざるあり、交通催進の機は決して一般に同一にあらず、苟くも郷土に跼蹐して何等四方に需要供給を索ることなき賣買者相互に對し、直に以て契約者關係を創始せざるなり、商品、市場及び取引に係かる知識の増加は、社會のあらゆる階級に一樣に普通するものにあらず、報告設備の改善が最も有利なる賣買地を供示するは、幾分僅かに最も大規模にして且つ最も富裕なる商館の爲めにするのみ、小商人、家婦は未だ參からざるなり、多くの取引より言へば、賣買者相互の直接談合、商品吟味が必要なること依然として變ぜず、されば現には反對せる二傾向ありて自然相對立せり、通信、經濟的知識、交通手段の發達に伴ひ、狹義市場以外の取引生活は増進したり、然れども交通

全般の増加と又既に陳述したる技術的進歩の不平等なるとに従ひ、狹義に於ける市場交通は或る場所に再び増大したるあり、嘗てこれなかりし所にも必要となれるあり、仲間商業愈々増加し而して販路上の知識を深くその秘密と認むるに應じ、生産者にとりても消費者にとりても、一市場に自ら直接に供給需要を觀察すること益々必要を告ぐることゝなるべし、吾人は後段これ等の傾向が市場の個々種類に如何なる影響を及ぼせるかを觀んとす。

(イ)週市及び建物市場、生活資料の自己生産は都市に於て殆んど全く、田舎に於ても少なくとも幾分は消滅したり、家族經濟は貯藏品を蓄積せること過去と比して遙かに少量に、個々に購入する所多きに至れり、そのこれを購入するは屢々小賣店、野菜商人、小賣商人に於てしたれども、需要の夥しき増加は、殆んど何れの所にこれを觀るも、常設商店のみを以て十分に供給すること能はず、商品の大部分は日々新たに田舎より輸送せられざる可らず、而して舊週市は都市の需要を媒介し調達せんが爲めに、今尙ほ最も單純なる形式なり、週市がその取引商品を取捨し或るものを拒斥したるはもとより論ずるまでもなし、穀物



商業は「シランネ」即ち特殊の穀物市場にて取引せらるべく、家畜及び肉類の商業は幾分特殊の機關を設定し、葡萄酒及び鹽、木材及び石炭は常設取引の司る所となれり、然れども舊週市は概して膨脹都市に於ては、數十年來以て十分なる供給をなすこと能はず、その諸所に配置設立せられ、田舎生産者（農民）の外、仲間商人、市外及び田舎の屠肉業者及び麵麩製造業者の來集せる場合に於ても亦、週市を以てしては概して未だ十分なること能はず、これまた常設商店の週市に取て代はると能はざりし所以の一證明ならずばあらずとす、而かも週市の裏面は今日明瞭争ふ可らず、即ち一週間二三回臨時の市場を設けてこゝに假小舎を建て、これが商品輸送に關する秩序、許多商品の陳列は、犠牲多く繁冗なる一規定にして、概して半日間全街道の通行を禁止せしめ、太陽光線及び降雨、炎熱及び寒氣、塵埃及び汚物は多くの商品を毀損せしむ、されば身體力と風雨に堪ゆると貌の剛強なるとに依りて特に他人に秀でたるものにあらずんば、週市に露店を並べ販賣すること能はずとは、屢々唱へられたる言なり、農民並に家婦は、仲間商人が市場に於て自己生産者と全然同列視せられその間に何等

の區別を立てらるゝことなきに至りし以來、その薄情と商議とに就て訴へたり、是を以てこれを觀るに、週市は決して完全なる制度にあらずと雖も、而かも缺く可らざりしものたり、何處にこれを尋ぬるも、實際的都市政策若しくは、商人的投機は、舊週市の不十分なる點とその餘りに狹隘なると、小中間商人及び代理者が朋黨的に市場を支配し且つは都市に於て不自然に價格を暴騰せしむることに關する痛切なる愁訴とを、極小市場を全然廢除して以て救済せんとしたるもの殆んどこれなし、否、これに代ふるに一層擴大せる建物市場を建設し、さながらに中世時代に於ける週市の原理を近世的形式を以て復興せり、即ち供給及び需要の集中、同一商品の購買者、商人及び自己生産者の會合邂逅、而して生活資料の集中的市場を政府監督の下に置き、これを嚴重なる度量警察及び衛生警察に屬せしめること、巧みに販賣機會を供與して以て商品輸入を獎勵したること是れなり。

建物市場は幾分既に第十九世紀の初葉に起りたれども、多くは最近二十年の間に始めて發達したるものなり、この市場設備は屋根を張り風雨を防禦し、日



日午前、午後、夜間に開催せられ、こゝに小販賣店を區劃し、或は毎日、或はやゝ長期間の規定にて、生活資料商人及び生産者に對しなるべく收支相償ふだけの貸付料を徴して貸貸せらる、商品の種類に應じて賣店を分割し、多數の同一商品販賣人は一所に相並び、大商業は幾分時期的に又幾分地域的に建物市場内に小賣商業より分離せり、普通販賣者と別に官廳より指定せられたる代理者あり、何人に限らず商品をこれに宛て、發送し販賣することを得べし、この代理者は當該商品の販賣せらるゝや、口錢を差引き直に賣上金をその供托人に送附す、自由販賣と相並びて競賣の制起り、主として官廳指定の代理者に依りて設備せられたり、當初ベルリンに設けられたる八個の建物市場は八百萬乃至九百萬マルク、巴里のそれは約一億フランの費用を要したり、然れども爾他國土の事例に於けると等しく獨逸に於てもこれか收支相償ひ、加之大都市の供給を十分ならしめんが爲めに缺く可らざる前提たることを事證せり、事務員、監査官、警察機關、官設運搬夫の復雜装置は必要となり、市場秩序は以て勤務と個競争の種類とを規定したり、建物市場の繁榮は、一方に鐵道、屠殺所、水路

交通及び道路交通と正當なる聯絡を保ち、他方これが販賣者と爾他商業との間に協働を得ることに繋りて存せり、然れども建物市場は大都市には一般に缺く可らざる制度となり、而してその最も股脈を極めたるは、株式會社若しくは私的結社の如き組織未だ發達せず、公共權力即ち國家及び市町村がこれを設備し、これを所有し且つこれが行政に當りたる場合に在り。

家畜商業及び肉類商業に對する發展の期待は、生活資料商業の爾他部門に比して更に乏しく、これが爲めには經營その宜しきを得たる公設大市場なく、家畜飼養場及び屠殺場あるにあらず、たゞ諸所に散在したる私的常設取引を以て需要に準じ發展したるに過ぎず、極めて粗漏にして不都合なる衛生状態及び肉類相場の暴騰が、大都市に於て救治せられたるは、實に屠殺場強制法を施行し、公共的屠殺場を建設し、巨大なる公共的家畜市場を設定してこれに厩舎を備へ、以てこゝに家畜商人及び農夫が代理者の仲介を待たずして直に肉商及び輸出商に販賣し得たる時に始まり。

(ロ)年市及び特殊市場、商品陳列館、競賣、年市は週市に比すれば一層無用の



長物となりたれども、その數には殆んど減退なし、たゞ年市の多くが交通額に絶對的若しくは比較的の衰頽を來せるのみ、嘗て農民が年市に來りて購入したる所は、今や田舎商店に於て辨ずることを得べく、坐ながらにして行商人これを齎らし來ることもあり、臨機都市に出て求むることを得べし、然れどもこれと共に、舊習慣と年市に供給を集中するの利益と年市の遊興とは依然として絶えず、而して或る商品に至りては、賣買者相互が定期に年々數回邂逅し、商品を検査し若くは見本に依て契約を締結するを必要となすものあり、されば田舎の一般的家畜市場并に特殊なる馬匹、馬仔、羊、豚の市場、忽布(ビールの苦味を付くる草花、これは日本にも現には栽培せらるれども輸入品に及はず、數年前余の樺太に旅行せる際には豊原に近き某農事試験場の試作に數株ありたるのみ、札幌ビール會社にて示されたるものは輸入品と日本産との間に一見優劣を認めたり譯者云)及び葡萄酒の市場、羊毛、亞麻、苧、麻布、撚絲、其他この種の市場は、最近數十年の間に於ても尙ほ益々重要を加へ來れり、これ等の市場にて原生産者は商人に、幾分又小農民は大農民に、市場地域の商人は中心市

場の取引に販賣したり。

これに對し都市に新たなる種類の年市、即ち大商品陳列館の發展あり、この設備は大商人及び大資本家の經營に繋がり、嘗て年市の營みたるが如く、地域的に巨大商館内に一切の織物製作品の供給を集中し、公衆はこれを一周し、生活資料は姑く除外例として、あらゆる需要を調達することを得べし、尙ほこれに就ては餘は後段に論及する所あらんとす。

本來大會社の設立に繋がるカッフェー、砂糖、茶、木綿の競賣は一種の市場にして、一定地域一定時期に供給を集中し、屢々現代に至るまで持續し、而して世界商業の中心點に於て尙ほ他の商品を取扱へり、ハンブルヒには魚類競賣あり、ライプツヒには毛皮競賣起れり、この場合に於ても亦特殊の市場を眼目とし、供給は一定時に集中せられ、同時に需要をこゝに來集せしむ、商品を目撃し吟味し、主なる販賣者と購買者との直接交換を以て市況に關する正當なる見解と一切の取引締結とを得せしめ、競賣に依りて一舉に賣捌き、現金支拂を受け、好況に乗じて相場を騰貴せしめ得べきの利益は、此の制度の發達を促すに至れ



り、この制度は幾分近時に至りて再び放棄せられ、相場下落の景況に際しては投賣となり、益々相場の不況を來たすことなしとせず、然れども經濟的發展の幼稚なる國土にありては、概してこの制度に模倣せんとするの計畫あり。

(ハ)メッセ、標本陳列所、展覽會、メッセはその交通の一部分たる貨幣交通及び信用交通の清算を全然失ひ、この事項は轉じて郵便、銀行書換交通(即ちギロ交通)、爲替及び其他の銀行商業、清算所の活動、最後には取引所及びこれが日々取引の任ずる所となれり、商品取引にありて個々メッセの尙ほ保留せるは、商品の直接吟味を賣買の絶對的條件となせるが如き部分なり、即ち例之ライプツヒに於て革皮及び毛皮のメッセ商業が持續せるが如し、概してこれを言へば個々メッセは、定期的に設立せらるゝ標本陳列所の特色を取るに至れり、ライプツヒに於て滋陶器及び硝子商品、磁具、呉服商品の爲めにせらるゝメッセの如き即ち然り、然れども定期的若しくは永續的性質を帶べる此種の標本陳列所は、殆んど全くメッセと獨立せるものなり、主として輸出を獎勵せんが爲めにこれが設立を觀たる事例隨所にこれあり、シュトゥットガルト、ベルリン、ドレス

デン、ウィーン、ベスト、アムステルダム、ロンドン、ベルグラードに於けるもの、如きこれなり、或はこの種の一時的展覽會を組織せるものも亦これあり、その目的は最近五十年來、世界的及び國民的大博覽會の大規模になせる所を小規模に實行せんと欲するに在り、これ二三ヶ月に亘れる世界的年市にして、その出品企業家は、世界の各所より蟻集し來るべき觀覽者に對し、自家生産品を摸型及び標本を以て展覽に供し、かくして顧客を得んと欲す、標本陳列所并に世界的博覽會、國民博覽會及び州縣開催博覽會に於ては、週市及び年市の舊原理反覆せられ、即ち競争者は各々直接にその商品を並列し、以て比較を便にし且つ優良品をして容易に競争場裡に勝を制せしむ。

(ニ)取引所、大なる商業都市に於て中世時代以來發達したる慣習に觀れば、商人、幾分は又これが補助工業、仲立人、船夫及びこれに類せる職業に従事する者が、日々市場、一定旅館及びカフェー店、若しくは特にこれが爲めに設立せられたる商館に會合し、以て迅速に取引を締結し、取引状態を語り、新現象を聞き、取引潮流に影響を及ぼしたり、始めアントウエルペン、リヨン及びアムステ



ルダムをこの種交通の中心點となしたるは、資本、株式及び國家證券を取扱へる商業なりしが、その後カッフェー、穀物及び普通商品他商品を以て代用せられ得べき種類の商品を取扱へる定期商業これに加はれり、千八百五十年乃至七十年の間、主として鐵道、蒸氣船航行及び電信の影響に依りて、定期商業は狹義の定期取引となり、即ち換言すれば必ず期限を定めて同一量同一種類の普通商品及び有價證券を引渡すべき時期取引となれり、この取引は一定の證書を基礎として、授受の義務を容易に十人二十人五十人に宛て逐次移轉せしむるの組織となり、従て現今取引所は、定期に多くは日々に開催せられ、一定組織を備へ、この取引に適當せる大商業部門を營める一地域商人の會合所として發展せり、これを巨細に觀察すれば組織上の差別極めて甚しけれども、概して取引所制は第十九世紀の間に愈々重要を加へたり、これ蓋し無限に増大せる交通を最も容易に且つ最も迅速に處理せんが爲めには、交通當事者が日々相邂逅し、現物引渡に代ふるに船積證、倉庫證、契約證若しくは定期引渡證を以てして即刻に授受し、取引締結に對し取引所會集者の總體の議に依て一定形式を發見し、權威

を以てこれを確定し、即ち一言にして相場額を議決し最大契約を完全に遂行せしむるを要すればなり。

取引所にして幾分尙ほ舊様式に依れるものはありとあらゆる取引業者の機關たり、例之ハンプルヒ、プレイメン、シュテッティン、ダンチヒに於て、百萬富豪より徒弟に至り、有價證券商人よりカッフェー商人に至り、銀行業者より以て小船主に至るまで、一切取引業者の日々集合せるが如し、然れども取引所は幾分且つ漸次に全く分化發展をなせり、即ち英蘭に於けるもの、如き多くはこれが事例にして、有價證券、穀物、石炭、其他重要なあらゆる商業はそれぞれ特殊の取引所を有せり、取引所制は幾分自由集合所にして、何人にもこゝに會合し得るもの、ハンプルヒに於けるが如きあり、幾分貴族的封鎖俱樂部及び組合にして、こゝに會合せんが爲めには必ず推薦と承認と入場金と株所有とを條件とせるもの、英蘭及び北米合衆國に於けるが如きあり、而して又幾分は此等二形式の混合組織をなせるもの、獨逸に於けるが如きこれあり、取引所は或は寧ろ私的、組合的協定に依りて設立組織せられ、或は寧ろ國家及び市町村、商



人結社及び商業協會に依りて創始せられ且つこれが組織内に秩序せられ、然り而して一般的傾向としては、商人的、職業的自治の原理を國家の監督の下に且つは規範的立法の制限と矛盾せざる限りに遂行せんとするを著しとなす。

國民經濟上より觀て最も重要な點は、取引所に依り、嘗ては大なる資本交通及び有價證券交通の爲めに、次では世界市場の最も重要な普通商品他商品を以て代用せられ得べき商品、即ち穀物、カフエー、木綿の爲めに、日々開催の大集中市場發達し、この大市場に個々領域及び國土の供給需要と全世界のそれとが接觸し且つ相殺せらるゝことに在り、こゝに日々の現今取引の外、數週間數ヶ月間に亘れる定期取引(嚴密なる意味の)行はれ、即ちこれを以て交通の増進あり、極めて大口の賣買を即時に取引すること可能となり、將來相場の變動を致すべき原因を觀察する上に銳利なる打算の精神を昂進す、保藏品及び價格は多く相殺せられ、個々地方及び國土の需要は愈々完全に充足せられ、時ありて襲來すべき相場の大變動は消滅して、寧ろ小なる日々の相場變動と變ず、尙ほ吾人は後段投機及び定期商業の本質と裏面とに論及する所あるべし、この裏

面が極めて大なるは疑の存せざる所、必らずや抑止せられざる可らず、然れどもこれを抑止せんが爲めに、定期商業に對する粗漏なる禁令に訴へんが如きは、正當なる取引をも撲滅する所以にして、その可なるを知らざるなり。

取引所の弊害を抑壓せんことは、取引所それ自體の組織に依りて施さるべし、それ取引所は組合若しくは官廳の秩序に俟てる市場にして、多少の公開性と確固たる慣習及び慣例とを備へ、自ら規則を設け若しくは官廳より布告せられ、總利害に立ちて取引形式を確立し、而して當該關係者は悉くこの形式に依らざる可らず、されば多少に拘らず取引生活の秩序あり、利害競争の統制あり、この統制と言ひ又秩序と云ふ、よし不完全なる事もとより論なく、個々人の利己主義的權力に依り支配せられんとも、而かも亦合理的正義及び總利害の爲めに影響せられずんばあらず、入場承認法に依り、屢々又賣店數及びそが營利の種類に依りて、何人をして取引所に入らしむべきかは規定せらる、或は民制的に毫も審議することなく、素人をも入場せしむる取引所あり、或は承認審議を基礎とし、特に推賞せられたる商人に限りて入場を容すものあり、一つの取引所



には日々五十人乃至五百人の來集者あり、他の取引所には千人乃至五千人のそれあり、而かも後者がその人數に應ずる巨大取引をなせることを必せず、訓育に依り名譽裁判所に依りて、取引所は穩健、正直、當不當競争の準據を規定し、この規定する所は且つ取引所に且つは屢、その地域一般に流行す、その如何に相場記録を統制し、即ち換言すれば平均價格若しくは統一價格を如何に決定し公表するかの方法は、則ち取引所が相場の變動に干涉して以てこれが正邪を裁決する所以なり、その印刷業者を監査し統制する方法は、商人機關紙上の報告が果して眞偽何れに偏れるかに影響する所以なり、取引所の機關は、取引所に於て取引せらるゝ商品及び有價證券とこれが取引形式とを規定し、而して賣買せらるべく相場記録に登録せらるべきものは、取引所委員の審査を経たる有價證券に限らるゝを以て、取引所は多少の取捨と檢閲とを行ひ、餘りに甚しき錯誤と虚偽とを禁止す、概して定期取引即ち換言すれば大投機取引が如何なる商品及び有價證券に許さるべきかに就ては、取引所これを規定し、然らざれば則ち法律これを規定す。

取引所は今日あらゆる市場の市場となり、あらゆる大なる取引生活の中心點となれり、こゝに醸成せらるる取引所輿論は凡そ經濟運営に當れる錚々たる人士が抱懷せる取引知識の蒸餾なり、取引所は資本市場を支配して以て、外國に對し、政府に對し、一定の取引部門に對し、苟くも經營の創立に對して、供用せらるべき資本果して存せるか、將たその如何なる利率をなせるかに就て黒白を決定するの力あり、取引所相場は國民的及び國際的全取引生活に對して晴雨計をなせり、取引所は或る意味に於て國民經濟の頭腦となれり、然れども取引所は不當の發達をなし害惡を藏し、その取引集中は個々取引をして巨大の膨脹をなさしむれども、抑々國民經濟を指導すべき所以の具を阻止するが故に、崩壊を免かれざるなり。

個々の取引部門が取引所を必要とせざる場合若しくはその限りに於ては、これが交通は取引所を俟たずして締結せらる、然れども屢時取引所にて相會合することが如何に重要なかは、ニールラインの穀物市場にこれが實例を徴しても明かなるべく、即ち當該市場はキールン若しくはドイツブルグの取引所に集



中すること能はざれば、これに代ふるに主なる商店は毎週一定の輪番にてライ  
ン州の爾他都市に集合するの制を以てせり、英蘭に於ける巨大なる木綿工業の  
發展も亦これに等しく、一切の工場主が火曜日及び金曜日を期してマンチヌタ  
の市場に會談せる結果に依りて左右せらる。

直接取引所の來會者、大小商人及びこれが供托者が、取引所に於て大取引然  
り巨大取引を遂行し得べき集中と大量と容易と迅速と、一切取引の將來價格に  
伏在すべき偶然的及び危険的要素と一凡そ此の如きは必然の結果として、取引  
所以外に於てしかく大なる利潤と經濟的損失とを生ずることなく、且つ悲い哉  
廉耻心なく利潤に狂奔せる投機者をして他人殊に素人を瞞着せしめんとするの  
刺戟も亦、取引所に於て最も強烈なるを致さしむ、取引所に於て最も猛烈にし  
て最も苛酷なる利害競争起り、以て巨大財産を作らしむれども、一方に於て最  
も聰明有能なる商人を養成せずんばあらず。

吾人は取引所の濫用を救済し、これに屬せざる素人を取引所及びこれが取引  
の渦中に投ぜざらしむるに於て苟くも遺漏ある可らず、然りと雖も現今國民經

濟的組織と私有資本財産と現今流通過程と存續する限り、取引所の裡に現はる  
る生存競争の形式は、よし改善し醇化することを得べけんも、到底以てこれを  
廢除す可らざるべし。

**百五十五**

商業及び商業組織、流通過程に對する爾他階級の參加、(イ)千五百

年乃至千八百五十年の商業、近世市場制度に關するこの論述を以つてすてに吾  
人は商業交通の人的組織を隨所に略説し、又これが多少の綱領は譯補の第四冊  
**百十五** 分業論に際して既に開陳したるが、尙ほこゝに經濟的財流通の全過程  
が如何に漸次に人的機關を設定し、一面商人と他面社會の爾他階級即ち生産者  
及び消費者が如何にこの過程に参加し、依て以て如何にその經濟的地位を規定  
せられたるかに就き、一つの體貌を計畫せざる可らず、蓋し此の如くして始め  
て吾人はこの過程の本質、將たこれに對する社會階級の種々の地位に關し、一  
つの具體的直觀を得なければなり。

吾人の先きに觀察したるが如く、上陳交通時期三分類の第一時期即ち交換及  
び取引尙ほ至て稀に而かも偶然に行れたるの當時にありては、直接相互に取引



をなせるものは多く諸種族の君侯及び酋長に止まり、商人なるもの未だ全く若しくは殆んど全く存せざりき、而して上陳交通分類の第二時期に於ても、既に都市市場の發達したる後尙ほ久しく、農民は都市人、手工業者、あらゆる都市消費者を求め、手工業者は農民に對し、中間商人を俟たずして直接に販賣せんことを求めたり、凡そ中間連鎖はその勞働に對し必らず代償として價格に若干額を加ふること論ずるまでもなく、この結果は即ち商品の價格を騰貴せしむ、若し中間連鎖を必要とせざれば、即ち一つの節約なり、これが實例は短距離の小交通に觀るべく、農民と手工業者とが定期に且つ直接に都市の市場に邂逅したりし限りかゝる状態なりき。

稀少品及び遠距離より輸さるゝ商品に對しては則ち然らず、此等の商品は始め遍歴外商人が主として年市に齎したる所、且つは年市以外に、都市より都市に、村落より村落に、莊園より莊園に行商したる所なり、行商人は海路及び陸路に依り、先づ隊商の形式をとり、幾ならずして個人的にも異域に進み入り、何處にこれを觀るも交通の先驅者たり、吾人は既に第四冊に於て、如何にこの

行商人が、才能と勇氣と機敏と宇宙及び人間に關する知識とに依りて、始めて企業家となり、大所有を獲得し、屢々故郷に於て貴族的地位を占め、異域に在りて支配的地位を克ち得たるかを叙述したり、古代及び中世時代の商人は、大半遍歴し旅行し、市場を求めて移轉したるもの、彼等は自ら直接に若しくはその代理監督者(Saperago)に依りて商品に同伴せり、第十六世紀以來始めて、商人は船長にその商品を全然委託し、船長は運搬業者たると同時に商人の代理監督者(Saperago)たること普通となれり、現今と雖も尙ほ近世交通手段の未だ發展せざる國土にありては、主として交通の任に當れるものは、常に小行商人のみならずして又遍歴的大商人なり、シヅェリア、西部亞米利加及び其他に於けるが如き即ち然りとす。

遍歴商業と相並び、久しく同一人に營まれたる後、常時的、土着的商業の發達となり、既に中世末葉にありては漸次に問屋商業及び小賣商業に波及せり、大商業は尙ほ久しく半ば遍歴取引業なりしが、小商業は手工業的に經營せられ、都市の市場に限られたり、運搬業、郵便、代理商業の新形式が發達し、近世國







居域に限られ、小商業は大小都市に固有の發達にして、田舎には殆んど未だ及ばず、此の取引業の密度とこれに依て生じたる商業とは、漸次に益々比較的近密となり、大體に於て固定し來れり、小都市に於ては一若しくは二の雜貨商業あり、大都市にありては、食料品、殖民地商品、製造品あらゆる織物、金屬品、鐵器等の商業と小賣商業と並存したり、小商業に於ける分業は著しからず、その經營は緩徐にして手工業的なりき、各商店は直接面識ある顧客を有し、その使用する所を近所の懇意なる大商人より仕入れたり、この地域の市場法及び組合(インヌンゲン)法は以て商店の繁榮を助成したり。

大商業には多少の分業徐々として起れり、言ふまでもなく尙ほ久しき間は、貨幣取引業者及び信用取引業者は同時に商品取引業者たり、織物及び商品を取引せるものは同時に家内工業的労働者の前貸人なりき、然れども資本商業及び信用商業は愈々發展し、先づ伊太利に、次いで獨逸、和蘭、佛蘭西、英蘭に、メヂチ家、フンゲル家、ロスチャイルド家の如き準君侯的商人を輩出せしめ、此等商人貴族は取引及び市場に關する國際的知識と巨大資本とに依り、商業政策上

の君侯として、今や將に市場、大商事會社、並に殖民地貨物商業を支配せんとするに至れり、これと相並びて商港に原資料及び製造品を取引せる大船主及び大商人あり、穀物、石炭、絹布、綿布及び毛布を取扱へる商人等これあり、急時に於ける穀物の積集、貯藏、分配、穀物相場の制定は、古代に於て屢々政府の管掌したる所、都市の倉庫行政、財政的年收獲行政に屬したる事項なりしが、漸次に、殊に千七百七十年乃至千八百五十年以來、これ等の事項は私的大商業に委棄せられたり、而して鐵器商人、書籍商人、其他の大商人も亦これに與かり、代理販賣人は大商業の一地方媒介者として、本來の旅館業者及び外商人案内者たりし地位より、認可せられ且つ統制せられて、市場、政府及び商人の半官的受託者となり、これが自家の營業は則ち悉く禁制せられたり、此等の販賣受託者並に凡そ取引生活に参加せるものは、結社的組織に依り、慣習、規定及び法文に依りて、その活動の確固たる範圍と一定の利潤機會とを豫定せらる、即ち手工業者は商業を營むこと能はず、商人、多くは又前貸人は、家内工業労働者の活動と一切の工業的生產とを禁止せられ、田舎の住民、行商人、並に外



商人はあらゆる禁制を加へられたり、而して大商人及び信用商人は屢々舊制限を凌犯することあり、第十七世紀に於ける和蘭の大商人たる「ビーター・デ・ラ・クル」より以て「アダム・スミス」に至るまで、社會の風潮はこれ等商人を排除せんことを叫びたれども、尙ほ彼等は第十九世紀の中葉以後に至るまで廣く存続したり、鐵道時代に及んでも尙ほ、全然商人の關係せざる國民經濟の大領域あり、家族殊に田舎に於ける自足經濟は、一切生産の五十乃至八十プロセントを占め、田舎と都市との舊交通は、千八百三十年乃至七十年の間、尙ほ多くは中間商人を介せず、商人以外の多衆國民、田舎人、都市の中流階級、官吏、兵士、勞働者が商人を必要とせる限り、商人は多くこれ等の階級に對して知識を有せざりしこと疑なし、商人階級は消費者と生産者との間に、概して安固にして屢々獨占的なる地位を有し、商業は久しく變化の著しきものなかりき、利潤は大體に於て異常現象を呈せず、小商業及び其他に於ても屢々僅少なりしが、收支相償はざるの難には陥らず、大商業に於けるものは概して著しく、加之極めて重大なるものこれあり、而かも如何なる場合にも、利潤は商人の全運営と等しく、

慣習、習慣及び法律の從來軌道の間に運動し、市場制度は利潤可能の程度を支配し且つ統制し、公衆の觀る所に準據して大小一切の商人營利を是非したり。大小商業のこの從來秩序が數代以來効果したる状態概して如何と問へば、千七百七十年乃至千八百六十年の發達に繋がる「リヴァプール」木綿商業の全部門に就て、「フックス」及び「エリソン」の賞揚したる所即ち是れなり、換言すれば一般的信用と一般的名譽と、個々人を統制せる一般的公開性と或る程度の健全なる競争と能く行はれ、而かも何等の嫉視なく、毫も苛酷なる利害競争を觀ることなし、要之や、退嬰的なる結社的名譽は、千五百年乃至千八百五十年の間に亘れる歐羅巴商業の徽號なりき。

これを以て近世初期の國民經濟學文献に於て、商業か樂觀的に賞揚せられたる所以のものも亦理解するに難からず、詩人と言ひ、政策家及び政治家と言ひ、皆商業の利益を賞揚せざるなし、商業は不及を相平均し、始めて効用と價値とを創造し、高尚なる欲望を發達せしめ、高尚なる文明財を輸致するものと認められたり、而かもこれ疑なき眞理なれども、亦實に裏面を看却せり、商業の權



勢とその爾他階級を支配せんとするの趨勢と、これが幾分不完全なることを免かれざる秩序と、特に商人階級に著しく發達せる利己主義的營利衝動とに既に業に存在したりし裏面の弊を看却せるものならずばあらざるなり。

**百五十六** 商業及び商業組織、(ロ)現今の大小商業及び遍歴商業、商業補助の營業、投機商業、商品陳列館、さて上來陳述せる本質を異にせる商業の形式及び種類と、その廣汎なる分業と幾ならずして商業を風靡するに至れる別種の精神と、曩時と相異せる商業制度及び商業組織と、悉く全然新たなる發展ならざると言を俟たず、第十五世紀乃至第十七世紀の伊太利商業都市、第十六世紀乃至第十八世紀のアントウエルペン及びアムステルダム、殖民及び航海を發展擴張せる以來の英蘭は既にこれが發達の端を啓き、西歐羅巴は第十九世紀の前半に於て、變化せる新商業形式を更に隨所に實現したり、然れども新組織の完全に發達したるは實に第十九世紀の後半に在り。

新交通手段の流通はこれが主要原因たり、工業及び商業の自由も亦これに參かり、舊形式の破壊を容易ならしめ、商人的營利衝動は社會の廣大範圍に大膽

不敵となり加之傍若無人となり、諸階級に普及したり、貨幣經濟の優勝、信用經濟の發達が商人的冒險を容易ならしめたることは測り知る可らず、資本の増加が財貨の保藏と投機と、而して諸地域及び諸國土の間に價値の相殺とを可能ならしめたるは、これを過去と同日にして談ず可らず、利害競争の刺戟は一面勢力を鼓舞し而かも他面に錯誤と詐偽と大濫用とを伴ひ、小商店並に大銀行に嘗て認む可らざりし別種の習慣と精神と傾向とを輸したり。

これが根本的結果は自足經濟の衰退なり、而して一切の生産と消費との大半部分の間に商業仲介者が現はれ、一地方的交通衰へて州縣的、國民的、國際的交通これに代はり、既に存在したる少數貴重品を取扱へる商業の外に殆んどあらゆる經濟財を取扱へる大量交通が更に一段の重要を加へ來れるの事實なり、世界經濟的關係は苟くも家族經濟に襲來し、僻在せる農民莊園、騎士領地、小工場並に大工場、小賣商店並に大商人的取引に侵入せり、現今文明諸國に於て、凡そ財生産は生産者より消費者に渡るまでに、中間媒介者及び中間取引の連鎖を迂回するもの益々多きを加へんとす、この連鎖取引は幾分生産物を加工



し、粗生産品より中間生産品未精製品若しくは半生産品を半生産品より精製消費品を調達するものなるあり、又幾分は單に土地變換、倉庫保藏及貯蓄品保藏、生産者及び消費者に對する財分配、正當相場の規定に亘れる機能に任ずるものなるあり、生産は悉く注文商業に依り、消費は舉げて供給小賣商業に依りて益益支配せられんとす、經濟財に對する重大需要は愈々以て消費者より轉じて商人に移り、商人は則ち生産原料、商品、市場、需要に關する知識に於て消費者に勝れるを以て、消費者自體よりも良好にこれを調達することを得、これを以て又他面に國民經濟の機關が一層複雑となり、その商人たるもの、善特質若しくは惡特質、能力、利潤欲及び缺點より影響支配せらるゝこと前古の比にあらざるは敢て言ふを要せず。

通じてこの問題の眼目は商人階級、生産者及び消費者の間に起れる新關係なり、取引形式の新秩序なり、新たなる慣習及び習慣なり、新商業制度及び新商業組織なり、吾人は現に尙ほやがて有効なる發達を致すべき混沌たる軌轢の渦中に在り、吾人は結論に先ちてこれが個々現象をや、精密に觀察せんとす。

大商業と小商業との區別は今日屢々消滅し、相錯綜し、統計上にも近時は最早區別せられざれども、吾人は先づこの舊區別より論議を進むべし、千八百三十七年プロイセンに於ける大商人は約そ四千人にして、内三百六十人は信用取引に關し、千八百六十一年のそれは一萬五千六百七十七人にして、内六百二人は信用取引に關せり、千八百九十五年舊プロイセン屬州に於けるものは、信用取引約そ七千、大商業の商品經營約そ八萬に上りしなるべく、而してその間、穀物、家畜、木材、金屬、羊毛、革皮の商業及びこれに類する取引部門が大商業に計上せられたることは言ふまでもなし、大商業は過去と比し商品に於て且つは經營方法に於て遙かに著大の分化を示し、自家商業の外に代理商業廣く行はれ、貯藏品商業と並びて投機商業の發達あり、信用取引の獨立し且つ大規模に發達したるは近世商業發展の最も顯著なる特徴なり、換言すれば信用取引は商品商業の有害なる仕拂信用を除かんとするものにして、分業上の一大進歩なり、今や信用保證のことは無力なる商品販賣業者の手を離れて適當なる信用取引業者に委せらる、信用制度と相並びてこゝに特殊の部門として運送取次業の發達



ありて貨物發送人と運送取引業との間に仲介の勞を取り、これに加ふるに特殊の倉庫業ありて、幾分運送取次人に依り幾分株式會社及び共同團體に依りて經營せらる、即ち手数料を徴して商品を保藏することが特殊の一業務となりたるなり、亞米利加の倉庫に於けるが如く、一切の穀物が一定の等級組織に依りて手数料を規定せらるゝ場合には、貯藏者は貯藏商品の所有者たる權利を失ひ、自己に宛てられたる倉庫證書(在荷證)に依りて單に同一等級の同一量商品に對し權利を有するに過ぎず。

受托販賣人制度は商業の補助營業として大に發達したると同時に、幾分舊時と全く面目を革めたり、千八百三十七年舊プロイセンに於ける受托販賣人の數は二百七十五人、千八百六十一年大商業に關せる受托販賣人及びこれに類する仲介業の數は三百四十九人にして爾他商業に關せるものは千九百二十一人に上り、千八百九十五年舊プロイセン屬州に於ける受托販賣人、準代理業者及び代理人の數は略ぼ二萬人にして、全獨逸のそれは四萬六千七百三十四人なり、此等取引仲介人の種々の種類は今日にありては屢々錯雜し、受托販賣業者は自

家取引をなさざるべきの舊義務を漸次に捨て、自家取引と仲介者たるの任務とを兼ね營むに至れり、然れども大體に於てこれを觀れば、その任務は今日尙ほ、同一場所、同一取引所に於て、自ら危険の責を負はずして賣買者相互の間を連結し、其間に二者の利害を覺知するに在り。

受托販賣人の外に代理業者及び準代理業者あり、就中代理業者はあらゆる種類の仲介人にして、主として別地域、大都市、商港、遠隔國土に商品の販路を求めんとす、さればその目的とする所は、第十九世紀の間に劇増せる大取引の派遣者のそれに等し、然れども派遣者は一取引、一工場の職員にして、一定額の俸給と恐らく又別の支給とを受くべく、代理業者はこれと異なり獨立の營業者にして、定期に支給を受くるのみ、代理業者は一定地域に配置せられ、屢々標本陳列場を所有し、時に多數の大取引を代表し、これが爲めに顧客の需要に關し、販路の可能に關して告知の勞を取る、これが販賣方法は或は旅行の間に於てし、或はその居住地に於てすれども、自ら損益の責に任ぜずして受託者に危険を負はしむ、かくて機械、織物、葉卷煙草の大工場は主要販賣地にその代



理業者を設置せり。

この外尙ほ抵當、貨幣、廣告、保險、國外移住、運送、音樂會、劇場に關する代理業者、就職仲介代理業者、機會代理業者あり、これ等は何れも皆仲介を業となせり、此の經營は概して無所有なるが故に、競うてこの業務を行はんとするの傾向あり、これか競争屢々極めて劇烈を致せり、活力あるもの大膽敢爲なるものあり、破産に陥れるもの亦稀なりとせず、この仲介業者の個々部門及び部分に對し、社會各方面の攻撃非難至らざるなく、例へば國外移住代理業者に國家の認可を強制したるが如き状態なり、然れども亦他面を觀察するに、これ等代理業者の間に非凡の才能を有し極めて尊重すべき人格を備ふるものなきにあらず、殊に商品販賣の代理業者は現今工業の爲めに販路の大半を媒介し、これに依らずんば恐らく輸出は屢々不可能なるべし、代理業者は時に製造業者と輸出準代理商館との間に仲間連鎖の任をなせり。

準代理商館は他商人の委託を受けて賣買に當り一定の代償を得れども、第三者に自家の名義にて取引し、屢々購買の仕拂に對し委託販賣者に責任を負ひ、

而してこれと別に廣く自家の取引を行ひ、大なる信用を供せざる可らず、從て大資本を必要となす、準代理商館の始めて發達したるは恐らくアントワープにして、第十六世紀の間に在り、而して第十七世紀及び第十八世紀の間に更に進歩したれども、その大勢力を得るに至れるは實に第十九世紀の間に在り、この準代理商人は商人をして直接異域に販賣するの必要なからしめ、製造業者及び大商人は、外國に於ける準代理商館に商品を委託し、即ち換言すれば販賣委託の契約を以て最も有利に販賣せんが爲めに發送し、主としてこの方法に依りて輸出を擴張せり、而して準代理商館は商品發送の後直に發送者をして自家に宛て商品價値の三分の二を極大額として爲替手形を振出さしめ、殘額は則ち商品販賣の後に至りて支拂ふの規定となれり、かくの如くして穀物及び木綿の世界商業も亦準代理商人に依りて發達し、準代理商人即委託販賣業者は現に大家畜商業を支配し、銀行業及び信用業に於て著大の任務を實行せり。

投機商業はよし或る意味に於ては既に業に存在したれども、最も嚴密に言へば抑々近世商業發展の獨特の結果にして、又實に最も非難攻撃を蒙る所のもの



たり、投機商業の最も著しきは商品、有價證券及び信用を取扱へる商業、竝に會社創設業なれども、土地會社及び建築會社竝に一般に都ての取引領域にも亦これあり、投機商業とはこれを廣義に解釋すれば、單に貯藏品商業と分離し取引所に於て商品及び有價證券を取引する所の狹義定期商業のことにのみならず、苟くも將來時期若しくは遠隔地域に對し、若しくは同時にこの二者に對し、大利潤を期待して投資を敢行する所の一切の冒險取引、將來更に販賣せんことを目論見て、若しくは既に販賣したる貨物の引渡を目的として賣買する所の一切の冒險取引をも含めり、日々全世界に市場及び相場變動に關する最近の報告を傳達する所の通信制度の發達、高尚なる信用發展、巨大なる資本量—これ等は則ち投機商業の前提なり。

數ヶ月及び數年間實際の需要に先んじて生産を準備し且つ持續せしむる財供給の現状を以てしては冒險的將來取引に至らざるを得ず、嘗て僅かに一地方的交通及び財の毎週供給を以て事足りたる文明段階に於ては、未だ成熟せざる穀物の販賣竝に凡そ此の如き冒險的取引を禁止するは不可能にあらざりき、當時

の社會は此等取引に宿れる不安冒險の運命的勝負を以て不道德と認めたり、今日と雖も將來時期及び遠隔地域を目的となせる一切の取引には一種の勝負れなきにあらず、然れども吾人は苟くも諸時期及び諸國土の間に存する商品貯蓄量を相殺均等せんことを斷念せざる限り、此の如き取引を缺くこと能はず、然り而して現今の世界商業と相場の均等とは實にこのことを基礎とせり、吾人はもとより多くの投機取引に當りて誤謬が利用せられ加之故意に喚發せらるゝことあり得べきを明瞭に觀察し、又一人の利潤がたゞ單に他人の損失に依て生ずること、無識公衆の想像力及び激情が大なる利潤機會に依りて故意に刺戟せられ、輕卒に投機商業に誘惑せられ、而して後破廉耻にその利益を壟斷せらるゝの災禍に陥ることを知悉せり、然れどもこれを以て投機取引そのものを無下に非難すべきにあらず、否、社會的公開に依てこれを統制せしめ、富裕ならざるものその道の知識を缺けるものをしてこれに關係せざらしめんことを力めざる可らざるのみ、これ可能にして且つ必要なる方針なり。

嚴密なる意義に於ける取引所定期商業は將來時期に對する引渡取引即ち廣義



に於ける定期取引より起りたるものにして、この廣義定期取引が地域的及び時期的に商品蓄積量を均衡にし、殊に諸國土及び世界諸部分の間にこれを相殺せんが爲めに、近世時代に於て愈々益々必要となりたる結果なり、吾人は既に本冊**百五十四**の末段に於てこの必至の理勢を説明したり、例へば穀物の大取引は、若し購買者にして六ヶ月後に引渡さるべき穀物を、これに先んじ低廉なる相場にて購入することを得ば、大危険を伴はずして容易に行はれ得べし、而して販賣者が數ヶ月後に引渡すべき販賣に依りて豫じめ相場を確定することを得ば、則ち生産及び輸送を遙かに大規模に統制すること難からざるべし、大市場將た大市場に行はるゝ活潑なる取引は、若し廣義定期取引に狹義定期商業の形式を適用し得ば、遙かに容易に設定し處理せらるべきなり、これを以て現物買買者の間に中間連鎖として一群の取引業者現はれ、即ち此等取引業者は現物を授受せずして、引渡契約時期に至るまでの中間期に限りて取引を營み、なるべく正しく相場を豫想して利潤を獲得せんと欲すること可能となれり、これ狹義に於ける投機商人なり、然れどもその市場及び景氣の研究に依りて市場輿論を

成立せしめ、實際の相場變動にも亦根本的影響を與ふるは否む可らず、投機商人はたゞ單に賣買價格の差額に依りて利潤を博せんと欲するに過ぎざれども、苟くも關係取引の連鎖に立ち、これを介して一方には現物引渡と他方には現物の受領とを生ぜしむ、凡そ任意の商品量を何時にても賣買することを得べく、一時國民經濟の爾他部門に存する剩餘資本をこの市場に資用し、貯藏品商人現物商人をして相場變動より生ずべき危険の一部分を免かれしむることは、投機商人獨りこれを能くすべし、されば狹義定期取引は現物商業に對して一種の危険保證即ち保險をなせり、實にこれあるが爲めに對比取引は可能となり、即ち換言すれば相場の高き場所に向て定期販賣をなし、相場の低き場所に對して定期購入をなし得て、その結果は今日國內諸地方の間に大體に於て相場を均一せらしめ、國內相場をして世界市場相場と常則的關係を保たしむるの好ましき現象を生ずるに至れり。

狹義定期商業に加はれるものは第一に大生産物商人及び製造業者例へば大農業經營者及び機械場主の如きものなり、第二に貯藏品商人(現物商人)その人なり



第三には爾他の多數商人、準代理人及び受託販賣者なり、此等のものが定期取引を職業としこれに参加したる限り常態を脱せず、然れども第四に準破産的、詐偽的商人、所謂仲買人てふ絶對的に投機に依りて生活せるもの、夥多に増加するに及んでは、これ既に變態なり、尙ほ第五に官吏、軍人、無職の金持、手工業者が定期商業に誘惑せらるゝに至りては、實に危険にして且つ有害なりと言ふべし、若しそれ取引所の個々参加者が印刷物の買収に依り、虚偽の通信及びこれに類する方法に依りて相場の変動を虚構するが如きは、社會全般を毒すべき濫用にして、あらゆる手段を盡してこれを抗止せざる可らず、大商店若しくは同業組合所謂コルネルス・シユエンツェが買占に依りて一時獨占を横にする場合も亦然り、所謂リクイダチオン・スカッセン(特に投機商業の一定部門を媒介せる株式會社が故意に且つ法外に定期取引を催進するの可否は、頗る議論の餘地ある問題なるが如し。

然れども大體に於て、正當なる取引所組織を設定し得ば、敢て定期取引を廢除するに及ばずして、此等の不祥状態を驅逐し且つ緩和すること不可能ならざ

るべし、定期取引は近世廣義定期取引の醇化せる技術を表示するもの相場を決定する商業と現物を保藏せる商業との間に正當なる分業を持せり、これ將來の蓋然を愈々益々確實に豫想せしむるの具にして、價值構成の最も重要な領域を統制すべき一手段たり、當に改善せられ、統制せられ、倫理化(譯者曰、この倫理化若しくは道德化の意義は第一冊概論に照して味ふべし、「シユモラー」の特に好んで用ふる語なり)せらるべきも、而かも全然廢除せらるゝを容さざる一取引形式なりとす。

更に投機の他の領域にこゝに深く立ち入ることは恐らく餘白の許さざる所なるべし、ただ今日當に廢除せられ若しく制限せらるべき幾多の投機商業部門、例之投機的にして屢々躁急なる鐵道建設に代ふるに國家鐵道組織を以てし、大都市に於ける土地投機を制限するに遠大なる都市土地政策を以てすべきが如きあり、並に投機商業の他の部門、例之起業銀行及び有價證券銀行に依りて株式會社を投機的に建設せんとするもの、如き、國民經濟上より觀て必要缺く可らず且つ方法その當を失はざる限り大に効果を奏すべきものあることを一言せば



以て足りなん。

常設小賣商業は公開商店及び小工業經營にて消費者に商品を販賣するものにして、最近二十年の間、人口稠密なる歐羅巴諸國に於て根本的に變更を來せり、小賣商業は大地域にありては屢々空前の分化を示し、即ち烟草、茶、カフェー、バター、魚卵を取扱へる特殊商業の成立となり、小都市及び田舎に過去と全然別種の方法をとりて擴張せり、家族の自足經濟及び貯蓄品保藏が衰退するに應じて、取引それ自體は愈々益々必要となれり、建築投機の盛なりし所には、なるべく多數の商店を初階に設置したり、是れこれを以て高賃貸料を徵集し得るを以てなり、多くの大生産者は此の如き小商店の設置を奨勵し、依て以て自家に屬する商品販賣者を増加せんとしたり、商業の自由が認められたるに伴て多くの手工業者は商店取引に轉じ、怠惰なるもの又屢々何等商業知識を有せざるものも多く小商業に蝟集したり。

故に小商店取引の數を増加せしめたるものは、實際的欲望にして又不利不當なる隨伴原因なりと言はざる可らざらん、極めて劇烈なる利害競争と且つは開

店の餘りに容易なるとは夥多の小賣業を筍生せしめたり、舊プロイセン州に於ける小賣商店及び小賣販賣業の數は、千八百三十七年に四萬七千、千八百六十年に八萬二千、千八百九十五年に二十萬と概算することを得べく、人口一萬人に對するこの割合は三十三、四十四、及び七十七に該當せり、千八百九十五年獨逸に於ける六十四萬七千三十八の商品販賣業の中、約そ四十三萬は小賣商店にして、十八萬三千は殖民地商品業、六萬四千は呉服商業、十五萬は混合商品業なりき、あらゆる種類の商業經營は千八百九十五年、住民一萬人に對し東プロイセンに於て六十八、全プロイセンに於て百三十八、バーデンに於て百四十一、ライン州に於て百六十、ハンブルヒに於て三百八十四に該當し、この統計上の差等は、人口稠密に應じて如何に商業仲介の増加せるかを示し、而してこゝに示されたる相對統計は、小賣商店に關する上掲數と比較して、小賣商店が一切商業取引の過半數をなせることを證明するものなり、あらゆる種類の商業取引は、ベルリンに於て千八百四十六年に四千四百六十四、千八百九十年に四萬〇〇〇三、從てベルリン住民に對して前者は四十分の一、後者は十八分



一、從て約そ四分の一乃至五分の一の成年男子は商人なるの割合なり。  
 小取引の地位は、その餘りに相近接し、顧客範圍の狹隘なると費用の巨額に上ると相償はざるが故に、多くの地域に於て甚だ振はず、加之大經營がそのあらゆる特色を以て自然にこの領域にも侵入し來るが爲めに、愈々壓迫せられたり、所謂マガデン、換言すれば即ち華麗なる陳列装置をなせる小賣店、將た屢屢手工業的若しくは家内工業的生產と結合せる商人の監理及び大資本は、千八百二十年乃至五十年の間、殆んど未だ發達せず、而して其後に急劇に普及し、今日に於ては小賣交通の主要部分をなせり、衣服、靴、洋傘を販賣せるマガデンの外、他のマガデンも亦發達し、舊鐵器商店は千八百六十年乃至八十年の間に家具及び料理具のマガデンとなり、小間物商品は裝飾品のマガデンとなれり、小賣業者と工場との間に所謂アングロスルチメンタル(問屋業者)現はれ、若干の分業工場よりマガデン及び商店の爲めに商品を調達するに至れり。  
 而して殊に經驗ある商人が婦人用品のマガデンを監理し、多くの資本と大なる信用とを支配し、廣告と顧客の獲得と低廉なる大量購入とを理解せる場合に

於ては、則ち今日頗る問題となれる商館の成立となる、千八百四十年乃至六十年の間、商館は既にロンドン及び巴里に發達し、千八百八十年乃至千九百年以來、爾他國家に於ても相次でこれが發展あり、現に獨逸にありてはその數既に五百に上るべし、最大商館は總じて三千人乃至五千人の事務員を使用し、二千萬乃至四千萬マルク以上の資本を流用し、年々の賣上高は六千萬乃至一億二千萬マルクの巨額を示せり、所謂商館は益々以てあらゆる小賣業を一屋の下一大商館の裡に合一したり、その秘密は低廉なる大量購入と大規模の廣告と、ありとあらゆる誘致設備に依りて公衆を引き付くるとに在り、而してなるべく廉價に現金にて販賣し、大量生産に依り極めて低廉に供給せられ得べき極めて普通の商品を取扱ひ出來得る限りその種類を少數ならしむ。  
 然れども大規模の特殊商品業も亦多くこれと等しき特色即ち資本主義的大經營に轉じたり、特殊商品業并に商館は、幾分低廉なる郵送料と目錄發達とに俟て、送達取引を計畫し、小村落、僻遠なる州市、他國に及ぶまで日々數百の小包を郵便せり、この外小商店を壓迫せる大支店取引あり、この支店取引は始め



首都に十乃至三十の販賣所を設けたるのみなりしが、現には屢々他地域にも亘りて殆んど百及び二百にも上るべき多數の支店を有するに至れり。

然り而して常設取引の外、最近三十年來遍歴商業(行商)も亦夥しく増加せり、その理由は自由主義立法の爲めにその一時好遇せられ、即ち例へば年市及び週市以外、その都市に入り來ることをも許可し、行商證に對する條件單簡となりたるのみにあらず、實に交通の欲望(必要)が隨所に再びこれを促し、若しくは一般に近時に至りて始めて益々これを催進したると、且つは到る所に危急と競争とに迫まられてその新たに活力を鼓舞せられたるとに在りて存せり、多くの工業はかくして始めてその販路を開き或は其從來の販路を持続することを得べし、家内労働者の從來の顧客たる都市の小賣業者は、今や國內及び外國の工場生産品を低廉に購入することを得たれば、轉じて多く行商人となり、自家生産品及び組合の生産品を販賣するに至れり、小製造業者は多く行商に依りて辛くも維持せられたり、諸地方例へば鑛山業地方の散在労働者に對しては、あらゆる種類の商品、生活資料をも行商調達することは最も簡便なりき、田舎の小

農民がその言ふに足らざる小口の爲めに最早週市に赴き一日を消費するを欲せざる場合には、行商業に依りてこれが商品を購入し積集すること必要となれり、立法及び商業契約の爲め、外國行商人と國內行商人とを全然同一視したる結果は、行商經營を一時大に増加したり、プロイセンの行商人は既に千八百三十七年乃至六十一年の間に一萬六千人より四萬四千人となり、ライン州はその人口の稠密なると交通の活潑なるとに伴て最も著しく、即ち二千五百三人より九千四百三十七人に増加せり、千八百六十九年に於て獨逸の營業秩序簡易となりたる後、千八百七十年乃至八十二年の間に獨逸行商證の數は、十三萬六千七百より二十二萬七千六百十七となり、千六百九十三年に於けるものは二十二萬六千三百六十四なりき、遍歴者に俟てる販路の増加も亦幾分行商人商業に殆んど匹敵せり、見本を携帯せる遍歴者は屢々商品を所持せる行商人を驅逐し、單に營業商店のみならず、家族をも顧客となせり、遍歴券の數は獨逸に於て、千八百七十年に三萬一千二百八十五、千八百九十三年に七萬十八なりき、獨逸に於ける常設書籍請賣業は第十九世紀の間に非常に増加し三百より五千となりたるが、



この外書籍行商業は現に千二百四十八に上り、最近三十年來急速に販路を擴張し、その熱心なる供給努力に依りて一般公衆の間に讀書欲を喚發したり、食料品の行商は多くの獨逸都市に於て許されず、巴里に於ては行商的の大道販賣人の認可せられたるもの六千人あり。

**百五十七**

商業及び商業組織、(ハ)近世發展の結果、この全發展の結果は果して何物か？ 今日何處にも生産と消費との間に商人若しくは更に商業連鎖の迂曲介在するに至れることこれなるか、曰、あらず、商業連鎖に俟つを要せざる場合には、今日と雖も尙ほ當然これが費用は節略せらる、自足經濟は西歐羅巴に於て尙ほ總生産の十六乃至三十プロセントをなすべく、今日尙ほ多くの家婦は農民及び野菜園藝者より購買し、國家、共同團體(市町村)、株式會社は、今日猶ほ過去の如く、大機械製造業者に直接注文をなせり、然れども媒介の網が前時に比し非常に擴張し且つ密着したることは疑なく、中間商業連鎖は屢々複雑し延長したり、家内労働者、小大製造業者、農民の多數、然り商人それ自身と雖も、その活動、金儲に於て、仲介者殊に交通の大中心點に立ちて遠大なる概

觀と最も多くの連絡と最も大なる權力とを備ふるもの、爲めに左右せらるゝ状態なり、消費者の多數は今日その總需要を商人より購買し、消費者と生産者とは單に一若しくは多數の中間連鎖を介して間接に接觸するに過ぎず、この二者はその連絡線を概観すること愈々益々不可能ならんとし、而して商人は故意にこれが概観を防げんとす、蓋し二者の連絡線に關して無知なるは則ち商人の利益を收むべき好機會の存する所なればなり。

商業及び交通の舊制限は概して消滅し、而して商業及び全經濟生活のこの新連鎖をして益々自由競争に任じて能く組織せしめんが爲めに廢除せられざる可らず、この新發達は總じて必らずや多數人を心理學的に改變し、低廉に購入して高價に販賣せんことを寸時も忘れざらしめ、而して商人にありてこのこと最も著しとなす、商人の營利衝動とその勢力と大に増進せるものなくんばあらず、聰明なるもの、機敏なるもの、狡猾なるもの及び傍若無人なるもの主として活動舞臺に機先を制し、大なる利潤を得たり、嘗に舊法律の制限のみならず、舊道德の制裁も亦動搖し、最早新たなる取引形式に適應せず、而かも道德上及び



法律上の新制限は尙ほ未だ確立せず、二三時代を經過する間に漸く始めて發達することを得べきのみ、然れば則ち現に進歩の感受よりは一時寧ろ愁訴の遙かに強烈なるものあるはもとより怪むに足らざるなり。

然りと雖も新商業組織將た中間連鎖の増加は必要なり、近世の大國民經濟及び世界經濟が、大體に於て商品價格を低廉ならしめんとするの分業組織は、これを結合する所の商業連鎖を俟つにあらざれば成立すること能はず、たゞ問題とする所は新組織が果してあらゆる方面に成功せるが、中間商業より愈々支配せらるゝの結果、大なる裏面と不都合とを生せざるか是れのみ、「カール・マルクス」の所謂資本主義及びその資本主義として攻撃を加ふる所のもは、大體に於て、國民經濟全部が商人の利己主義的利潤計畫及びその利己主義的に利用せられたる資本力より支配せらるゝことを意義するのみ、商業殊に所謂中間商業、その高利的利潤、その不完全なる組織に對し、最も廣汎なる社會範圍、言ふまでもなく主として素人の間に顯著となり來れる情調は、曩きに一切商業を樂觀主義的に讚美したるに反して、これを自然的、悲觀主義的に非議せんとす、嘗て

は苟くも新たなる中間連鎖は一進歩と認められたるが、今は則ち然らず、廣汎なる社會範圍は屢々凡そ此の如き連鎖の無用にして不生産的に且つ有害なることを想像するに至れり、眞理の存する所果して何如？

商業が非常なる變動と周約的膨脹とをなせるは吾人の經驗したる所、これを計畫的に統一商量し運営すること能はず、一に經濟力の自由活動に俟て成立したり、凡そ商人及び中間連鎖たるもの、目標は、その商業利潤のみ、なるべく社會の爲めに良好なる供給を圖り、出來得る限り良商品を保藏し分配せんが如きは未だ考ふるに遑あらざるなり、交通手段と分業とは新たなる中間連鎖の發展を要求したり、然れども個々にこれを觀察するに、この新連鎖は劇烈なる利害競争に弄ばれ、而して能く其間に成功するものは、最も巧智にして最も機敏なる商議を遂げ、新たなる活動舞臺を獲得し、生産者の爲めに販賣を消費者の爲めには購入を便ならしめたるものならずばならず、多くは欲望の緊切なるもの存せざるに、敢て中間連鎖となりて獨立せんとしたるあり、過剰勞働力は地位を求め無用の資本は使途を求めたり、而して新連鎖と相並びて舊連鎖も亦



差當りは持續し且つ徒らに残存し、舊交通手段に順應したる古來の形式將た商業中繼地の過大數は、差當り惰性の理法に依りて依然として存續す、新商業組織はこれを創設すること殆んど常に極めて困難なり、これ凡そ大變更は同一地位に在るもの、多數と且つは隣近活動をなせるもの、全群とに關係し、而して全群、全職業、全身分階級の問題に當りてはその個々人及びこれが洞察力は到底以て多きを期し難がなければなり、大變動に協働する要素には、正直なる且つ端正なる人々あり、平凡にして圭角なき人々あり、巧智なるもの及び痴鈍なるものあり、當眼の問題は多くは摸索及び試證にして、二三代の後に至り始めて新たに正當なる取引形式を發見したるのみ、これ例へば猶ほ戦場の如く、弱者は衰頹と滅亡との運命を免かれず、能くこれを救助し、教育し、變造し得べき範圍は極めて制限せられざるなり、吾人は今尙ほ商業に順當なる新組織を確立すべき大變動過程の半途に在るもの、商業形式、慣習、道德規定、習慣——として舊はその力を失ひ新は未だ確立せざるの状態を示さざるものなく、二者相競争し動搖せり。

不完全なるもの嫌惡すべきものが進歩及び改善と相並び、擴張せられ且つ技術上に改善せられたる商業組織も尙ほ以て屢々その運営を誤り、多くの點に於て不當なる中間連鎖の成立あり、類廢せるもの依然として存續し、進歩と同時に費用益々多きを加ふるの事例を隨所に發見し、今日尙ほ或は高價にして繁冗なる商業仲介あり、或は他人の利益を壟斷して顧みざる獨占主義的商業の成立するもの若しくは持續するものあるは——以て奇怪の現象とすべきか、苟くも改革傾向及び新組織の端は、消費者、生産者、加之或る商人階級の愁訴と別に、既にかくの如き動搖の免かる可らざることを示せり。

小資本の小賣商人は今日一般にその不利なる地位を愁訴し、而かもこの愁訴に理由なしとせず、政府及び大黨派は中流階級擁護政策に依りてこれが地位を向上せしめ補助せんこと努力せり、然れども小賣商人そのものに對する非難も亦これに劣らず、小賣商人の供給する商品は高價にして、幾分劣等なり且つは故らに惡變せられたるものなり、これが爲めに相場は甚しく騰貴し、三十、五十、八十プロセントの高率にも上らんとす、小賣商業が増加して過剩數となり



たること、取引に關しても商品に就ても何等の經驗なきものが小賣商業を救助  
 錨と認めて集まり來ることは、吾人の既に觀察したる所にして、事實を誤らず、  
 社會一般は毎四戸に一戸の商店あるを便利となす、而かも技術上にも商才上にも  
 も優秀ならざる此等準業的取引の過剩數は、如何なる協定を設け如何に相場の  
 騰貴を計らんとも、到底繁昌を來たすこと能はず、これに抵抗して起れる行商  
 人、見本携帶商人、送達取引、消費組合、商館の競争は、屢々低率課税と投資  
 商品と廣告とを基礎とすることあるべし、然れどもこれ大體に於て、屢々資本  
 もなく理智もなく、やゝ惰眠を催さしむる舊小商業の過失と濫用とを是正せん  
 が爲めの自然的試験なり、消費組合は高價なる借家料と廣告とを節約し、確實  
 なる顧客を有し、惡變せられざる價格相當の良商品を現金にて供給し、組合加  
 入者を誘致するに、その購買額に應じ配當として利潤を分配することを以てす、  
 大勸工場及び大商館は今や幾多の小商店を破滅せしめ、その多くの嫌惡すべき  
 特徴を有せること疑なし、人に強請するが如き、沒趣味なる廣告をなし、幾分  
 は劣惡商品及び詐偽商品を取扱へること即ち是れなり、その事務員の待遇も小

取引と比して必らずしも大に勝れりとせず、然れども概して一社會に依りて統  
 制せられて一必らずや遠からず、良商品を廉價に供給し、その使用事務員の給  
 料と待遇とを改善せざるを得ざるべし、必らずや忠直なる經營法に出でざる可  
 らず、苟くも技術的進歩を應用し、販路を擴張して以て個々商品の利益を引下  
 げ(個々の利益を薄くし而かも販賣數を増大して結果に於て薄利を償ひ)、凡そ中  
 間商業そのものに附帶せる暴利を減削せんことに努力至らざるなし。  
 而かもこれ舊小商業の持續することを妨げず、小商業の貧弱なるものが消滅  
 し、能く持續せるものが、商館及び消費組合の長所とその進歩せる取引習慣と  
 を、小商業に可能なる限り模倣すること愈々急激なるに應じて、益々小商業は  
 持續すべし、小商業は地域的接近と所有者直接の統一的監理との大特徴を失ふ  
 ことなし、又小商業はあらゆる手段を盡して干渉せらるべく、信用に依り、結  
 合團及び正當なる課税に依りて補助せらるべし、尙ほ且つ最善の方法はもとよ  
 り小商業自ら講ぜざる可らざるなり。

消費組合及び商館は大經營にして、新發展、將た進歩の代表者たり、租税若



しくは其他の方法に依りてこれを壓迫せんと欲するは恐らく誤なるべし、或は曰、消費組合に於て消費者が商人の役目を演ずるは分業に矛盾せりと、これ然らず、消費者は商人の役目を演ずることなし、消費組合の商人的役員は小賣商人の業務に従事し、而して其間組合長の監督を受け、且つ組合員が總會に於て、相場、仕入元、小賣商業の秘密に就て多少聞知する所あるは、決して不幸なることにあらず、商館にありては言ふまでもなく商業仲介者の集中権力極めて増大し、爲めに過重権力は濫用に陥ることなしとせず、吾人はこれを抑壓し、力めて社會全體の利害に順應せる法律形式をこれに與へざる可らず、或は既に誇張して言へるものあり、曰、將來の問題は、果して舊來の小賣商店が能く持續すべきかにあらず、その組合的組織若しくは大資本主義的組織に依りて反て代はらるべきか否かに在り、大資本主義的組織も亦其形を變じて株式形式若しくは組合形式となることを得べく、その事實上に獨占經營となれる場合には、從來に於けるよりも更に嚴重に社會に依りて統制せられ、獨占に應じて高率の租税を課せられ得へし。

然れども過去の技術將た舊交通に順應せる舊類廢生活形式を、あらゆる犠牲を拂ひ且つは故意に舊膨脹のまゝに維持せんと欲するは、如何なる場合にも決して正當なる政策たること能はず、商業仲介者が三倍にも増加し、相場の大半要素がこの仲介業に依りて構成せられ且つ構成せられざる可らざる時代に於て、苟くもその現存連鎖將た取引を、果してそれだけ必要缺く可らざるか否か、職能を順當に盡せるか否かをも顧みず、悉く保持せんとするはその可なる所以を解する能はず、吾人は勿論幾分農民恐らく又手工業者をも社會的自己目的と觀することを得べきも、苟くも商人を以て然りと認むることは容易ならず、社會の需要か少数商人を以て充足せられ、商人數を十、二十五、若しくは四十プロツェントも減じて尙ほ且つ需要調達の上に毫も不足を告げずとせば、この減退傾向に抗拒せんとするは決して正當なる政策と言ふこと能はず、費用を節約し、販賣受託者、代理者及び其他の中間連鎖を省略し且つ除却せんとするは、現今商業組織上の必要運動なり、大小取引、旅行商人及びあらゆる種類の仲介者、最近二十年間に始めて成立したる多くの中間連鎖は、かくの如くしてその存立の



一四四

危機に迫れり、製造業者が屢々一二の大商人若しくは商品及び使用人に關して熟知せる大商人を介せずして自ら事務員を派遣し直接に小賣業と關係せんとし、販賣受託人の手に待たざらんとし、若しくは大經營例へば機械業が、撚糸商人及び撚糸販賣受託人より獨立せんが爲めに紡績業を兼ね營めるは、何人と雖もこれを非難する所にあらず、農業組合の運動は多數の商事取引、代理者、賣買仲介業者を驅除し無用の長物たらしめんことを目的となせり、新たに起れる亞米利加之二巨大會社は、合同及び販賣新秩序に依りて、何れも二三百の旅行者と商人的監理者と書記とを解雇するに至れり、カルテルの全運動は、その生産及び經營を集中する限り、商人を無用の長物とし、その獨立を奪ひて單にこれをその組織の役員たる地位に引き下げずんばあらず、夥多にして且つ不完全なる小商業經營を減削せんとするも亦これと同一の運動なり、この全傾向に際して問題とする所は、個々實際の場合に、除却せられたる商業連鎖が果して不必要なるか、需要調達は果してこの連鎖を俟たずしてそのこれある場合と同じく良好に且つ低廉に致さるゝか否か是れなり、このこと事實ならざる限り商業連

鎖は依然存続すべく、これを除却せんとする計畫は失敗に歸すべし。

吾人はこの結果を攝要することを得べし、中間商業の増加に對する非難は大體に於て誤れり、組織高尚なる國民經濟及び世界經濟は商人的中間連鎖の増加を必要となす、實にこれありて始めて大體に於て、社會公衆の爲めには需要調達を、生産者の爲めにはその販路を、愈々技術上に完全に、廉價に且つ均等に組織することを得べし、然れどもこの連鎖の中苟くも無用の個々部分は有害なり、組織にして正當なれば一つにして事足る場合に、更に二つ及び三つのものあるべきにあらず、中介者の利潤は、一方には消費者、他方には生産者、農民、小製造業者、手工業者、家内労働者及び其他のものが、市場、仕入元、販路及び相場に就て知ること乏しきに應じて益々大なり、かくの如くして或る場合には暴利及び壟斷的獨占を生ず、例へば亞米利加之倉庫株式會社が穀物商業及び穀物相場に關して專横なる結果この事實を曝露せるが如き是れなり、これを救治するもの、獨り社會一般階級を益々商人的に教育すること、公開、及び消費者と生産者との組合的組織を以て然りとす。



二 經濟的競争

一四六

百五十八 經濟的競争の本質、對立諸學派の諸見解、既に交通、市場制度及び事實上の商業組織を説明したるに次で、こゝに競争（利害競争又は經濟的競争）の本質を論議するは最も正當なる順序なるが如し、巨細に亘りては後段に究明せらるべき價值論にも及び、以て吾人は他面にこれが理解を準備せんとす。さて吾人は經濟的競争將た利害競争とは何ぞやてふ問題より論議を進むべし、Concurrereとは多數者の一團となり將た並列して馳驅することの謂にして、吾人はこれに就て如何なる場合にも、多人數の參加せる社會的現象を想像す、多數者は、その共通目的を到達せんと欲する場合に互に競争し、同一目的に向て努力し、その競争馳驅を企劃せることを知り、而してこれが目標に達するに、それぞれ力と努力とに應じ、早さと遅さと、優りたると劣りたると、完全なると不完全なると將た全然失敗に終るとの別あることを知れり、吾人は、權力結果、名譽、利益、經濟財に限度あり、努力の目標に限度あるが爲めに、利益競争然

り人間若しくは人間特質の競争を惹き起すが如き場合に、一般にこゝに經濟競争ありと言ふ、各個人が何等の困難もなく夥多に有し得べきものゝ爲めには經濟競争は起らざるべし、競争の目標は、常にこれに到達するもの僅かに一人なるか若しくは一定人數に過ぎざるが如きもの、時に多數勝利者の現はるゝ限りこの間に系列秩序の存するが如きもの、屢々勝利者と落伍者とあり、少なくとも多數及び少數の成功者間に優劣關係ありて存するが如きものなり、競争審判の方法は千態萬様にして、或は弱肉強食なることあり、或は仲裁裁判所若しくは輿論の決裁なることあり、或は自由契約にして、これが爲めに冀求せられ、締結せられ、若しくは拒絶せられ、有利若しくは不利の形式をとることありとす。

經濟的利害競争は生存競争に外ならず、個個人、諸氏族、諸民族は、よし道徳、慣習及び法律、共同的感情及び利害ありて以て如何に隋所に闘争を排除し若しくは緩和ならしめたらんとも、能く軋轢及び利益競争將た生存競争なくして生存せるもの未だ嘗てこれあらざるなり、名譽、活動、結果を求むるの衝動、



並に人間の自己感情は、やゝ高尚なる文明を發展せる限り、競争衝動を生ぜしめたり、この衝動は自利的感情、自愛、倨傲、生活及び知識に於て他人に凌駕せんとするの意欲と聯關し、不法、卑俗、不正、暴行に陥ることなきを保せずと雖も、これと同時に活働力、勢力、進歩の訓練所たり、抗争及び利害競争なくんばこゝに停滯状態を生ず、生活の發展はたゞ以て力の實地試證に依り力の測定にこれ依れり、(第一冊概論の **十六** に参照あれ)。

諸民族は世界支配及び世界市場の爲めに競争し、政黨及び社會階級は國家行政及び自治體行政に於ける影響及び權力の爲めに競争し、州縣、郡區及び市町村は鐵道及び道路の爲めに競争し、あらゆる種類の催進の爲めに競争せり、個々社會範圍内に於てはその個々人は名聲及び名譽の爲めに、凡そ官吏體制の内に於て各官吏は陞叙の爲め俸給及び特彰の爲めに、各學校に於て生徒は席順の優位の爲め稱號(學位)の爲めに競争せざるなし。

經濟的競争は賣買者相互より成れる市場を前提となす、これが發端は抑々交通の發達に起れり、然れども交通は久しき間制限せられ、凡そ經濟は長期間主

として自己消費を目的となせる家族の自足經濟なりしかば、少額にして狹隘なりし市場交通に應じ競争も亦極めて少なかりき、剩餘生産あり剩餘勞働力ありし限り、領主、共同團體、公共權力(國家)は、慣習及び一定の法規に準じてこれを需要したり、共同團體員及び種族員が相互に市場に於て交換するに至りても、尙ほ久しくその關係は互に好意を盡せる友人と認められたり、たゞ外人相互の交換せる限りに於て、狹義の競争起り、而して言ふまでもなくあらゆる制限及び秩序も亦これが爲めに顧みられざりき、貨幣經濟優勢となり、市場擴大し、一切の交通が相識間直接の關係より離れ、膨脹國家に於て自由なる内的交通の發達あり、國際法は諸國の間にこれに等しき交通を承認するに及んで、こゝに始めて社會的運動と經濟的軋轢と起り來れり、今日吾人が經濟的競争と言ふは殊にこの最近發展の現象に繋れり。

吾人の觀る所に依れば、凡そ經濟的交通に参加せるものは、分れて大小若干の群をなせり、購買者及び販賣者、消費者及び商店主、大商人及び小商人、企業家及び勞働者は即ちこれが總體の群たり、而して一定の職業部門に準じて組



織をなせり、各群にありて直接に同一の經濟目的に努力せるもの相互は競争し、換言すれば木綿工業の企業家は相互に競争し、且つはこの部門の企業家と他の部門の企業家とが等しく水力、機械、技師及び労働者を求むる限り、或る程度までは爾他工業部門の企業家と競争す、然れども凡そ個々群は尙ほ更に一つ若しくは許多の爾他群と競争關係をなせり、即ち消費者と販賣者とは週市及び商店に於て、企業家は一面に労働者と、他面にこれが商品を購入せる大商人及び輸出業者と、又労働者は製造企業者及び住居賃貸人、小商人と皆競争群として相對立せり、この群競争にありて問題とする所は、大體に於て取引生活上相依繋せる諸群の活動より效さるゝ或る利潤及び利益を、これに参加せる種々の群に分配することは是れなり。

されば現今國民經濟上、生産過程及び商業過程の大半を支持せる、日々時々締結せらるる所の無數契約は、絶えず二重に影響せられ、一には各群の競争者相互より、二つには大體に於て相互に交通せる諸群の協働より生ずる社會的、心理學的影響より支配せらる、この二重影響を效すの前提は、商品若しくは勞

働を販賣するもの及び購買するもの相互が接觸し、互に相識り、常に淘汰過程を経て取引を締結することに在りて存せり、凡そ取引の締結は市場に於てその時々、一般に承認せらるゝ一定の價值若しくは價格にて行はるるが故に、あらゆる時を通じて苟くも市場に於て賣買することを得るものは、必らず市場價格に準據せざる可らず、同一時に同一市場に於て同一の商品及び労働に對しては、大體に於てたゞ一つの統一相場あり得べきのみ、これ社會的市場意識の結果なり(譯者曰、これに關する詳説は第一冊の意識範圍及び統合力の章を熟讀あるべし)、即ち換言すれば各購買者は他の購買者よりも高價を仕拂はんことを欲せず、各販賣者はその競争者と同一相場にて取引せんと欲す、この結果は此の如き相場にて販賣すること能はずと信ずる販賣者は悉く取引より拒斥せられ、又此の如き相場を仕拂はんこと能はざるか若しくは欲せざる購買者は皆何等の商品をも購入することなく空手にて還らざる可らざることとなる。

これを以て市場に於ける經濟的競争に際しては常に淘汰過程將た一種の生存競争を問題とする可とも亦證明せらる、この生存競争は、供給と需要と同一量



に、やゝ長期間停滯状態に在り、且つ變動なき價格にて相殺せらるゝ場合に、一時は劇烈ならざることもあり得べし、然れども供給と需要と何れかに極めて屢變動を生じ、供給超加せずんば需要超加し、價値の變動も亦恐らく起り得るを以て、その都度供給若しくは需要の一部分は交通圏外に拒斥せられ、然らずんば好ましからざる相場にて取引締結をなさざる可らず、かく拒斥せられたる販賣者は、或は更に大に努力し、その生産を改善して、以て販路を求むるに劃策することを得べく、或は別に少量の商品を需要する所の市場若しくは購買者を求むるに出づることを得べし、而かも又忽ちにして倒産することなきにあらず、他人に棄買せらるゝ賃銀労働者は辛うじて生命を繋ぐに足るの賃銀を以て満足せざれば餓死するの外なし、購はんと欲すれども高價を仕拂ふの資力なきものは、恐らく更に多くの賃銀を得んことに力め、若しくは劣悪商品を以て満足せざる可らず、然れどもこの結果は生計の縮小に伴て精神の萎縮を來たさんとす、かくの如くして一時的には企業家も商人も手工業者も労働者も皆經濟競争の狂暴なるが爲めに危機に類し、然り場合に依りては沈淪及び滅亡の悲運に陥らず

んばあらず。

吾人若し此等の過程を明瞭に且つ活潑に寫象せば、則ち以て何が故に經濟的競争が舊文献に於て或る學者より一に有效なるものと觀られ、他の學者より全く破滅的なるものと認められたるかの單純なる解釋をも得べし、蓋し經濟的競争を以て或は大なる教育の具となし、或は撲滅の具となしたるが如し。

抑々自由競争の謳歌者は、「チャイルド」、「ノース」、「デーヴナント」なり、重農學派及び「アダムスミス」なり、「バスターア」曰、競争は自由なり、以て差別を均等にし、有效なる共同關係を創設し、自然の大慈惠を萬人に均霑せしめ、消費者に對し低廉に良品を調達する所の共和主義的理法なりと、「コヴェス」曰、經濟的競争は交換條件を非人格的ならしめ、需要と商品貯藤とを調和せしめ、個々人を獨立不羈ならしめ、而して利潤を適度に輕減し、生産を統制するに於て遺漏なしと、「ロッシア」曰、競争は人格的自由及び自由私有財産の自然的結果なり、凡そ國民經濟に活動せる力を解放すれども、かく解放せらるゝは善なる力のみにはあらずして、惡なる力も亦これあること言を俟たずと、その意は、競争に對し非難あ



る場合に、この一方面（即ち悪なる力）の競争の缺點が屢々その原因をなせりと  
なすなり、「ジョンステアルトミル」曰、競争に反對して保護を冀求することは、各  
個人をして他人と等しく勤勉に且つ技巧ならしむべき必然性を廢除する所以な  
りと。

然れども亦これと反對せる見解を懐ける者もなきにあらず、「ライヒテ」は既に自  
由競争を奪掠組織と名け、「ミシェルシエヴァリエ」はこれを以て弱者が強者の爲めに  
呑噬せらるゝ戰場なりと言へり、「フリエ」はこれを商業上の詐偽及び一般的奸  
譎の因なりと信じたなり、「ルイブラン」に依れば、競争は貧民にとりて撲滅組織な  
り、彼の言を藉りて言へば、これ將來に老衰、廢疾、凋枯、腐敗の時代を現出  
せしむる素因たり、自由は則ち價格の低廉を致すべしと言ふが如きは畢竟錯誤  
なり、何となれば價格の低廉は持續せざればなり、彼絶叫して曰、廉價とは即  
ち以て資本力に富みたる生産者が貧弱生産者を撲殺する棍棒なり、大膽なる投  
機者が勤勉者を誘致するの伏兵所なり、一時競争者の所有せる高價なる機械を  
据付くること能はざる製造業者にとりては死刑の宣告なり、廉價は獨占てふ究

竟策略の執行者なり、中流階級の撲滅者なりと、「エンゲルス」曰、競争とは近世  
市民社會に支配せる萬人相互の戦争を最も完全に表示せる語なり、競争は生活  
戦争なり、生存競争なり、危急存亡の戦争なり、競争は貧民階級に對する市民  
階級の最も銳利なる武器なりと。

「ブルドゥン」は表裏兩面を認識し、即ち一面に於て競争は社會的隨意的表示な  
り、民主制及び平等の徽號なり、組合の支柱なり、個人的活力の動機なり、自  
由及び自己責任の勝利なり、懶惰を征服するものなり、然れども他面に於て競  
争は殺害本能を旗幟とし、凡そ妥當及び公正の概念を覆没し、事實上の費用を  
増加し、時に物價を騰貴せしめ、時に商品を劣悪ならしむ、競争は法に代ふる  
に賭博を以てしかくして到る處に不信用と恐怖とを惹き起し、以て社會的良心  
を壞亂せしむとなせり、然れども彼は正當なる本能を以てこれに下の如く附言  
せり、曰、吾人は競争を破滅す可らず、これが警察を設定すべしと。

競争に對する非難にして、たゞ單に社會主義者の間に行はるゝのみならず、  
今日極めて普通なるものは次の如し、曰、競争は所謂生産の無政府主義を惹き



起し、供給過大と供給過小とを交互に生じ、恐慌を勃發せしむ、競争は一般に交通を頽廢せしむるの責あり、その究竟の結果は、常に若しくは屢々、獨占及び利益壟斷なりと。

吾人は、概して此等の矛盾衝突せる見解を以て、且つ眞理にして且つ誤謬なりと言ふも敢て不可なかるべし、或は寧ろ下の如く言ふべきか、曰、此等の諸判断は毫も矛盾反對せず、例へば猶ほ砒素の少量は心臓の活動を鼓舞し、その多量は則ちこれを不具ならしめ且つ人命を奪ふべしと宣せる二醫師の言の如しと。

吾人の所謂競争とは、半ば精神的にして半ば物質的なる極めて種々の社會的複雜現象にして、從てこれが結果も亦一ならず、これに向て基礎確實なる判断を下さんは、衆個人及びその社會範圍、市場の大小、交通關係、心理學的及び道德的零圍氣、協働作用せる法律制を識別せざれば不可能たり、若しそれ競争若しくは自由競争を以て單純なる社會制度若しくは國民經濟の組織形式と觀じ、即ちこれ成文法に依りて裁定せられ得べく、而して常に一定の同結果を伴ひ、

利益競争の豫定量を生じ、相場若しくは生産に對し一定作用を及ぼすものと寫象するが如きは、謬見の最も甚しきものなり、自由競争を要求するもの或は手工組合制度を廢除せんことを思ひ、或は一切の保護關稅を撤去せんことを考へ、或は又カルテル及び職工組合を壓迫せんとす、國民經濟若しくは市場の外的法律秩序は、或は現に存し若しくは寧ろ將來に起り得べき競争に對し重大視すべけんも—これに就ては吾人後段に論及せん—最も重要なは、個々取引領域に現存せる衆個人の員數及び種類なり、これに繋れる交通可能なり、その相互影響なり、その營利衝動、大膽不敵及びこれに類する特質の程度これなりとす、吾人はこれより此等の相異をや、精細に判明せんことを期す。

**百五十九** 競争關係の諸相、如何なる社會範圍にも活動性及び運動性將た世界及び人間に關する知識の平均量ありて以て競争の力と方法とを規定せり、その取引慣習に如何に現はるゝやの方法は、主として、一方には利己主義的衝動即ち換言すれば營利衝動、虛榮、力の感情、大膽不敵の程度に繋かり、他方には技術的、商略的優秀の感情、自家の奸詐及び巧智に座せる倨傲に依り、而し



て又道德的抵抗力、即ち公正及び合法の感情、端正、正直、同情と、知的抵抗力、即ち利己主義的暴行の害悪並にこれが將來結果に對するの洞察力との活躍せる程度に俟てり、競争のこの心理學的前提の發展は或る歴史的理法に従ひ、市場の大小及び種類に依繫すれども、而かも他面よりこれを觀て、交通發展の各段階に、理智及自利、正直及び同情は、それぞれ一般的精神道德的雰圍氣に應じて現はれ得べく且つ作用すべきことを否認す可らず。

市場の大小、通則としてこゝに會合するものゝ人數、その邂逅及び相識の法は、競争をして或る形體をとらしむべき幾多原因の中に於て、主要原因をなせるが如し、僅少人數が通則として小市場に邂逅するに過ぎざる場合には、これを數百人數千人が對立し交錯せる場合と比して、その競争微弱なり、少數者は概して相識關係をなし、相互の爲めに顧慮し、多數者に至りては則ち最早相識なく、その居住地域を異にし、これが關係も直接人格的ならず、たゞ以て營利衝動に依りて驀進せんとすること少數者の場合と同日にして談ずべからず、然り而して利益競争の種類及び結果に關してこゝに重要とする所は、たゞ單に

競争者の人數のみにはあらず、これと等しく經濟的知識の程度、市場輿論の發達可能、定期會合、人間及び商品を相互に接觸せしむるの交通手段、而して最後に種々商品に對する代表者のあるあり、肉類購入の爲めに二十歩以外の距離に赴かざらんと欲する料理女にとりては、最も隣接せる肉商店は無競争的獨占者なり、若しこの料理女にして數百歩外に赴き若しくは市場商館を問はば、數十人の販賣者の間に撰擇をなすべし、屋内に單に瓦斯のみを點せんと欲するものは、概してその地域の瓦斯設備所に赴く以外の方法あらず、然るに若し電燈、瓦斯燈、石油燈の中何れを撰擇すべきかを商量するものは、既にこの相競争せる三設備所の間と比較をなし、最も廉價にして且つ最も好都合なるものを撰定し得べき利益あり、かくの如くして多數市場、諸地域及び諸國土の取引を歴訪し、利用し得べきものは、單に自家地域のそれを利用し得るに過ぎざるものと比し、競争上の地位に相異あり、交通手段、通信事務及び印刷の近世的發達は、競争者及び競争取引の數並に競争の結果を増大したること最も顯著なり、交通手段は取引者及び労働者の移動旅行を自由ならしめたること過去の比にあらず、



殆んど凡ての競争は今日相互に密接關係をなし地域的に競争せる衆個人團の間に行はるれども、而かも場合に依りては自由に隆替し變動し得べき廣汎社會範圍も亦これに加はれり、即ち各市場には定期的參加者より成れる内部の中心ある外、又遠隔せる參加者の環境あり、これ等の外參加者は居住地、交通制限、不等生活範圍に依りて自ら疎隔して干渉せざるを普通とすれども、時々相場及び利潤に依り一定の通信及び機會に應じて來集參加せずんばならず、生産及び商業をしてその時々々に新たに需要と順應せしめんことは、かくの如き競争範圍を擴張し制限すべきの可能と關係せり。

競争者の種類は、主としてその締結取引が競争者の經濟的生活利害の中心點に存するか若しくは周邊に在るかの関係より觀て、競争者の人數と等しく重要なものなり、一群に同列對峙せる競争者及び交錯對立せる競争社會群の競争の強弱を規定するものが純經濟的原因なる限り、吾人は、個々人の經濟的生活利害に對する個々取引の關係の疎密如何が利益競争者の競争の強弱を決すべき樞點をなせりと言ふことを得べし、然れどもこの樞點の表示は當該關係者の經

濟上及び社會上の地位に準じ區々として一定せず。

個々取引の意義は、差當り全交通經濟の發展に應じて種々に評定せられざる可らず、舊時代に多數者の活動が市場を目的とせずして、自家經濟、自家消費（自足經濟）を目的としたる限りは、凡そ商品及び勞働の販賣は多く利害相關せざる偶然的附帶事項と見做されたるの觀あり、此の如き状態は今日と雖も尙ほ屢々持續せり、農民及び土地所有者の一部分、其他田舎若しくは小都市に生活せる多くのものは、尙ほ幾分自作の生活資料に依りて生計を營み、その農民、手工業者若しくは日雇人として、生産物若しくは勞働力を販賣することは、亦以て重要なべしと雖も、而かもこれ決して無所有者がその勞働を販賣し、都市商人がその商品を經營する場合の如く、生存問題にはあらざるなり、家内に勞働せる幾千の婦人は、今日大都市に於て一日數時間を前貸人の下請負者の爲めに提供すれども、概して夫若しくは父をその扶助者となせるもの、これを以て單に家内勞働に依りて生計を立つるものに比するに、相互の競争に於て將た前貸人に對する利害衝突に於て、しかく劇甚を極むることなし。



吾人は更に一步を進めて、概して貧困なるもの生計に壓迫せらるゝものが富裕者に比し大體に於て多く競争機會に曝露せられ、富裕者並に自家所有の後権を有する者は個々取引を以て貧困者の如く急迫事項となさずと言ふことを得べし、而かもこれもとより富裕商人が營利衝動の發達強烈にして、多くの無資産者將た交通經濟に依りて未だしかく訓練せられざるものよりも劇甚なる競争に出づることを妨げず、この關係は概して極めて複雑し且つ變化に富み、從て取引急迫性のあらゆる場合と程度とをこゝに勝けて數ふ可らざるべし、こゝには先きにも屢々關説したる極めて重要な差別の二三を掲ぐるに過ぎざらん、この差別はこゝに論述せられたる取引急迫性の見地に依りて根本的に闡明せらるゝを得。

或は屢々主張して曰、販賣者は眞に絶對的に競争し、購買者—即ち消費者—は相互の間競争すること稀に若しくは全然競争せず、蓋し消費者は相互に殆んど何等の關する所なく而して販賣者に對抗する意味に於て毫も顧みざればなりと、これ販賣商人及び製造業者が、概して購買消費者殊に富裕消費者に比し、

個個取引上に更に大なる利害を感ずる限り、多くの眞理を含蓄せる主張なり、一磅のカップフィーを二三ペンニゲ高價に販賣するか若しくは廉價に販賣するかは、販賣者より觀る時はその利潤の大變動を意義すれども、購買消費者にとりてはその豫算(家計)の僅少額にして屢々殆んど顧慮せられず、加之廣く消費者階級は本來商品に關するの知識に乏しく、屢々消費に於てはその自家取引に際して行ふ所と全然相異し、不注意と無思慮とに失するの狀なり、富裕消費者殊にその妻子は旅行に際し將た商店に於て嘗て相場を問ふことなくして數百金を支出し、而して販賣者としてはその取引上に苟くも錙利を争へり。

近時「オープンハイマー」は經濟的及び社會的歴史を購買者及び販賣者の利益矛盾を基礎として説明を試み、而して次の如く論じたり、曰、凡ての購買者は相場騰貴の場合には皆一樣に購買を制限せんとする調和的利害を有し、その個々人の利害は總體の利害と一致せり、然るに販賣者は相場下落に際し、その個々人としての利害は總體のそれと一致せず、販賣者は皆一致して生産を制限することをなさず、能ふべくんば生産を増加し以て下落相場にて多量に販賣して從來



の利潤若しくは更に大なる利潤を得んとすと、かくして彼は進んで購買者相互が常に友情的平和的利益競争をなすに止まり、販賣者は則ち敵對的利益競争をなせることを證明せんとしたり、彼の銳利なる論述には極めて多くの眞理を藏すれども、概括及び構想に失し誇張したる點も亦少なからず、余はこゝに彼が結論に深く立ち入ること能はざるを遺憾とす。

「ウヰテ」夫妻も亦その名著産業的民主制に於て、現國民經濟に於ける競争の強弱を販賣者及び購買者の圖式を基礎として測定せんとしたり、謂へらく購買者は常に能く待つことを得べきもの、販賣者はなるべく急速に且つ如何なる犠牲を供してもその取引を締結せざる可らざるものなりと、先づ自家の労働を製造業者に販賣せざる可らざる労働者を然りとし、次では又大商人に對する製造業者も亦これに等しき急迫的狀態に在り、更に大商人が販賣者として小商人に對し、小商人が消費者に對する關係も亦これに類せりと、かくて「ウヰテ」夫妻は、交通連鎖上消費者より以て労働者に至るまで一段は一段より増大して雪崩の如くに膨大すべき競争の壓迫を、出來得る限り讀者の眼前に躍如たらしめんこと

を力めたるもの、この叙述は多くの眞理を含蓄すれども、而かも擧げてこれを信憑し若しくはあらゆる關係に適中せんには餘りに圖式的なることを免かれず、消費者が競争上常に小商人よりも優位に居り、小商人が常に大商人よりも優位を占むるとなすは正當にあらず、「ウヰテ」夫妻も亦自ら除外例を掲げたり、概してこれを言へば購買者及び販賣者てふ抽象的差別を以てしては競争の根本現象は未だ表示せられざるなり、吾人は單に下の如く言ふことを得べし、曰く、販賣者は屢々購買者よりも劇烈なる競争をなせりと、然れども亦購買者と雖も時として―生活危急に基することもあるべく將た營利衝動發達の結果に出づることもあるべきが―販賣者よりも劇烈なる競争關係をなせることなしとせざるなり。

競争に關し屢々問題となり來れる別の分類は農民と製造業者若しくは商人とのそれにして、近時尙ほ内閣局長「テール」はこれを次の如く説明せり、曰く、農業には利益競争將た生存競争の刺戟なし……最も勤勉にして最も有爲なる農民と最も懶惰にして最も遲鈍なる農民と、相互に何等の強制的影響を及ぼすこ



となくして能く多年間隣人關係を持続するを得べしと、これ農民が毫も負債利子を仕拂の要なく、市場に依繋せず、資産を獲得せんとするの意欲もなく、根本的に自家生産を以て生活し、年の豊凶もその剩餘生産の販賣に僅少の差異を來たす以外に自足經濟に影響する所なかりし限り、このこと眞理なり、「オープンハイマー」更にこれに附言して曰、農民は商人の如く一商品の相場變動に利益を感ぜざれども、多數商品のそれに利害關係あり、農民は相場の下落に際しても商人の如くに生産を増加し且つ近接市場を越えて他に向ふこと能はずと、余は次の如く言ふを得べし、曰、農民は商人の如く國民經濟關係に密に綜合せられず、未だしかく甚しく投機すること能はず、農民の營利衝動は永久に商人のそれと別なり、農民の道德的心理學的雰囲気は到底都市民のそれと大體に於て相異し、爲めに競争の渦中に猛烈に投ずること容易ならず、決して商人の如く敵對的競争の邪路に入ること能はず、然れども亦概してその事業力、經濟的勢力及び機敏の程度は商人に及ばざるなりと。

かく論じ來れば吾人は競争關係に於ける社會階級全般の差異に關説したり、

競争關係に於ける社會階級別は明瞭なる事實にして、實際家及び理論家より屢屢説明論議せられたる所なり、諸階級が經濟的利害競争場裡に交錯對抗せる限り、概してその一方は優勝力を備へ、商品及び市場に通曉し、富み且つ事業力に秀づるもの、例へば農民に對する信用媒介者、家内労働者に對する前貸人及び仲立人、労働者に對する大企業家、貧困なる家婦に對する小賣商人の如く、而して大小商品、原料鐵販賣者及び機械製造業者は、少なくとも大要に於ては市場に通曉せる力に於て相如けり、吾人はこの對立現象を幾分既に關説し、而してこゝにこれを勝つて數ふことを期する能はず、たゞ更に次の如く主張せざる可らざらん、曰、人格的特質及び所有に關し社會階級の間に益々不平等を致せば、單に諸階級の個々人に對し取引の急迫性に極めて種々の差別を來すのみならず、競争の結果も亦甚しく相異を生ぜざる可らずと、凡そ競争にして比較的同一特質を有するもの、間に行はるゝは主として以て力を鼓舞すべきも、甚しく懸隔せるもの相互の競争は則ちやゝもすれば野蠻となり、弱者は滅亡の運命を免かれず、常に階級の不同のみならずして尙ほ爾他の不平等之人種及び血



族の別をも問題とする場合に於て、このこともとより然りとなす、ポーランド及び露西亞の労働者が獨逸の労働者を、支那の労働者が亞米利加の労働者を壓迫するが如き場合には、この結果は劣弱人種を向上せしむること容易ならずして却てその全領域に於ける生計を墮落せしむるの危険あり、若し又男子労働よりも低廉なる婦人労働及び兒童労働を利とする場合には、これを以て男子労働も婦人労働も鼓舞激勵せらるゝことなく、恐らく不幸にして廣汎社會範圍に亘り身心上青年の全將來を危機に陥るべし。

相互に競争せる力が益々以て不平等となりたるは、これ競争場裡に同列し且つ交錯して對立するものが單に個々人のみにあらずして又衆個人の組織なることを意義せり、單に個々人間の競争なりし限り一單に労働者若しくは手工親方、又は單に家婦が市場に對立せる限り、その相互競争は恐らく到底微弱なりしなるべし、最も不幸なる場合即ち換言すれば労働者若しくは手工親方が自家職業に於て最早就職の餘地全くこれなき場合に於ても、尙ほ他に求めむ自家の力に及ぶべき労働場(就職口)を發見すべし、無職に陥れる靴工は門衛となり若しく

は讀書俱樂部の小使人となることを得、一商店將た小仕事場の閉鎖は、その持主にとりては如何に悲惨ならんとも、社會よりこれを觀れば決して大なる不幸にはあらず、個々人と小取引との競争は、大體に於てそれぞれの能力及び機巧に應じて所得を正當に分配秩序せんとするに外ならず、*「テュルギー」*及び*「アダムスミス」*時代に於ける利益競争は、殆んど此の如きに出でざりしのみ。

若しそれ個々人及び小取引の外、大倉庫、工場、大經營及び巨大經營の現はれ來るに及では、競争の作用全く革まらずんばあらず、こゝに於て人格的活力は更に社會的、精神的差等に依り且つ資産の相異に依りて愈々懸隔を生じ、大取引はその資力と信用と大利得とに依りて年々擴張し、而して以て小取引の顧客を爭奪することを得べく、即ち小經營を刷振しその力を激勵する意味に於ける競争の作用は、概して始めより認む可らず、大經營は屢々小經營を撲滅し、或は小經營の爲めにこれを愁訴するを不可となさず、然れどもこれに依りて社會全體が利益を得る限り、忍んでこれを除去せざる可らず、たゞ益々交通の増進するに伴て一切取引殊に大取引が相互に愈々劇烈なる利益競争をなす結果、



社會全體が果して單に利益のみを得べきか、若し然りとせばその程度如何ならんかは、實に議論の存する所なり。

其間活力を刺戟することなきにあらざれども、面かも實に競争の軋轢過程に必要止む可らざる資本及び労働の巨大浪費も亦これなきにあらず、余は、ジェンクスの報告に依り、最近亞米利加のトラスト調査より次の如く引證せんとす、曰、幾多の營業部門に於て今日廣告費用は巨大額に上り、若しこれを節約すれば、半額にて商品を提供することを得べし、諸方に派遣せらるる數百人數千の事務員は、二週間に顧客の許を尋ねて以て販路の爭奪に狂奔し、北亞米利加のウイスキー取引に於てかくの如き無益の支出は年々四千万弗と概算せらる、大州國家に於て個々取引の顧客が隨所に散在せる場合には、數百万弗は運賃の爲めに支出せらるべく、若し各購買者がその最寄の取引商店にて購入するとせば、この運賃は恐らく節約せらるべし、無能なるものが不適當なる地域に大設備を建つるは力と資本とを浪費する所以なり、北亞米利加合衆國に於て四十の大製糖會社が互に競争し、その十八會社が巨大損失を招きて破産したる際にはトラスト

トの成立となり、このトラスト尙ほこの外多くの製糖經營を閉鎖し、而して殘餘の經營を以て能く全需要を供給したり、相競争せる鐵道及び交通設備は諸國士一般に數百万弗の不要支出をなせりと。

されば交通完成し而して大經營の發達せる領域に於ける全競争組織は、最も強烈なる努力を促すと同時に法外なる浪費を致すの因たり、而して又巨大利益に依りて野蠻なる大膽不敵を横にせしめ、加之不正手段、印刷物の買収、場合に依りては議會及び裁判所、更に進んでは個々大臣を買収せしむ、亞米利加の大會社が政黨首領及び黨派に贈賄する所は、年々十万乃至十五万弗に上れり、而して畢竟この結果は、大經營合同してカルテルとなり、若しくは個々巨大經營が爾他一切の經營を併合し而して獨占を横にし、則ち全く競争を撤廢せしむること易々たり、相場協定は既に幾分このことを實行せり。

經濟的利益競争及び市場競争の起りてより以來、最も巧智なる利害關係者は苟くも此の如き合同組織を樹立せんことに努力せざるなし、今日にありて製造業者の合同、トラスト、リング及びカルテルは過去に於ては則ち商人組合（商



社)なり、この組織は市場に於ける利害關係者の群の爲めに最も有利なるものにして、若し或る獨占若しくは相場協定の勢力を得るに至れば、内に向ては競争を全然若しくは半ば抑止し、外に對しては益々結束を堅くし、攪亂の難ならしむ、獨占及びピリングに對する現代の傾向は、若し競争の壓迫しかく巨大ならず、年中一切利潤の期待を危ましむることなくば、恐らくしかく強烈ならざるべし、勞働者も亦、若し競争の壓迫にしてその全生計及び生存を危険ならしむることなからんには、しかく熱烈に職工組合及び職工團に依頼することなかるべし、立法の力能くかくの如き現象を禁止せんとし且つ事實上に禁止するも、常にこの禁止に踵を接して再び現出せずんばならず、「ウマブ」夫妻が、競争を禁止せんとする協定は競争そのものと等しく自然的現象なりと言へるは、敢て不當にあらず、競争統制は幾分これより發すべし、尙ほこれに就ては吾人更に考察する所なかる可らず。

こゝに當坐の結論を求むれば單純なり、曰、競争は人口の稠密、交通手段の發達、市場影響の増進に伴て益々増加すと、現に競争の及べる範圍とその力と

は、古來未だ嘗てこれが比類を求む可らず、競争は經濟生活に於ける古來の吞氣状態を廢除し、而してこれに代ふるに經濟的努力及び勢力を活躍せしめ、進歩に有利なる淘汰作用を催進したり、然れども經濟的利益競争にして或る限度を脱し、現に屢々然るが如く法外の劇烈を極め、その力相如かず遙かに懸隔せる社會階級の間、種々社會機關の間、益々膨脹せる諸組織の間に起るに至りては、その結果は單に廣汎社會階級を脅迫し壓制するのみならず、又幾多の隨伴的結果に依りて社會を蠱毒し、休止なき狂奔に依り怖るべき自利に依りて差當り生存競争に勝を制したるものを内的に破滅し、經濟的利益競争より更に階級戦争を生ぜしむ、これ苟くも聰明なる政策家の必らず廢除に力めざる可らざる所のものたり、經濟的競争にして經濟的獨占現象を生ぜしむれば、その國家統制若しくは行政に依りて監督せられざる限り、畢竟結果は則ち利益壟斷となり暴利貪濫となり屢々階級支配となる。

**百六十** 公開及び競争統制、その舊形式、千七百八十九年乃至千八百七十年の間に於けるこれが廢止、上陳の見地より吾人は先づ問はんとす、曰、公開に



依り、且つは一面結合團體と他面法律及び制度とに俟てる社會的競争統制に依りて、競争の不健全なる發達を如何に妨止することを得べきかと。

凡そ競争そのものは、衆個人の接觸、邂逅及び會談に依り、相場、商品蓄量、商品品質に關する參加者相互の測定に俟ち、將た參加者自身の調査し得べき若しくは他人より供示せらるゝ知識及び通信に繋れり、競争の方法に對し規定的作用を及ぼすべきものは、一般的經濟的教育の外、公開性の組織の當否あり、商人的印刷物の健全なると然らざるとあり、商人は取引に際しその遠からずして認識し得べきを知る場合には多くこれを中止す、供給及び需要に關する無知識は、一方が比較上甚だ不利なる地位に在る場合には、容易に利益を壟斷せらるゝの結果を招くことなきにあらず、公開性の機能なるべく善にして急速に且つ忠實なるは、以て利益競争の良果を致さしむべき基礎要素たり、嘗て市場行政の傾向が、一切の販賣者を一所に會合並列せしめて以て購買者をして能く状況を概觀せしめんとしたる、中世時代に於ける都市行政の努力が、呼賣者及び下請購買者をして各購買人に眞實なる報告を齎らさしめたる、現に尙ほ取引所

制度をしてなるべく眞實なる相場報告をなさしめんとする、皆是れが爲めならざるなし。

凡そ如何なる公開も一切人間をして平等に、市場、取引及び商品の事狀に通曉せしむること能はざるは論ずるまでもなし、而かもこれ詐偽と暴利とを悉く廢除せんが爲めには必要なり、されば吾人は凡そ想像し得べき手段を盡して苟くも可能なる正直の徳を一般に交通に流行せしめ、最高文明を發展し最も富裕なる國家の交通が、高尚なる商人の正直を基礎として始めて繁榮し、而してこの道德的前提が存せる限り能くその盛觀を持続したる所以の商業道德を深く銘記せしむるに努力せざる可らず、而してこの目標は嘗て努力せられざりしことなしと雖も、その成功は僅かに部分的にして或る範圍を出でず、一切の市場參加者が、自家及び社會に對する自己行爲の良果を概觀し、而してこの概觀に應じ將た然らざる場合に期待せらるべき社會的害惡に準じて行動するに至るは、尙ほ更に困難なり、このこと可能ならざるか故に、此の如き害惡を拒止せんが爲めに、道德、慣習及び法律の一般的規定を確立することを要し、その確立せ



らるゝ限り市場にも亦遂行せられざる可らず、換言すれば経済的競争は統制せられざる可らざるなり。

抑、市場及び交通経済の發達ありてより以來、競争も亦多少に拘らず統制せられたり、社會的總利害、即ち道德、慣習及び法律は、社會的軋轢過度將た吾人の所謂利害競争に對し、何等の方法にてか常に影響を及ぼせり、たゞ單に一切の私法及び刑法、一切の行政法、國法及び國際法が、或る意味に於て一切經濟的契約と契約の範圍と從て又競争そのものと對する規定を含蓄するのみならず、否、それ以外にも國家社會の總利害を基礎として常に多少の干渉なくんばあらず、競争が公開に依りて適當に統制せられざる場合、その取引生活を頽廢し利益壟斷其他の濫用を惹き起す場合に於て殊に然りとし、更に老ベッヒェルの所謂獨占競争主義若しくは多數競争主義（共倒主義）を發生せしむる場合、換言すれば即ち自然的若しくは法律的條件に依り、生産者が購買者に對し隨意に相場を騰貴せしめ得るの地位に至るか、若しくは狂氣的に相競争せる生産者の過大數が互に破滅するの場合に於て一般に然りとなす。

吾人は差當り過去を瞥見し、爾後、近世自由主義の協和的立法とその結果とを考察せんとす。

舊時代に於ける週市の秩序、手工組合法、留置法及び外人法を設定せる全部市經濟的組織は決して一切の競争を拒斥したるにあらざれども、尙ほ殆んど一般にこれを統制せり、即ち一方外人は通則として單に大量販賣を許可せられ、たゞ年市に於てのみ市民と同一の權利を承認せられたるに過ぎず、他方には農民の販賣も秩序せられ、手工親方の販賣も亦統制せられたり、絶對的専制主義は二三の此等秩序を廢除して更に別の秩序を立て、而してその保護關稅及び航海條例に依り、家内工業上の規定に依り、農民保護に依り、穀物商業の立法に依りて忽ちこれを補充したり、専制主義は或は屢々收支相償はざる競争を起し、或は現在の獨占を廢除し若しくはこれを國家行政の經營に移さんとせり、鑛山業、製鹽場、官有地及び森林、大經營及び模範經營、交通設備、銀行及び商會社が、第十七世紀より第十八世紀に至るの間、廣く國家行政に經營せられたること、後代の比にあらず、特權（レガリエン）の多數なりしこと當時の如きは未



だこれあらざるなり、此等の國家經營が國庫主義の弊に陥れるもの枚擧に遑あらざれども、而かも統治その宜しきを得たるものは尙ほ大體に於て社會總利害の精神將た國民經濟の催進を以て目標とせり。

國庫主義、國家的監督の誇張、新交通關係及び技術關係は、次で千七百八十九年より千八百七十年に至るの間、國民經濟の樂觀主義的自然法説に依據して以て極端より極端に走り、絶對的自由競争の福音を信仰せしむるに至れり、凡そ經濟制度の新發達は、なるべく多くの舊競争統制を急遽に廢除することを最も有效なる條件となせり、舊手工組合及び結社、舊商業統制の不利は、既に久しく痛切に感ぜられたる所なり、されば尊大に宣言せられたるこの經濟的自由の原理を出來得る限り極端に應用し、舊制限を排除してこれに代ふるに近世技術近世交通關係及び市場關係に適應せる新制限を以てせんとし、更に進んで一切經濟關係に對し無制限を要求したるは、これ自然の理勢なり、吾人は後段に凡そ經濟的自由が如何に競争催進に影響し、如何に力を解放し、如何に技術及び生産、商業及び交通を奨勵したるか、而かも亦忽ちにして新たに獨占競争主

義と多數競争主義(共倒主義)とを現出せしめたるかを單簡に概観せんとす。

營業の自由は、工業及び商業の經營に對する都市の舊特權を廢除したり、田舎に於けるこれが經營の競争は概して急劇に増加し、増加の傾向は延て尙ほ現代に及べり、都市の特權は既に久しく頽廢に歸せり、もとこれ都市とその市場とを設定し、一地方的集中に依りてこゝに商業及び工業を隆昌ならしめんとするの精神に出でたるが、今や久しく人口を夥しく都市に集中せしめ、生産を高價にし、田舎の經濟發展を妨止するに至れり、營業の自由は一地方的市場に對するその地域の手工親方の特權を廢除し、全國土の商品と親方とは今や相互に經濟競争を開始することを得たり、これ抑々技術的進歩及び諸地方間の分業の爲めに缺く可らざる發展なりとす、かくの如くにして從來手工組合に專屬したる業務は何人にもこれを開業し得べく、實に徒弟及び職人の年期を経ず、親方たるべきの試験を経ざるものと雖も亦不可あらず、新技術と新交通とに應ずる經營分業はかくして始めて起り得べく、廣く工業界に高尚なる技師と熟練なる商人と入り來り、組織進歩せる大經營の發達することはかくして始めて期待し



得べし、營業自由の結果は、凡そ親方及び企業家をして自由に手工職人以外の労働者をも使用せしめ、次では兒童及び婦人をも使用せしめ、一人にして能く多數の仕事場若しくは商店を所有せしめ、その取引を任意に擴張せしめたり、かくて千七百八十九年乃至千八百七十年の間、營業自由の結果西歐諸國が大體に於て發達せる所は、時宜に適し且つ裨益少なからず、その多くは引き續きて近世營業法の基礎となりしが、これを精密に觀察すれば缺點も亦甚だ多し、徒弟制度、日々の労働時間、賃銀仕拂、衛生上其他の商品鑑査等に關する舊秩序は、恐らく多く維持せられ若しくは直に近世的新形式に改むることを得たるべし、流行的時代潮流と大企業家の貨幣利得に對する寛容とは幾多の失策を生ぜしむるの機會となり、最近二十年代乃至四十年代以來營業秩序を目的とせる新條令に依りて再びこれを救治せざる可らざりき、多くの小地域にありては營業の自由とは久しき間たゞ單に、技術上商略上何等進歩と關する所なき懶惰なる若干獨占主義者をして徒らに社會公衆を支配せしむるの謂に外ならざりき。

家内工業的舊規定の廢除、家内工業の舊規定はもとより技術的進歩を沮害し

たることも屢々これありたれども尙ほ大體に於ては前貸人、下請負人及び家内労働者の競争を種々に統制し來れるが、千七百八十年乃至千八百五十年の間にこれが廢止となり、而かも舊規定は新たに發達せる諸工場相互の競争に適應せざりしが故にこれが廢止は必要なりき、この結果は殆んど一般に競争を過劇ならしめ、則ち隨所に技術的進歩を促し、家内工業を擴張し得たれども、他面には小家内労働者に對し下請負人及び仲立人をして嘗て禁止せられたる利益壟斷を擅にせしめ、甚しく賃銀を下落せしめ、廣く労働者階級を賤民化せしめ、而して兒童、婦人及び貧弱労働者の數百萬人を生活危急に沈淪せしめて始めて能く發達し得べき寄生的工業を催進するに至れり。

第十六世紀以來舊手工組合のそれと別に發達したる新工業は、諸國に於て概して第十九世紀の前半に及ぶまで、國家の認可に依り、株式會社、其他の大經營及び巨大經營、新交通設備、保險業及び銀行業も亦認可を要したり、國家及び警察はこれを以て大經營の成立に干涉し、即ち欲望と販路可能とに應じて認可を與へざる可らざりき、これ一には多少競争を統制することゝなれり、然れ



どもこの任務は煩はしく、これが實行は屢々敏活を缺き且つ黨争の具に供せられ、官廳の専門知識は不充分なりき、賄賂及びその他の費用は不評判を招き、議會が認可を討議する場合、例へば英蘭の如きに於ては、この結果決して改善を期す可らず、却て高價にして緩漫に且つ黨派の利益の爲めに犠牲に供せらる、されば全認可組織が自然的調和的國民經濟の期待と矛盾し、或は全く廢止せられ或は幾分撤去せらるゝに至れるは最も會得し易き理數なり、これが廢止は屢屢良結果を齎らし、加之殊に小取引の場合に於て概して恐らく好影響を及ぼせることは否認す可らず、競争は増進し來り、供給及び需要は自ら警察に優りて多くの部門に於ける取引數を規定することを得たり、企業家の自覺獨立は愈々顯著となれり、然れども大なる不祥状態も亦隨所に起れり、即ち酒店業、擔保貸付業、小賣商店、下等娛樂場及び其他の幾分好ましからざる經營が夥しく増加せることは是れなり、單に資本利殖上の打算より、存在の理由如何はしき幾多の企業が擴張せられ若しくは創立せられたる事例は、敢て珍となすに足らず、こゝに於て幾時なくして少なくとも個々營業種類に對し社會欲望に準據して認

可すべきの舊方法に復歸せり、巴里に於て千八百六十六年乃至千八百八十年の間、麵包製造業の認可及び麵包價格規定を廢除したる結果は麵包製造業者を増加し、取引を小規模ならしめ、麵包價格を騰貴せしめ、技術的進歩を沮止したり、普通株式會社の認可を撤去してより、諸國概して一時競争を狂熱的に劇甚ならしめ、大經營を有利ならしめ、その隆昌時期に當て資本は極めて自由に流用せられ會社創立者をして大利潤を收めしめたるが、又輕舉、詐僞、過剰生産を隨所に助成せしめたり、かくて識者は既に、リッダ及びカルテルがその新競争營業に對する競争禁止の政策を以て事實上眞に再び一種の認可強制に至り、而してこの認可強制は舊官僚主義のそれに比して恐らく業務知識に富み而かもしかく黨派的濫用に失することなきを得ざるかに疑を懷けり、多くの領域、例へば交通業、保險業及び證券發行銀行の領域にありては、認可の原理は未だ嘗て撤廢せられず、獨り供給及び需用に放任して顧みざるが如きことあらず、大英國の現状に關する學者の説に依れば、英蘭に於ける一切資本の四分の一は議會の認可を要する經營主として鐵道に投せられ、此等經營は競争の壓迫に陥る



の危険なく従て又獨占配當を仕拂ひ得るの状態に在りとなり。

移住の自由、土着の自由及び國際的移轉の自由は千八百年乃至千八百七十年の間に成立し、新關係に順應して人口を配置分布せんが爲めに缺く可らざる手段たり、これが爲めに競争益々劇甚を加へ、賃銀は騰貴せり、而かも裏面の惡現象として、常に經濟上の目的のみならず享樂欲及び其他の不利なる動機も亦この人口來往を支配し、田舎は幾分人口を奪はれ、これと相應じて工場地方及び大都市には労働者の大群來集し、この労働者群は一朝僅かに景況の小惡變に際して貧民救済の保護を仰ぎ且つは危急労働に就かざる可らず、又人種及び生計上劣等労働者の襲來するが爲めに、多くの地域に於て貧民の生活状態を昂進せしめんとする一切の努力を水泡に歸せしむることあり。

舊封鎖組織及び保護組織の極端なる誇張に對すれば、千七百八十年乃至千七百九十年の間次では再び千八百十八年乃至千八百四十年の間に發せる國際的自由商業の濫觴と、千八百四十五年乃至千八百七十五年の間に優勢となりたる自由商業の觀念とは一大進歩なり、廣汎なる國際的分業はこれを以て始めて可能

となれり、今や各國土はその最も熟練する所の生産に従事し得べきの可能全く過去の比にあらず、愈々昂進せんとする國際的競争は、諸國土をして技術上經濟上に進歩せしむべき主要の強壓手段たり、然れどもこの強壓は忽ち一方に裏面を曝露せり、自由競争は絶對的に、自然上及び其他經濟上の條件最も卓絶せる國土を利するのみ、貧弱國土は、嘗て幸にもその分野たりし生産の個々部門を失ひ、而してこれを償ふべき爾他部門の進歩あらず、かくて識者は、大獨立國が主要經濟部門將た最も重要な工業を或る程度まで均等に發展せざる可らざること、例之歐羅巴の若干國土に於ける農業經濟の衰亡は、たとへこれが慰藉の爲め南北亞米利加及び濠洲に於ける農業の隆昌これを償ふるに足るものありと聞きたればとて、毫も安堵するに足らざることを洞察せざる能はず、よし我が獨逸に在りて特殊にして且つ小規模なる工業の衰微せる場合にも、これに代ゆるに他の工業部門の進歩を以てせる限り、尙ほ能く忍ぶことを得べし、然れども若しその總體が自由商業に依りて障害せらるゝに及んでは則ち然らず、この故に吾人は今日再び、國際的競争には必ず或る制限なかる可らざること、絶對